

024142-000-9

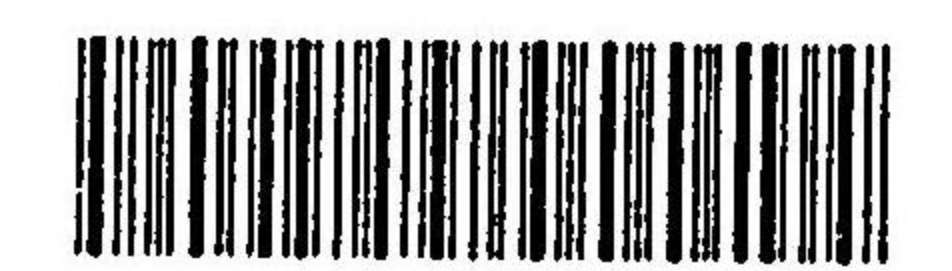
特28-815

東京土産

原田 真一(竹外) / 編

M22

ADC-1293

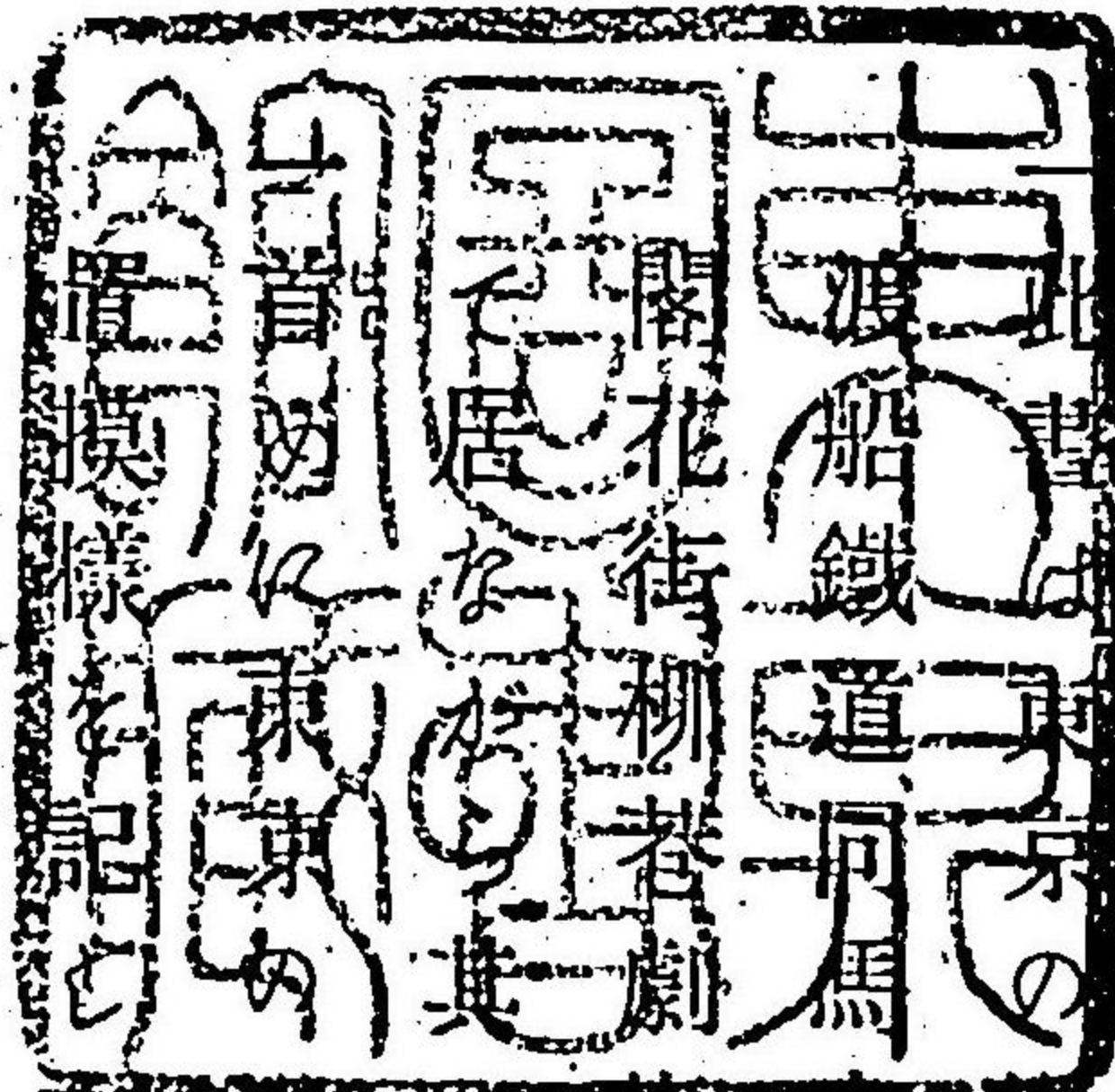


特28
815

№23289/
22

東京土産

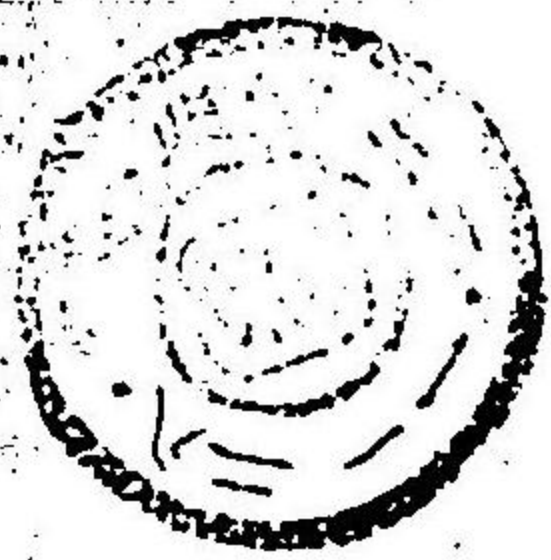
凡例



此書は東京の沿革宮城離宮官省兵營より市街橋梁渡船鐵道同馬車會社商店工場公園名所舊跡神社佛

花街柳巷劇場の位置景況等を略記したるものに
居ながら其
班を知るの便となしぬ
首めに東京の沿革を略説し宮城離宮官省兵營の位
置模様を記す次に市街に屬する橋梁渡船鐵道同馬

車會社商店工場を掲ぐ但し市街は日本橋を本とし
て市の内外に係らる西南西北東南北と漸次に其位
置景況を示せり



一公園は當時七公園と稱するものを掲げ名所舊跡神社佛閣は方今の形状を模寫し且瀛車馬車人力車等の便あり大凡一日に往來し遊覽すべかりしものを載す

一花街柳巷は妓樓娼妓藝妓の全盛遊興の体裁を概記し劇場は位置概況を記すに過ぎざ

一東京は本邦第一の大都會にして日新開明の基たる地にあれば日に月に觀を更め従ふて記すれば従つて變ること多し殊に漸次市區改正の設計あり故に此書は今日の形状を記すのみ

東京土産

玩古道人校閱
竹外居士編述



東京の記

東京は舊江戸と稱ふ武藏國の東南隅あり豊嶋荏原葛飾の三郡に跨り北の荒川又界し隅田川の東又本所深川あり東南の東京は臨めり地勢の昔名おし負ふ武藏野おれ西北の隅田川起伏し沙漠たりしが今の東西二里餘南北二里餘の大都會とありよき抑も此地の治承年間源朝が鎌倉の覇府を開けるとき江戸太郎重長といふもの既に居たりしかと足利義政の時お至り上杉定正の老臣太田持資入道瀧豊島郡峽田領江戸の地に始めて居城を築き江戸城と号けたりしより江戸の號あり其後康正年間

持資譏せられ其主のため又亡び定正、朝良、朝興これに居たりしが北條氏綱に陥れられ氏綱、氏康、氏直相繼ぎてこれを領し其臣遠山左衛門尉城代たりしとき没落しければ豊臣秀吉、徳川家康にこれを領せしめたり其れより家康幕府を開き列藩諸侯を統帥し天下の政權を執るの所とあり子孫相繼ぎ慶應三年慶喜の將軍職を解くに至るまで十五代二百七十餘年なりしが王政復古の御代となり明治元年鎮將府を此に置き江戸を更めて東京と稱へさせられ二年車駕東幸し給ひて永く皇居の地と奠めさせられたり是に於て文武の諸省を設け鐵道を敷き電線を架し其規模を宏大にし内外の交通を開きぬれば市街の繁盛商工の隆昌日お月お加る實は皇國第一の都會ありき

宮城の徳川歴世の居城にして舊西城と稱し昔時は天主閣

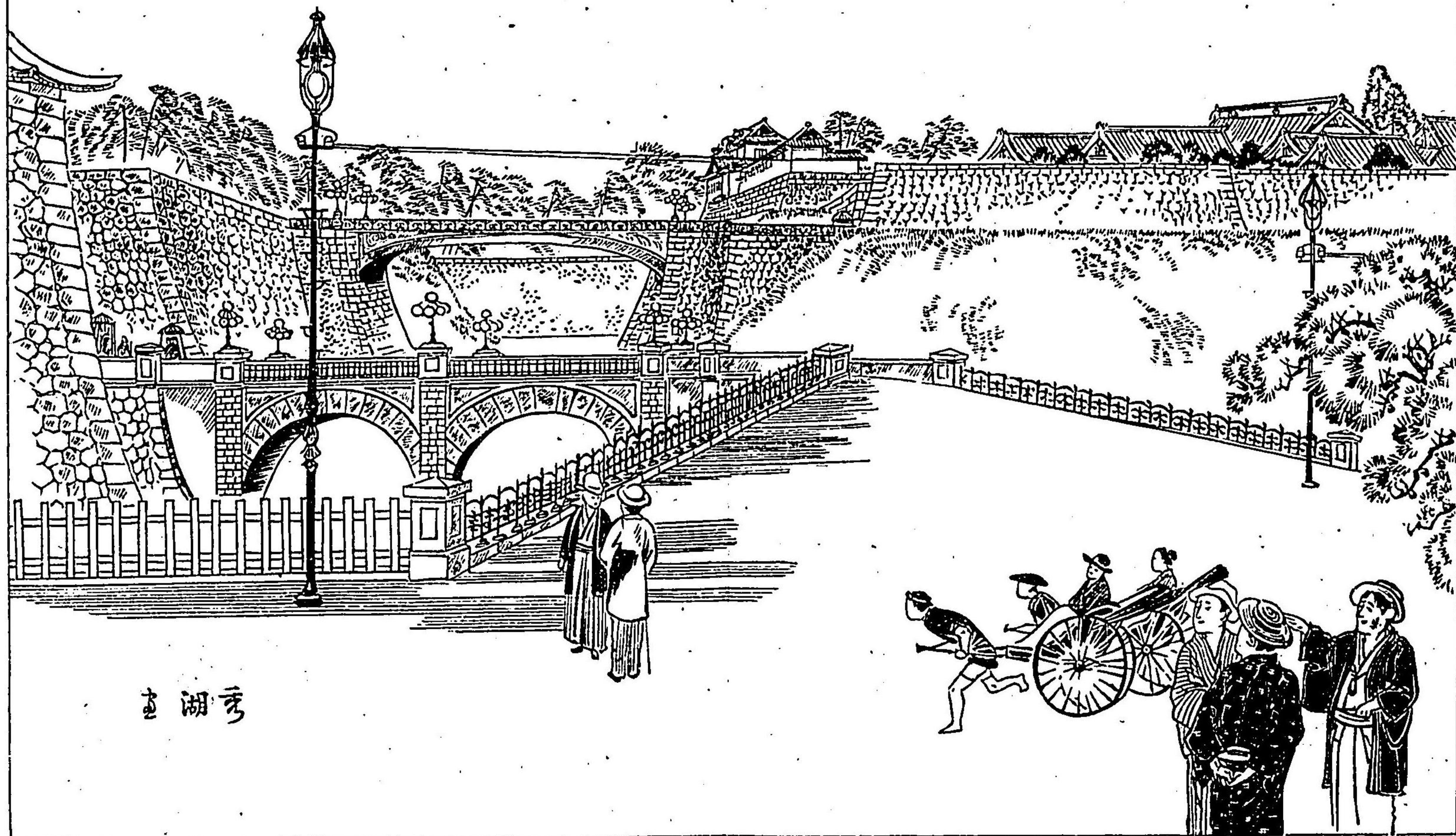
高く雲に聳えしが明暦の災に焼失し其殿閣も亦文久三年炎熾して後の復び修築おかりし明治二年皇居を此に定めさせらるゝや六年五月宮殿悉く炎上し烏有とありぬ是に於て畏くも兩陛下の赤坂の離宮に御遷坐おらせられ十六年七月に於て御造營お着手せられ昨二十一年十月を以て鳳閣功を竣へ且宮城と稱へさせられ一月十一日遷宮の典を擧たすひぬれば皇基益々確として祥雲紫霞を擁し瑞氣郁々威嚴赫々として天日と共輝きぬ

今宮城の概況を記さん宮城の總建坪は一万二千七百三坪餘として表宮殿二千三百十坪餘宮内省千九百四十七坪餘近衛三百五坪餘合計四千四百六十二坪其他は裏宮殿おして謂ゆる九重雲深き所にしあれば我々蕪蕪の夢にだも知る能はざる所あり御造營お關係おせし人々は幹事に

平岡通義、大野利新、白川勝文の三氏、又粧飾掛まけの山高信、離氏、憲掛等の掛かの荒川新一郎氏、西洋器具の買ひ上げおよび据付掛たてかには片山東熊氏、製圖掛せいずに立川、樋口、木子の諸氏なり。さして御車寄を入りて、眞直に進めば正殿にして、此處の謁見ちやくけん其他萬般の儀式に用ゐらるべき筈なるが、其左右の化粧の間、其北部の溜たまりの間あり、而して正殿および東西兩溜りの間、東西兩化粧の間の壁窓掛かまどと何れも千年乃至八百年以前の模様ある織物を以てこれに充てられ、東化粧の間は、東京の畫工なる瀧和亭、野口幽谷二氏の畫を用ひさせられ、西化粧の間は、西京の畫工なる久保田米仙、幸野株嶺二氏の畫を用ゐられたり。

豊明殿の内外百官に宴を賜るべき所ところにして、其西部の宴會後の休憩室きゆうけいしつあるが、この室を後席の間と稱ふる趣おもむきあり、豊

宮城二重橋



秀湖

明殿と後席の間との共六百年以來の織物を以て粧飾な
させらるゝ中おも後席の間最近のものをを用ゐさせられ
花卉數多の粧飾をさせられしよし西溜りの間後席の間
の西に沿へる通路より西の方の裏宮殿にして兩陛下常の
御殿皇太后宮陛下の臨御殿謁見御殿等ありて殿内通路の
幅員の大抵二間あるよし承りぬ

禁苑 宮城の北隅にあり吹上禁苑とよぶ域内廣くして假
山池亭の設けあり緑樹各所鬱蒼し翠草の艶麗の花弁と
相交り樹間に泌沸として清水點滴し深山幽谷の趣きあ
り其間雅麗の亭榭位置相擁し就中にも西丘の離亭とよべ
るの眺望佳絶おして近くは櫻田霞ヶ關遠くは芝浦を瞰め
房總の翠巒々たる其間に白帆の明滅する宛然濱千鳥
の飛ぶ如く風光明媚あり釣橋の溪澗に架する鐵橋よま

て長さ四十餘間幅三間餘鐵の欄干より菊桐の御紋を鐫り
兩端の四方に磚石の高柱を建て鐵線懸け橋の全体を鈎
りぬ其構造堅牢にして美麗なりしが宮城建築のときより取
拂ひとありたり

紅葉山 城内の東の方より舊時徳川氏の寢廟ありし所
よして古木陰森鬱茂して頗る幽邃の佳境あり其以前まで
の時々庶民お拜觀をゆるされしが今これを停められけ
れば其景況等も委きを知る由なかりけり

離宮

赤坂離宮 元赤坂町にあり今年一月十一日宮城へ御遷幸
あらせられざるまでの假皇居と稱へさせられ明治六年皇
城炎上のときより十七年間 畏くも宮居し給ひし離宮
よして今域内に元老院を置かる

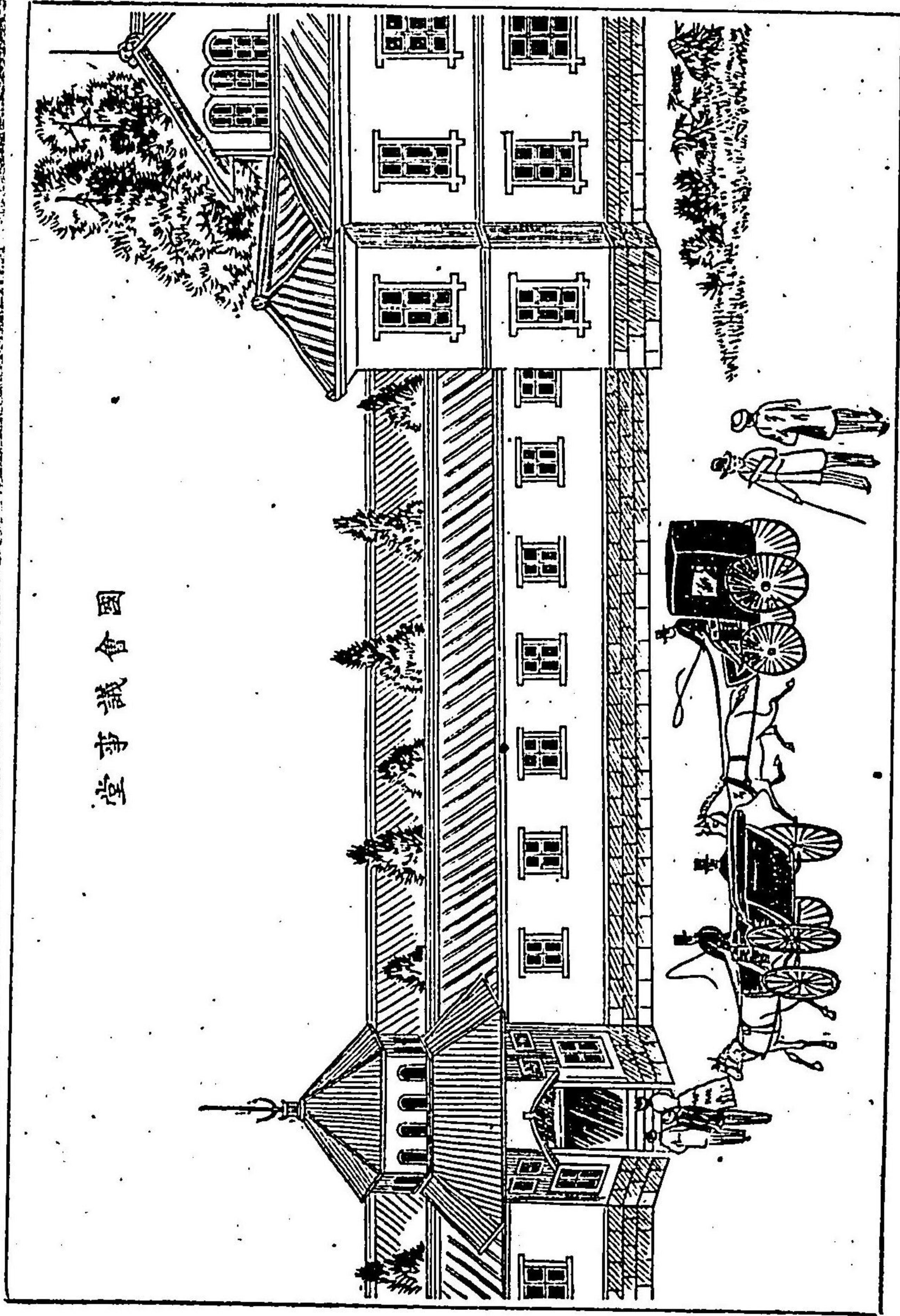
濱離宮 新橋の東南より舊御濱御殿とよびたりし所よ
して城内廣く園庭雅麗にして池塘を繞らし池上より長橋を
架して橋上より藤棚を懸け花時の甚だ奇觀ありしといふ且
東京灣に臨みて眺望最と麗るはし域内に延遊館あり大夏
巍峨として深樹鬱蒼の間に聳之外賓を接待するところあり

青山御所

青山御所 皇太后陛下の宮居したまふ所よして元赤坂
町よりあり

國會議事堂

國會議事堂 帝國議會の會堂よして内幸町に建築中あり
此の假りお設立せしものされば其結構の敢て善を盡し美
を極むといふよりあらざりしも上下兩院附屬室とも完く



國會議事堂

官 省 兵 營

備りて總建坪千二百五十八坪餘あり且堂の内外とも虚飾
 なく淡白ありし蓋し會堂の結構ハ完美あらざるも敢て國
 威を損するまわらず明治二十三年愈議會を開くに當り代
 議士の任に撰まるゝもの憲法の趣旨のある所を体認し其
 職を盡し内の善良の成績結果を顯し外の帝國議會の光榮
 を宣揚し長くも我 大君の御心よ奉答し我國の幸福安寧
 を謀りつることこそ願ふところにして我帝國議會の名聲
 を外國に輝かすべけれ

官省兵營

大藏省、内務省、農務省 三省ハ大手町に鼎峙す内務省ハ域
 内廣く園庭頗る雅麗なり其東ハ印刷局あり結構宏麗あり
 紙幣印紙類を製造する所にして官用のみならず民間の依
 頼に應じ株券の類をも印刷せり

東 京 土 産

司法省、大審院、警視廳 八重洲町に並び立てり大審院警視

廳の結構壯大にして宏麗なり

外務省 霞ヶ關あり其地高く結構も亦宏麗にして善美

あり

參謀本部、陸軍省 共日比谷練兵場の西北の高阜に聳え

參謀本部の園庭雅麗にして外觀を窺ふも自ら威嚴あるが

如し

海軍省 赤坂葵町にあり外觀敢て宏麗からざるに自ら海

防の急を務め擴張を謀り軍威を海の東西に示めずを知る

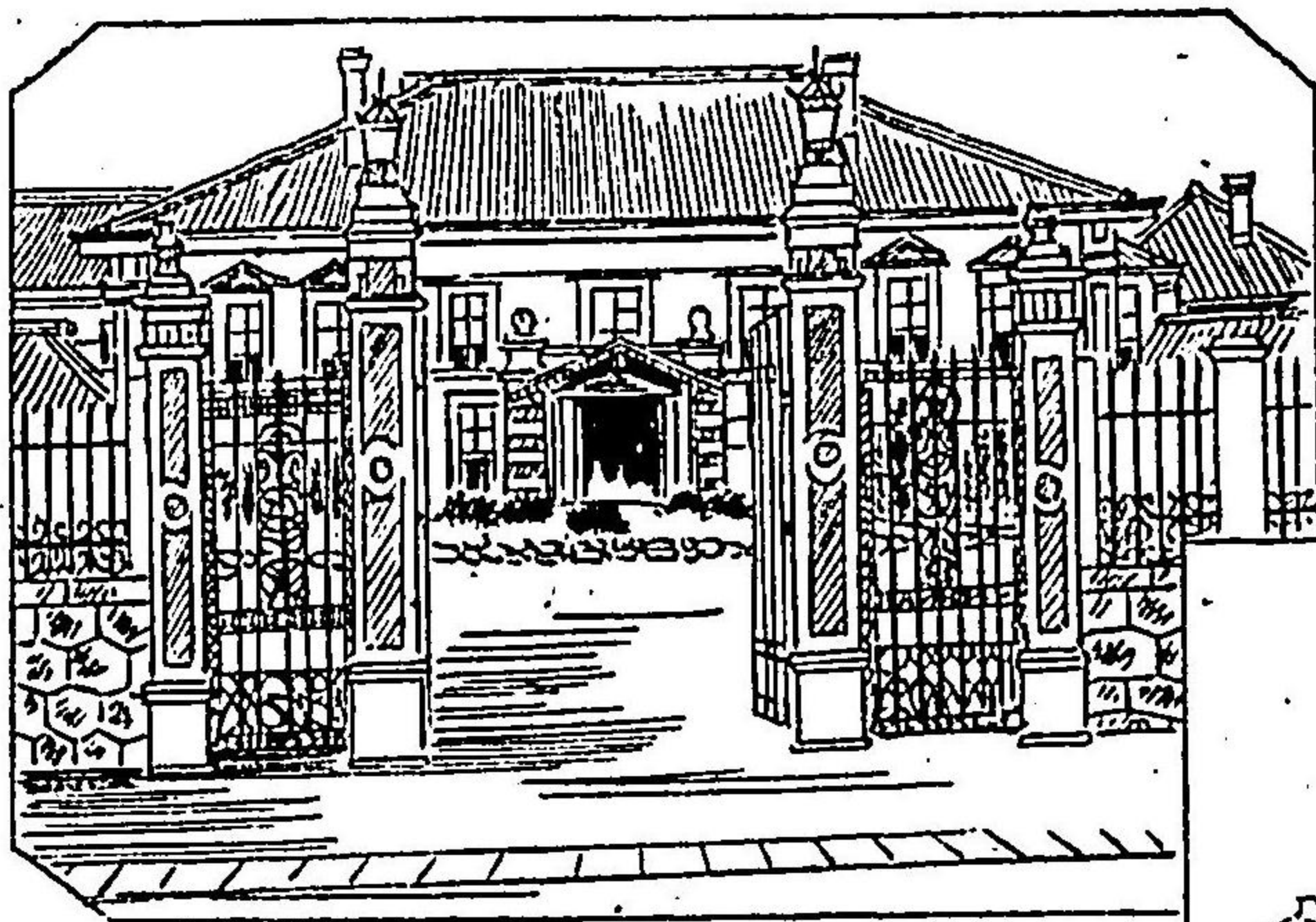
べし

文部省 竹平町に設く教育を管する所にして其結構自ら

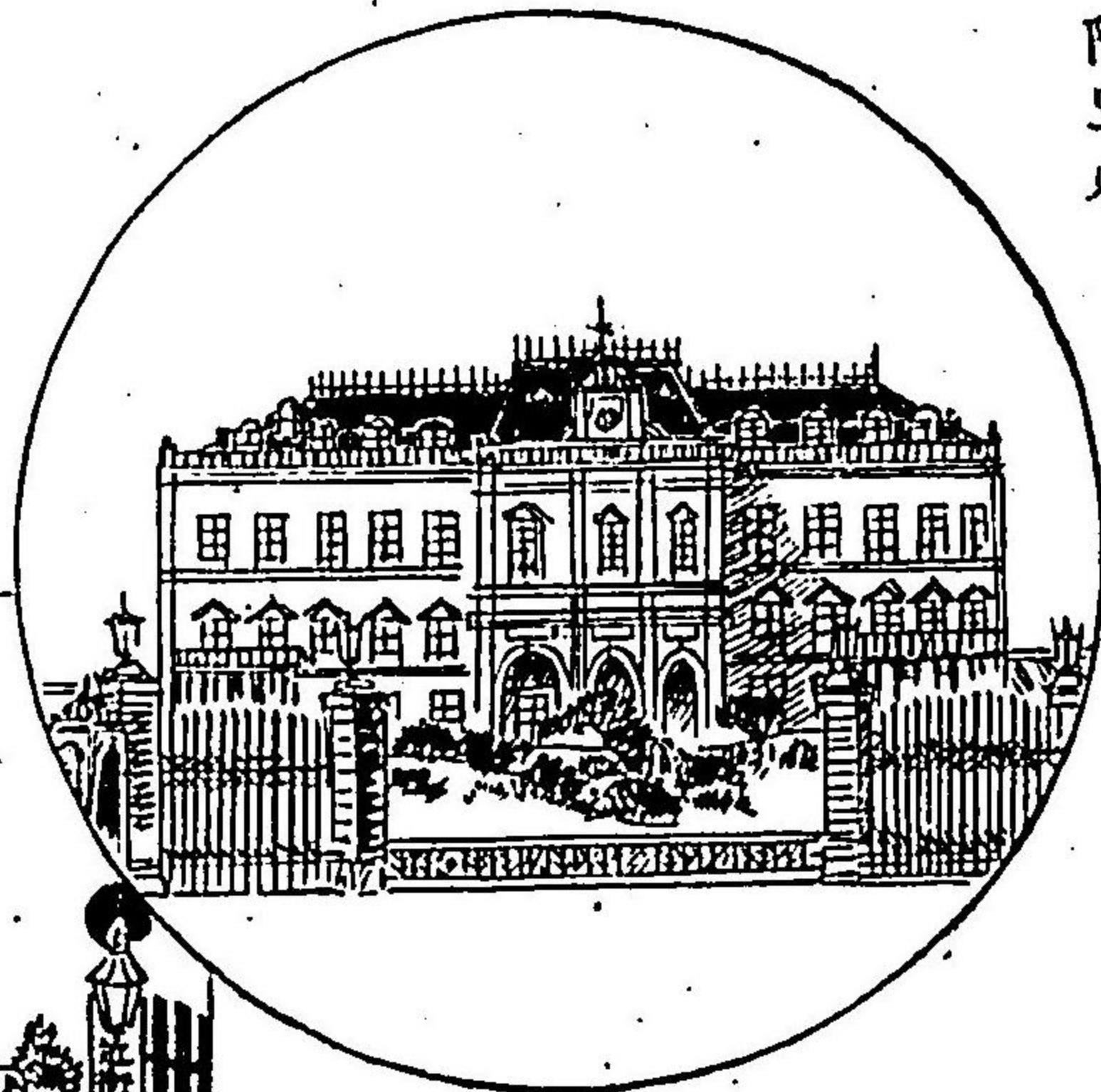
優美あり

逓信省 木挽町八丁目あり舊電信中央局にして驛遞局

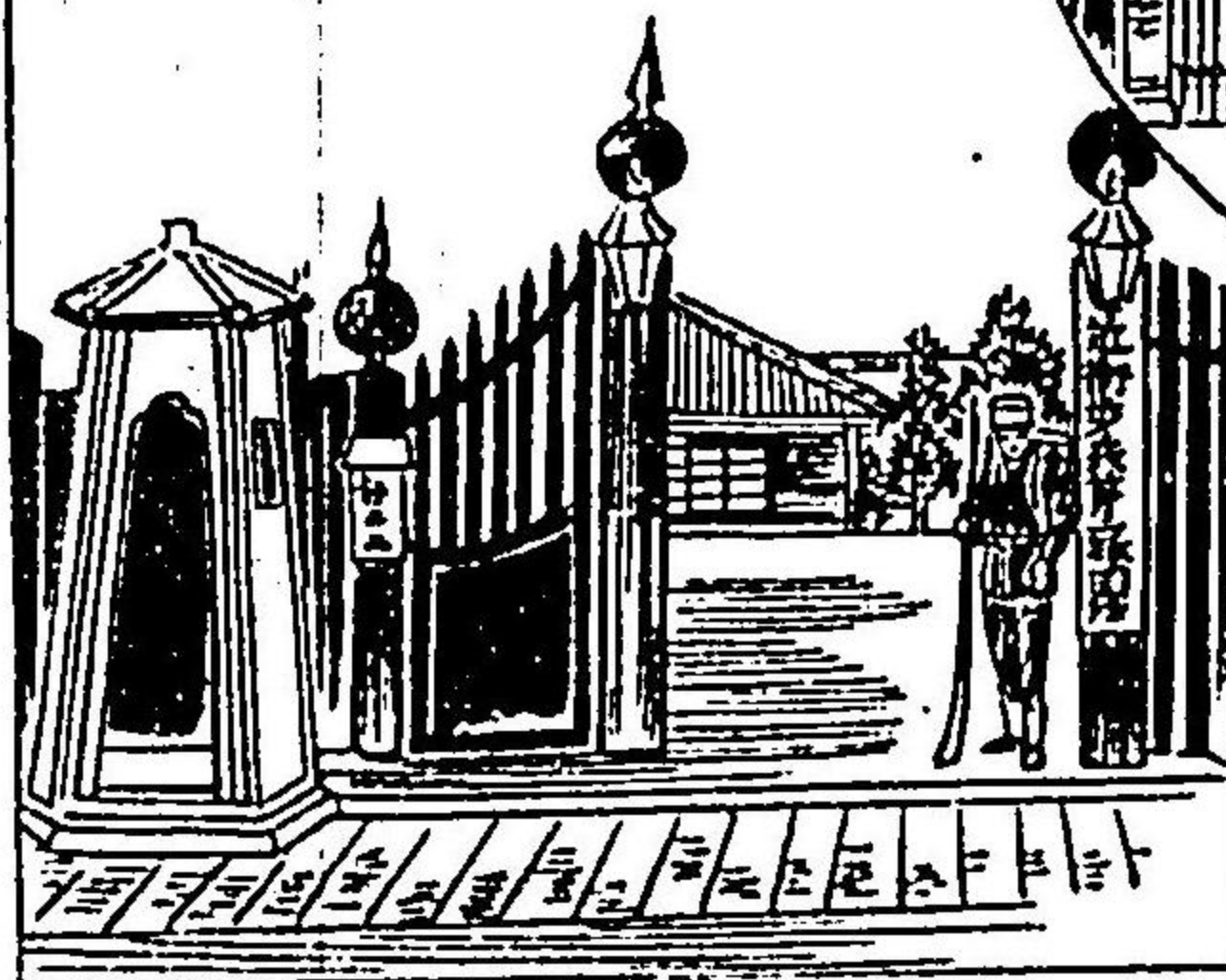
外務省



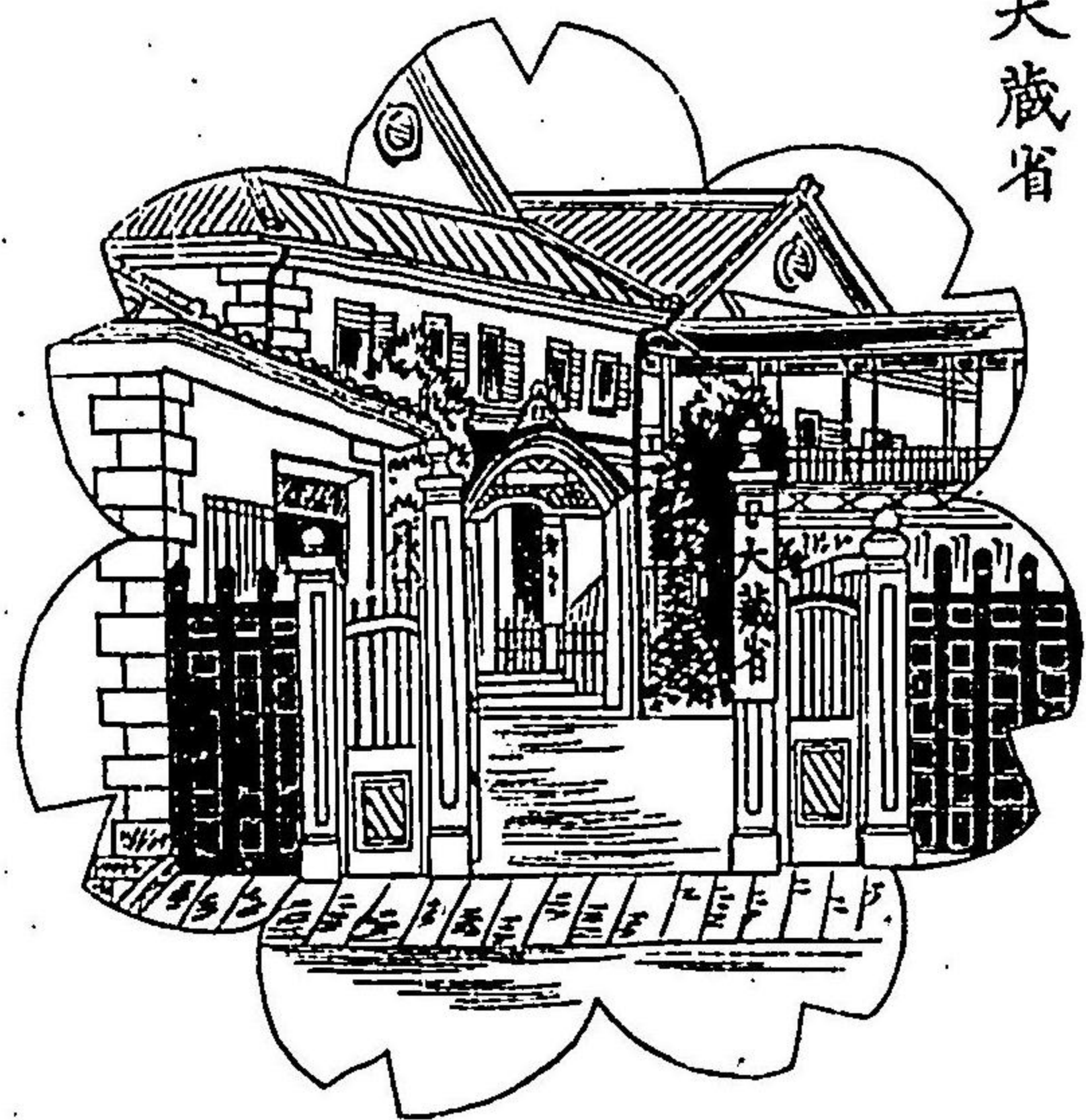
陸軍省



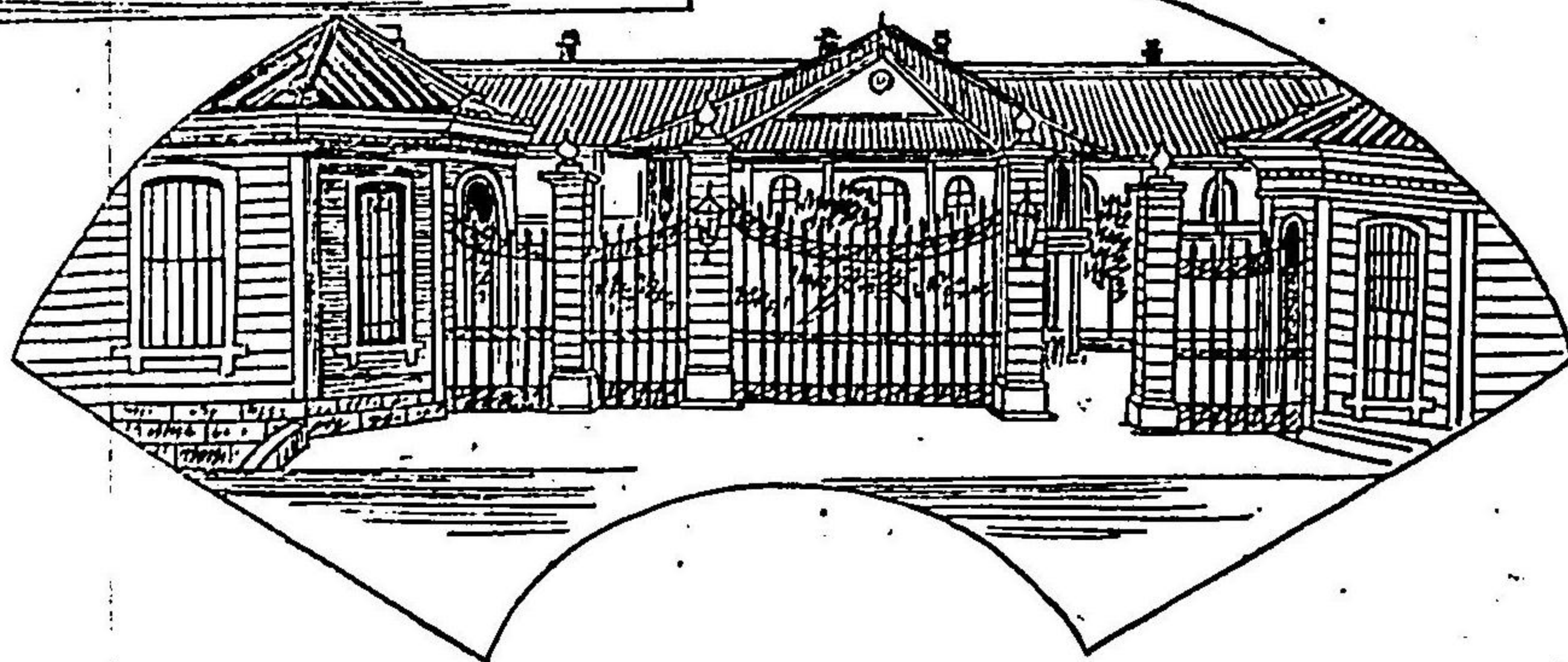
東京鎮臺



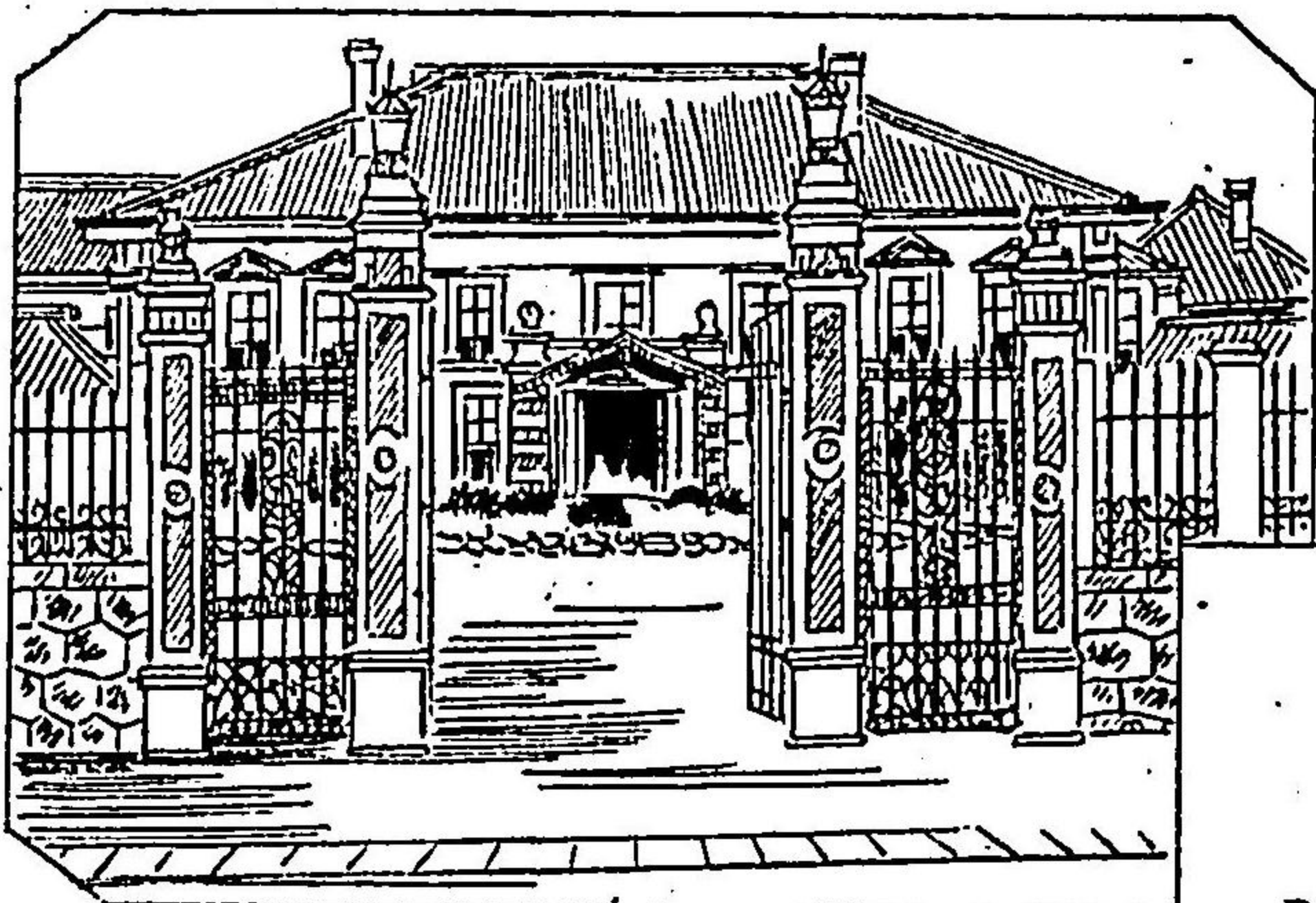
大藏省



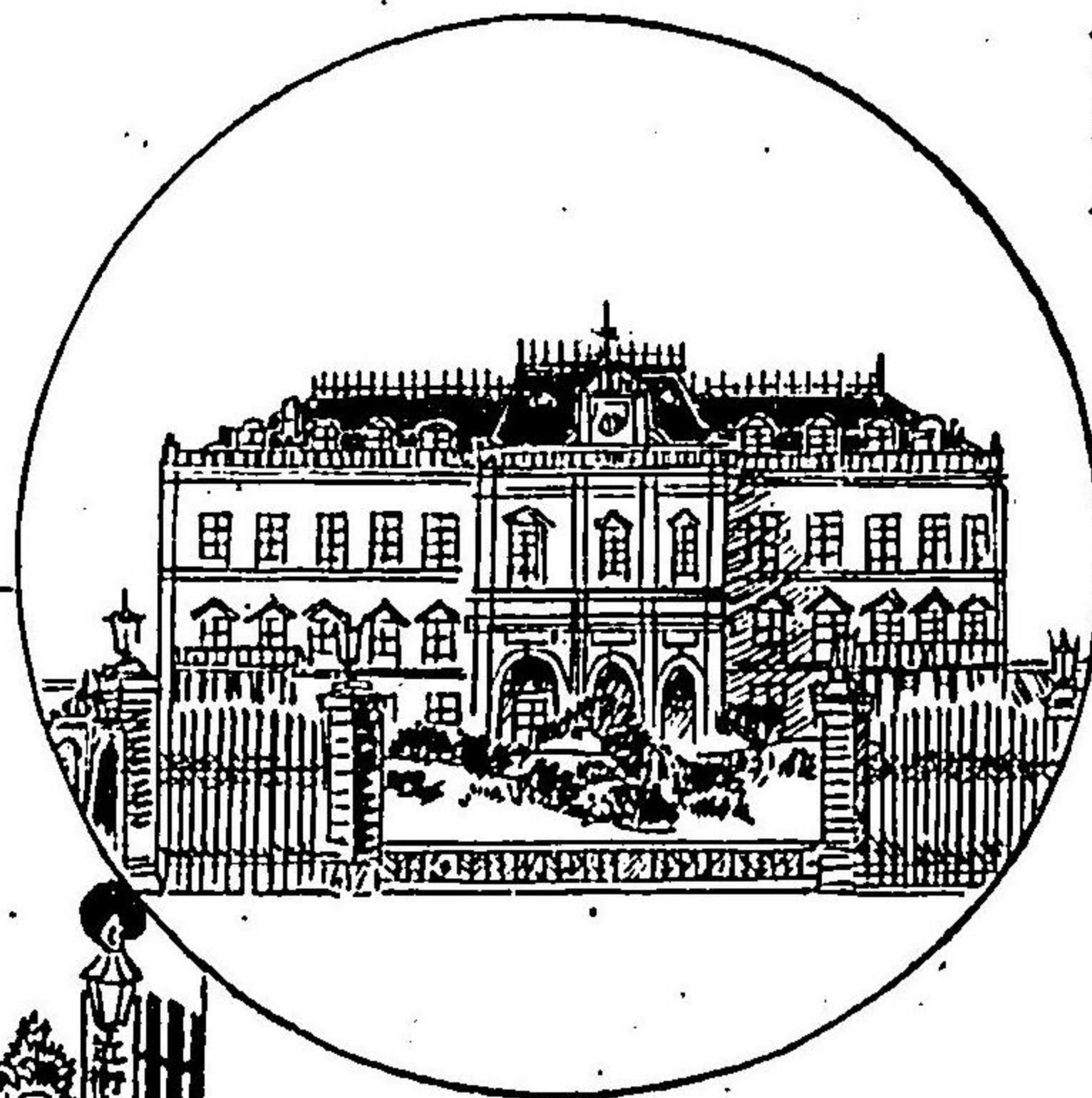
内務省



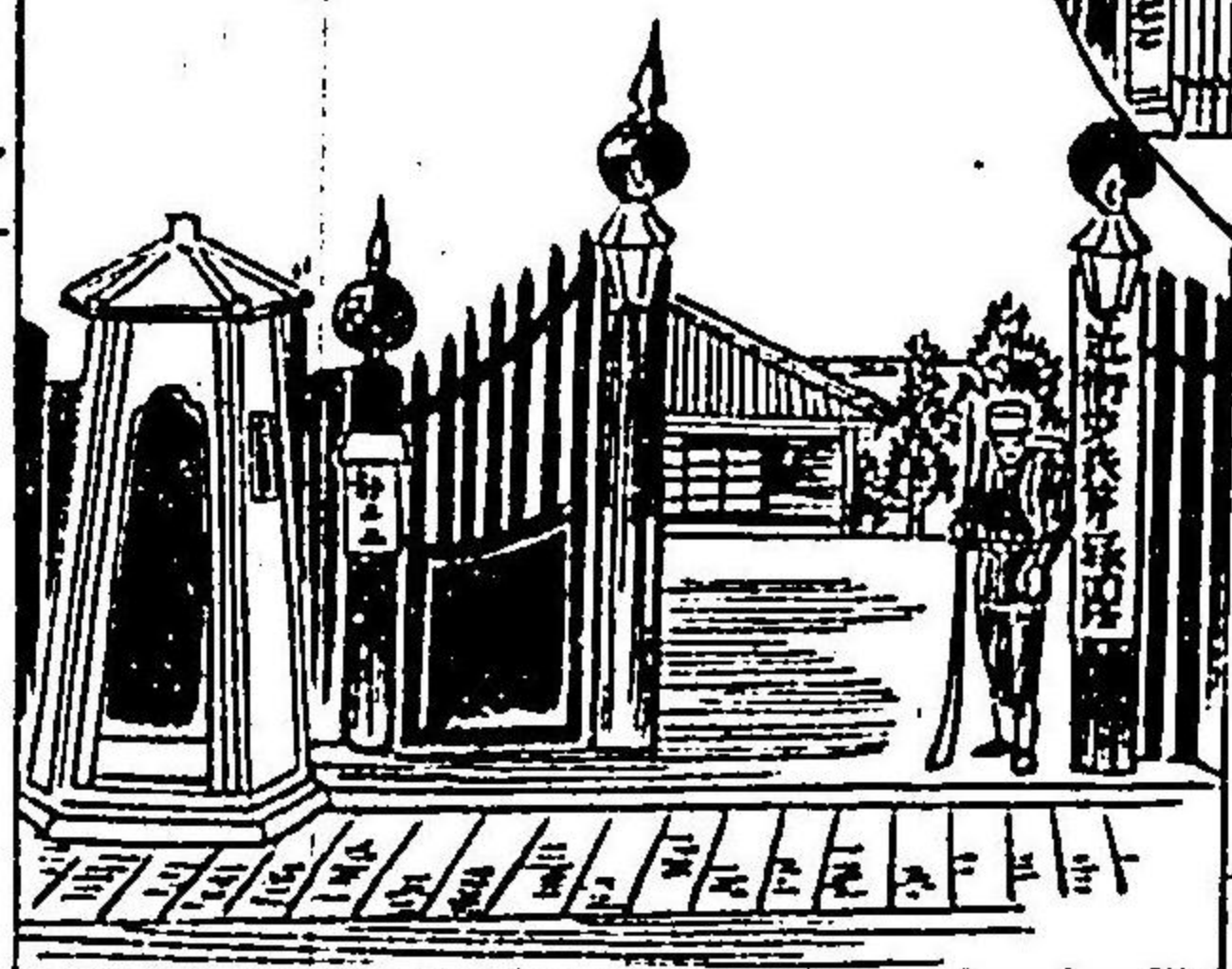
外務省



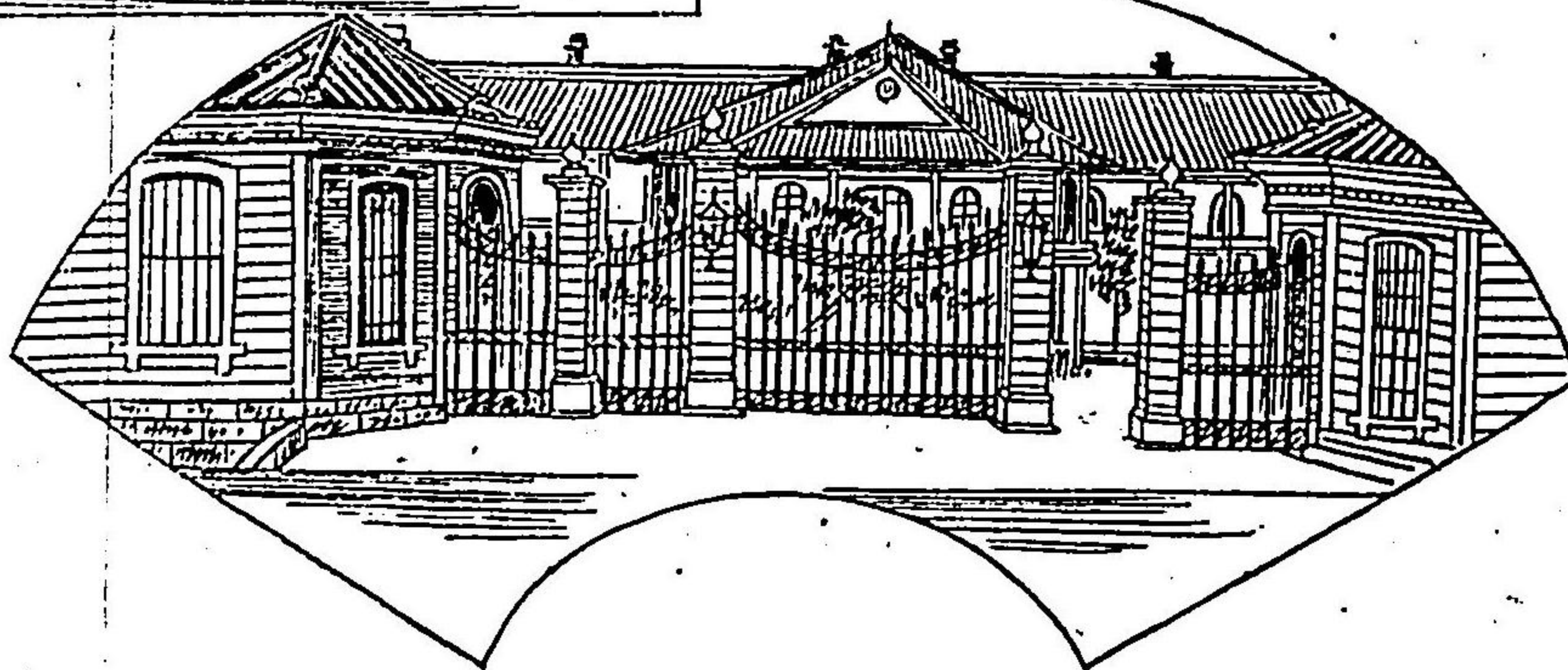
東京銀臺



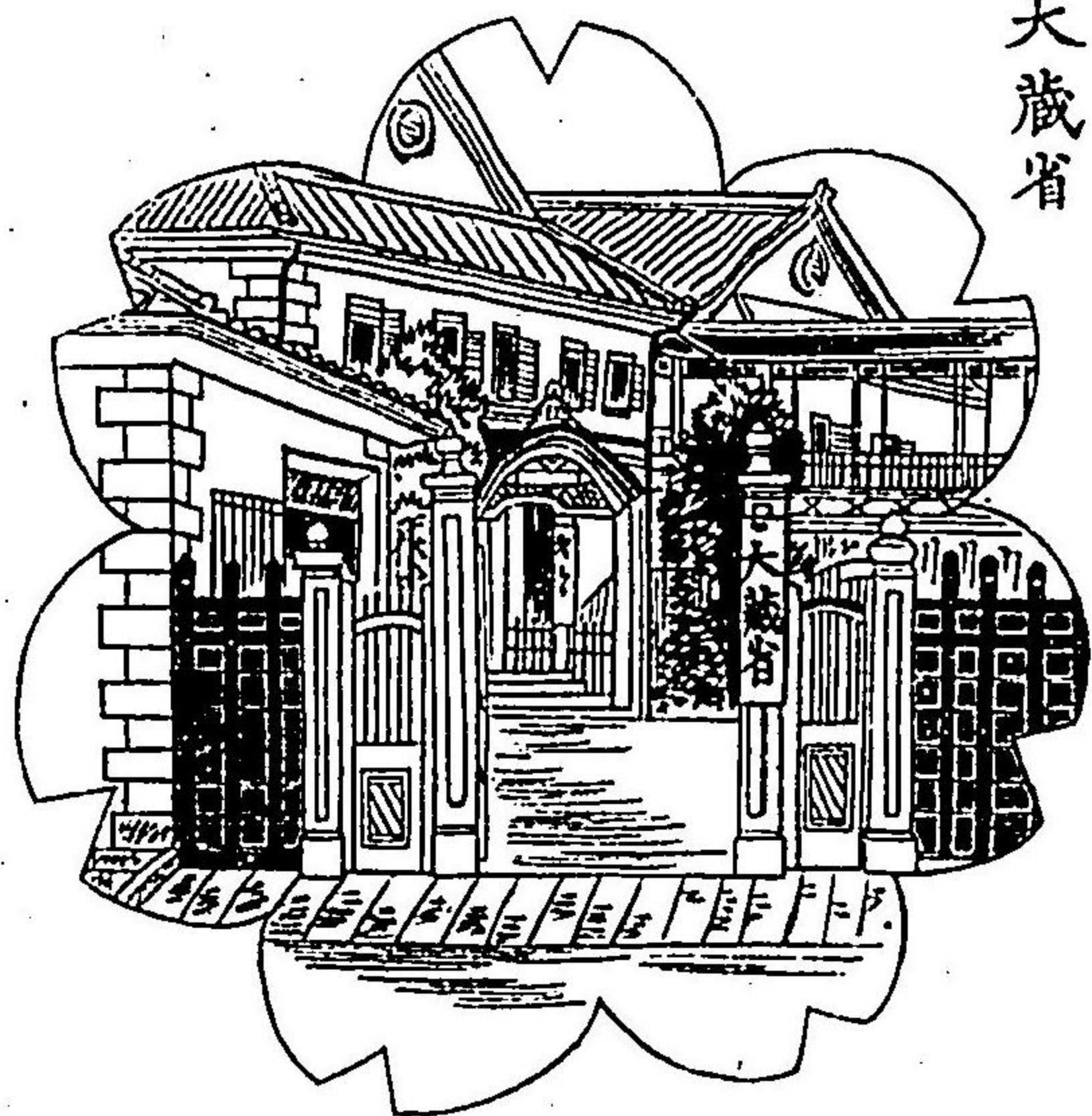
陸軍省



内務省



大藏省



東京市街

江戸橋の南四日市に當時建築中あり工事竣りきハ宏大の結構ありぬべし
近衛兵營 郭内代官町に設く其結構宏麗おして 天皇陛下を保護する近衛兵が威光の營所を見ても知りぬべし
東京鎮臺 赤坂槍町あり俗よんで槍屋敷といふ城内廣く數棟の兵營並び立ち數千の兵士其内ありて常お操練以て戰術を講究し國家保護の大任を盡さんとあまぬれば苟くも國民たるもの此兵營と兵士を見るに付つても徴兵を忌避するなく進んで其任に當らんとの精神自らさざしぬべし

東京市街

附

橋梁 渡船 鐵道 鐵道馬車

東京土産

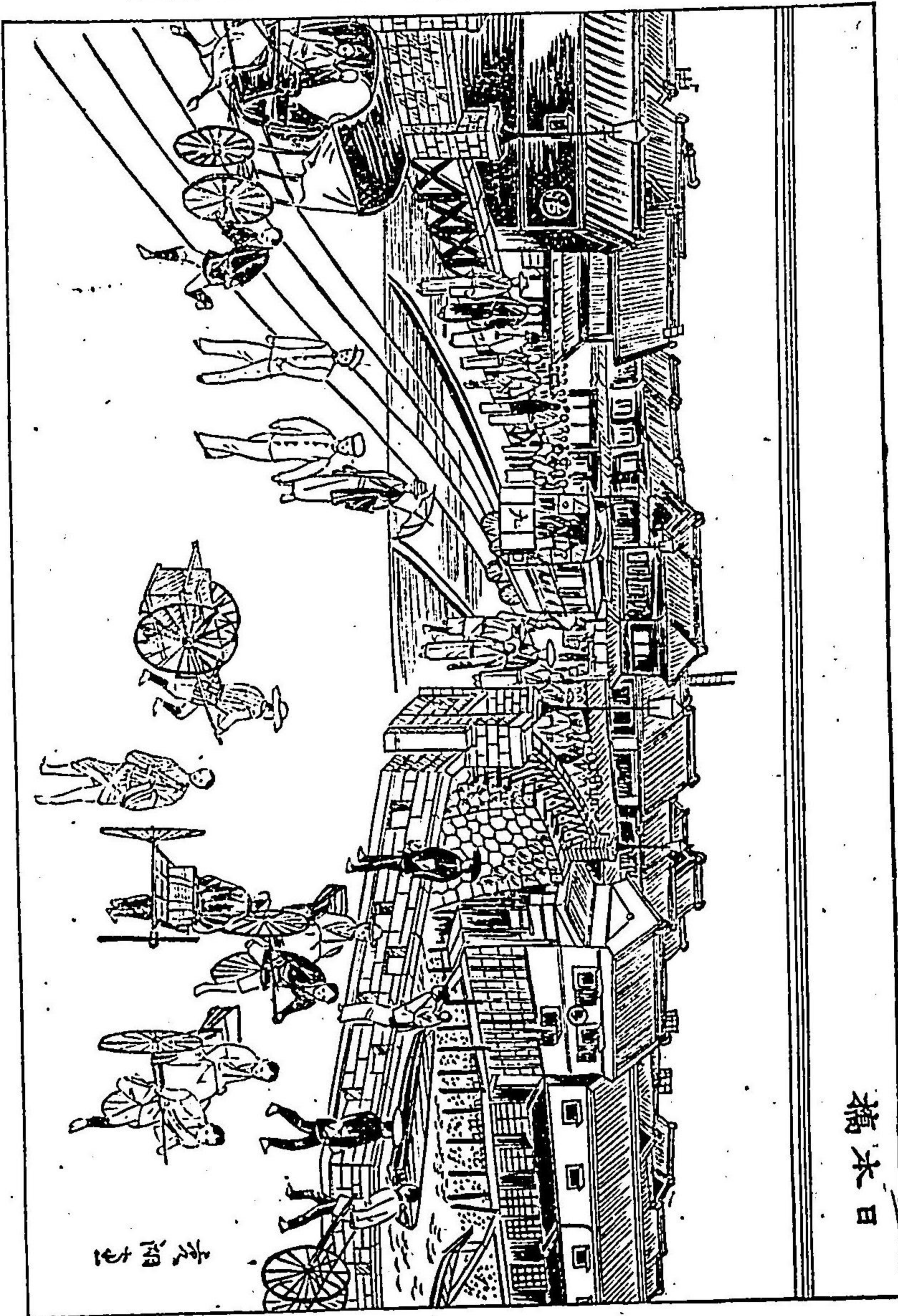
東京市は丘陵と平地とを跨たれば皇城より東の平地を總稱して下町と呼ぶ北の淺草川の左右より南の芝浦と互れり城西の地の高低相連りたれば高きを臺と呼び低きを谷と呼べり東北の本郷、大塚、牛込より西の市ヶ谷、四谷、赤坂、青山等も亘り南の三田、白金も及ぶこれを總稱して山の手と呼べり其間の市街の縦横交錯四通八達して修治整へざるあく至る所清潔を極めたり殊に瓦斯燈、電氣燈の設けありて昏夜も白日の如く又地下に氷道を敷きて諸街の井も通じ戸々の飲料も供せり又新橋、上野も停車場を置き鐵道を開きて行旅に便し運輸に利からしむ且新橋、上野、淺草間も鐵道馬車の敷設あり往來絶る間も赤馬車圓太郎と稱する乗合馬車あり人力車といふ馬車代用のものあり

東京市街

りて絡繹織るが如し本市の中央を日本橋とあす全國道路の里程を定むるの首標とあしぬれば市街の景狀を説くも亦此より始むべし

日本橋 日本橋川も架する木橋あして通一丁目と室町一丁目の間にあり橋上南北に通ずる大路を大通りといふ南の京橋及び新橋を経て芝の金杉橋も連り北の神田の萬世橋も達せり其間店舗鱗次し百貨輻湊して商業の盛なる往來の熱鬧ある全市も冠たり又橋下の舟楫往來して左楫右楫の聲喧すし

安針町、元小田原町 日本橋北の河岸もあり比屋魚肆もして毎朝市を開き熱鬧を極む魚河岸を呼べり魚河岸熱鬧の光景のナンダベランメイ江戸兒の氣象を見るも足りぬべし



錦糸町

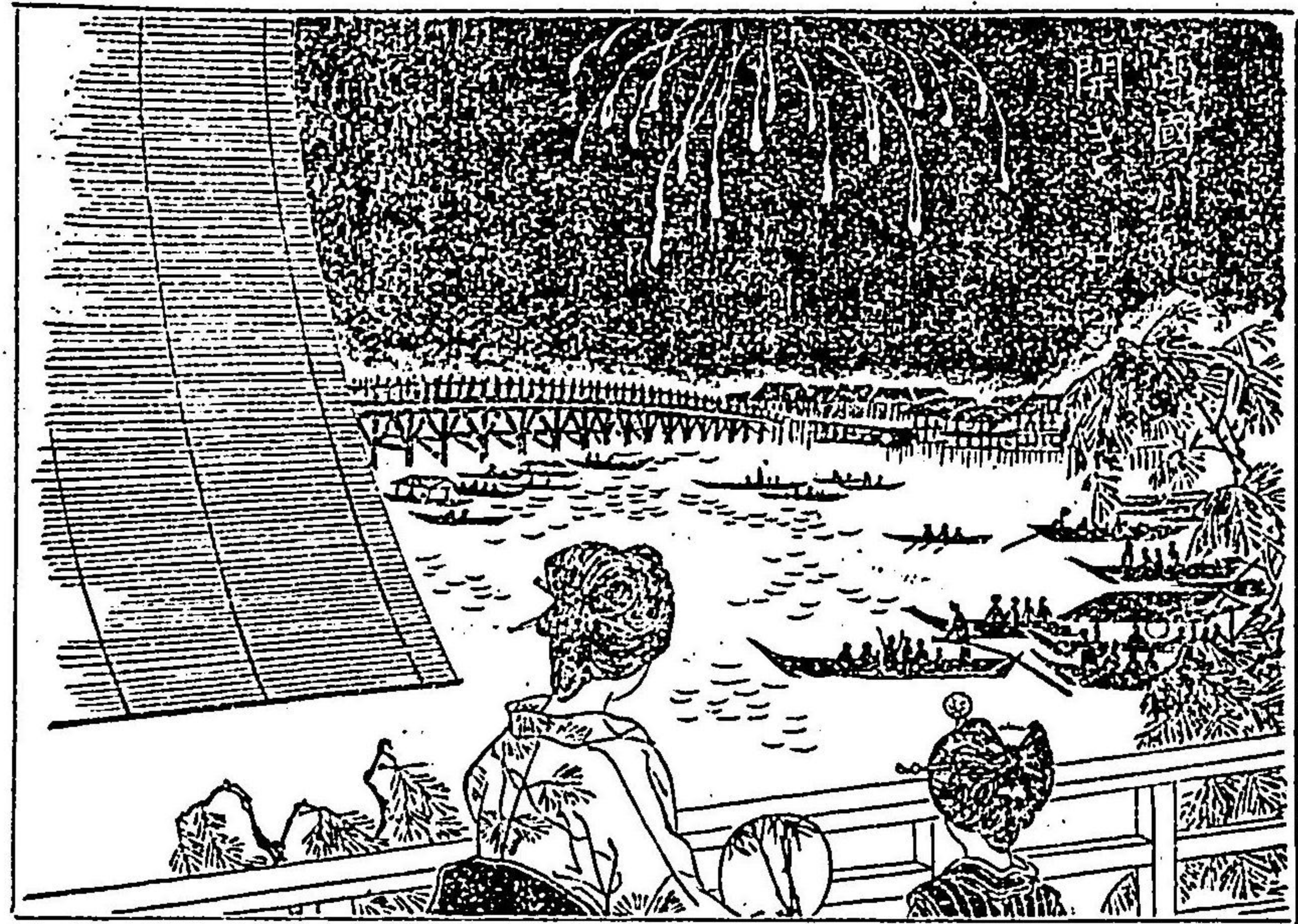
三井銀行 駿河町よりあり高層なる樓閣にして屋上鯨尾を
 中天に振へり其側より資生堂とよべる藥舖あり
 十軒店 本町と石町との間なる大通をいふ舊時(今でも)離
 の季節に大裏離裸人形手道具等の野軒端を並べ又幟の
 祝どきの宵人形蒲刀ブリキの洋力を賣り又年の暮に至れ
 り春を迎ふる破胡板手毬を商ふ其繁昌今も替らざりし今
 川橋通 本銀町の大通より元乗物町へ渡る橋通かり橋下
 の堀を神田堀といふ其左右に陶器店軒を連ねたり
 萬世橋 神田川を架する石橋にして結構の狀眼鏡に似た
 り故に俗呼んで眼鏡橋といふ神田内外の稱あるも此橋
 を以て分ちぬ
 八辻原 萬世橋の南にあり樹木を叢植して防火の備とあ
 せり此邊馬車人力車の停車場とありて其數夥し

東 京 土 産

柳原通 八ッ辻原より神田川に沿ひて淺草橋に至るの一
 路あり昔時楊柳を列植せしを以て此名あり今ハ川沿ひ
 て煉瓦造並び立ち古着商最も多し舊ハ五時過粗惡の繕ひ
 衣服を柳原ものと稱して不正の品のみ商しが近時ハ正柳
 組とて舊來の弊習を一洗するの招牌を掲るの家多し問よ
 合せの洋服ハ此おて購へハ自由に足りぬべし
 本町通 日本橋以北の大通と十字をあし東西ハ互れるの
 街路にして兩國及び淺草橋に通ト藥舖木綿店多く鱈屋ハ
 藥舖よしして大丸ハ織物商あり共に其名著しく繁昌の店あ
 り又教育書肆ハ文學社金港堂等あり
 馬喰町通 本町通の裏ある大通にして兩國及び淺草橋ハ
 通ト旅舎軒を並べ東京見物ハ來れる田舎客を待てり宿泊
 料ハ大抵三十錢より二十錢内外あり其間指物店多し

東 京 市 街

人形町通 大傳馬町、通旅籠町の間ハ互る街路にして雜貨
 肆を連ねて賑し
 大門通 通旅籠町、通油町の間ハ互れる街路にして銅商多
 し昔時葺屋町ハ妓樓ありしとき大門口ハ當るを以て此名
 を存せるなりと
 米河岸 本舟町、伊勢町ハ米商多き所あり故ハ其埠頭を呼
 んで米河岸といふ
 米屋町 彌殼町をいふ米商多きを以て此名あり地に米商
 會社あり定期賣買をあす田舎漢ハ一獲千金其利を壟斷せ
 んとして投機奸商集合處ともいふべき米相場の賣買處ハ
 來り祖先累代の資産を蕩盡し燒きたる手を頼ハ當て考ふ
 るモ取遣しの付ね談しあるハ往々聞ぬれば注意すべき處
 ありめし



藥研堀 米澤町より矢の倉
 又至る街路といふ其東北の
 兩國廣小路に通せり
 兩國橋 隅田川の下流に架
 せる木橋にして兩國新柳町
 より本所元町に達す長さ九
 十六間餘府下六大橋の一
 して始めてこれを架せし
 萬治年間ありといふ其昔此
 川を以て武總の界とせしよ
 り兩國橋の名ありしが貞享
 三年利根川の西を割きて武
 藏に屬せしめられしも橋の

名の唱へ來るが儘に改めざりしとや此橋の兩端廣潤な
 る地あり其西の方を兩國廣小路と稱す舊時の觀劇物など
 處狹きまで建て並びしが維新後取り拂ひとありて清潔の
 廣場とある地大江に臨むを以て納涼に宜しく又觀月も宜
 し然れば其頃の日の春頃より橋上橋下も來り賞し來り
 遊ぶもの多し就中川開きとて夏月川中に烟火を打揚ると
 きに熱鬧を極め橋上の人を築き橋下の遊舫棹ぎ集ひ
 て宛然舟にて市街を作れるが如し紅裙を携ふるものあり
 愛嬢を同伴するものあり商賈往き盡生往き居士の如き素
 寒貧も往き右より左より入る來るもの肩摩穀擊あしぬ其
 間兩岸の飛樓高閣も點す燦然たる銀燭の氷も輝く紅燈と
 相映し船中も奏する絃歌の聲の打ち揚ぐる烟火の音と相
 和し鍵やと賛る聲に河底の鱗族も聾しやせん其賑しき

東京土産

東京土産中の土産ありぬ
 新大橋 兩國橋の南より濱町より深川元町に架す六大橋の一なり
 永代橋 北新堀町より深川佐賀町に架す六大橋の一なり
 其南の大川の河口よりして商船常々幅濶し危檣林立せり橋上頗る眺望宜しく東南を瞰めば房總の諸山青を刷し翠を抹し海天一色水路萬里風帆遙靄の中に朋滅々風景描くも及さざるの想ひあらしめぬ
 中洲町 新大橋の下永代橋の上濱町河岸ある埋立地なり此地の舊三派と呼びし所にして箱崎川の大川に落ち入る所よりあり明治二十年沙洲を埋立て中洲町とせり大川は枕みて割烹樓あり揚弓店あり觀劇場あり中央の廣場に樹木を栽植し運動散步の處となす故を以て治客晝夜來り遊

東京市街

びて甚はだ賑をひかしぬ
 鐵橋 小網町より兜町に架す鐵橋にして明治二十年の構造なり其結構の宏麗といふべし其以前の鐵の渡と稱して舟渡しありし所あり
 江戸橋 日本橋の東あり伊勢町より本材木町に架す石橋なり其南を元四日市といふ
 第一銀行 兜町になり銀行の嚆矢にして其樓閣の壯大ある五層の建築なり
 東仲通西仲通 日本橋の南大通の東西にある中間の街路をいふ東仲通の骨董店古着商軒を並べたり
 肴會社 本材木町あり俗呼んで新場といふ
 日本郵船會社 南茅場町よりあり海運を業とす我國海運の全權を掌握し頗る盛大あり

西河岸 日本橋の西一石橋に至る間の河岸をいふ
 一石橋 西河岸より北鞘町へ架す又八見橋の名あり此橋
 上より願望すれば日本橋、吳服橋、錢瓶橋、道三橋、常盤橋、鍛冶
 橋等を瞰る故に此一石橋を加へて共に八橋とあるを以な
 りといへり
 中橋 日本橋の南大通槇町上下北邊をいふ中橋といふも橋の
 ちし其故に此地日本橋と京橋との中央なるを以て斯く呼
 べるありと
 京橋 京橋川に架する石橋にして橋上の即ち大通あり其
 北の河岸を竹河岸といふ竹商多きを以て此名あり
 銀座通 京橋より南新橋に至るの街路をいふ其幅廣く兩
 行に樹木を栽る其通を三條と區劃して中央を車馬の往來
 となし兩側を人道とあす人道の煉瓦石を敷けり故に平

垣砥の如く雨路は猶草履を踏むも泥濘の愛ひあし又左右
 の家屋の皆煉瓦と以て疊みたる宏壯の結構なり此地の豪
 商富買最も多き所にして市街の壯麗繁華ある府下冠冠た
 り抑も京東の開化を見るに足りぬ
 築地 銀座通以西海岸地方の總稱あり明治元年此地を開
 き外國人の居留地と定めさせられしより尖れる屋根圓き
 家を見るに至り石室鐵樓相連あり街衢も亦壯麗となり倫
 敦巴里斯も斯くやと想ふの觀をあしぬ其れより貿易も盛
 なりしが埠頭水淺くして船舶の投錨不便を飲くがため漸
 次其業は衰頽て今の耶蘇教の會堂と下等支那人が偽珊瑚
 筆墨を賣ふの巢窟とありしもの、如し然れど近時の學校
 の完全あるもの並び立ち高等女學校、工手學校、尋常中學校
 等其名あるものあり

八丁堀 昔時開鑿して通船の用に供へしものにて其長さ東西大約八町ばかりあれば此名ありし故に其邊りの街路も八丁堀の名あり

高橋 八丁堀より靈巖嶋本湊町に架するの鐵橋にして構造壯麗あり

靈巖嶋 古へ沙洲の地ありしが僧の靈巖この地を修築して一寺を創立せしよりこの名ありといふ靈巖島銀町、南新堀町と酒肆多き所あり呼んで新川といへり

佃島、石川島 靈巖島の南にあり佃島の市街とたゞ一條の川を隔るのみかれども一孤島をなしぬれば市街と自ら趣き異なるが如く何となく心目も喧噪を避くの情趣あり然ればよや沙干あす頃の此島に船をよせて遊ぶもの多く又白魚雜魚の名産あれば嶋を廻りて釣を垂るゝの船出てゝ

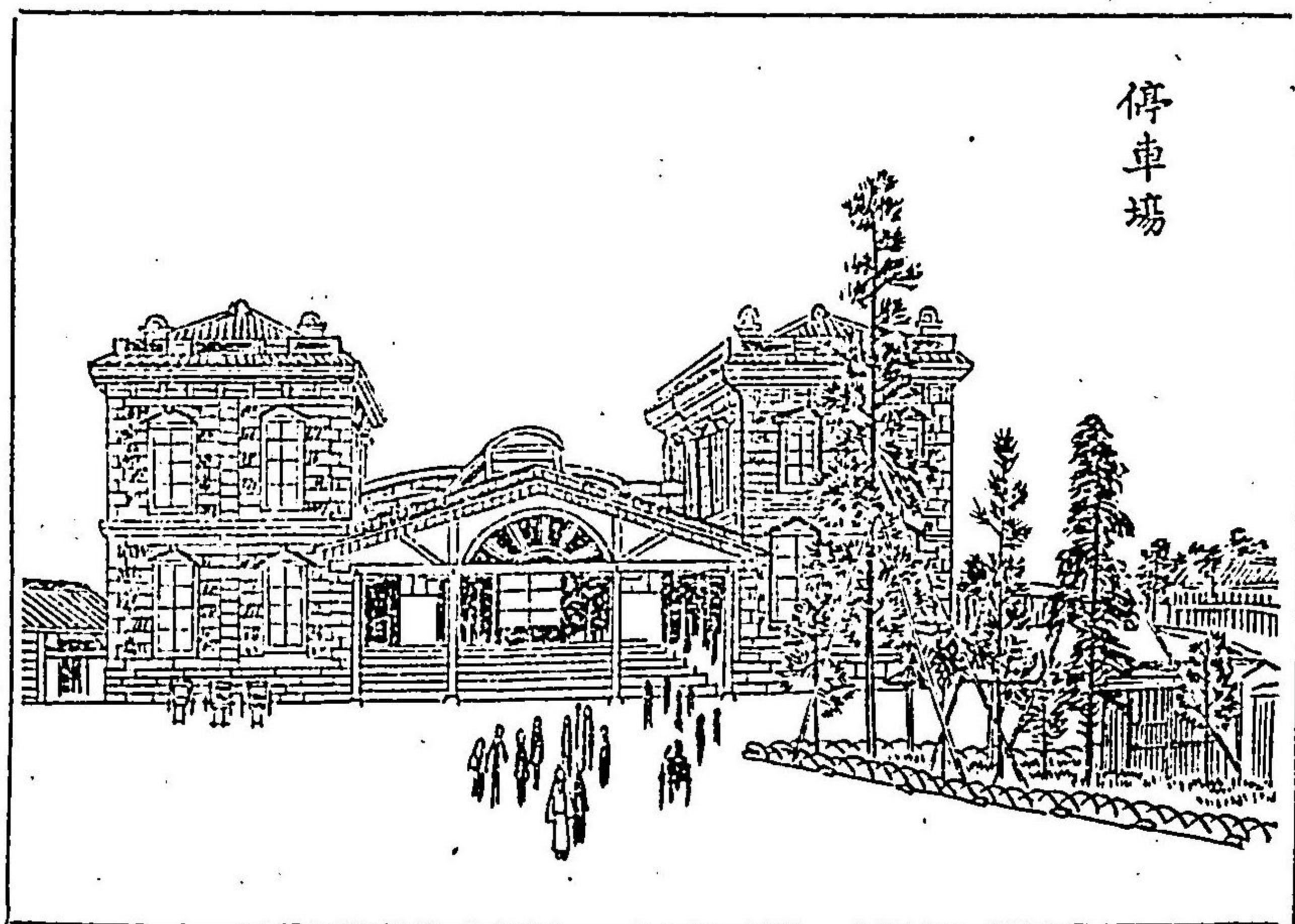
其最寄の木の葉を浮べたるが如し殊に夜間白魚寄の簀船の水上宛然燈火もて埋立しが如し一層の遠眺ありける石川島お造船所ありて毎年構造する處の船舶最も多かりしといふ

新橋 沙留川お架する鐵橋

新橋停車場 沙留町あり

明治五年九月始めて鐵路を横濱と通し汽車の往復を開く實に日本に汽車を使用

停車場



するの權興あり今は其線路を延長敷設して西京へ達し晝夜往復間斷なく二十時おして西京へ至るを得べし便利も亦便利を極めたりぬ其停車場の構造は石室ふして宏壯の樓閣あり塲前の廣濶おして馬車人力車淵叢をさし往來續紛として織るが如し

鐵道馬車會社 停車場の域内あり其線路を大通り敷き日本橋の北本石町まで二ツお岐れ一は萬世橋を経て上野より達し淺草に通ず一は本町通より淺草橋に至り御藏前通を経て淺草に通じ上野線と連絡す其間を數區より割ちて一區域の乗車賃二錢價一錢あり毎日四十八乗の馬車七十三輛往復して間斷をなし

瓦斯燈 濱崎町あり瓦斯燈の源とす是より市街の地下より鐵管を伏設し小き鐵の燈臺を建て瓦斯を導き燈火を點

せり又これを使用するの家の小管を設けて行燈否洋燈に替へぬ

芝浦 芝大通の西南瀕海を總稱するの名あり又雜魚塲と呼び漁獵の地おして殊に芝鰯の名は古くより高く傳りて名産とありぬれば釣網の魚船常より多く金杉橋の邊より舟貸すの宿ありて都下の人遊漁の樂みをさしぬべし且眺望ありて海面滄々の間より白帆の往來するあり遙く霞々たる翠巒あり風景極めて佳あり海に臨みて割烹樓あり鮮魚の割烹をさせり其最と名ある割烹樓と見晴しといふ

金杉橋 濱松町より金杉町へ架す石橋あり橋上の大通りして南は本芝町より高輪品川町に通せり橋下の赤羽川にして小舟を往來し少しく運輸の用をさす

神明前通 日蔭町とも呼ぶ宮本町芝太神宮前の南北へ通

する街路にして店舗櫛比せり洋服の需用開けてより出来合物着ぬきものを商ふの魁さきがけをあしぬ故に柳原と同じく急間を足すも懸直強たかきものく縁日えんじつの花弁を買ふの心地こころにて減直ねちち

久保町通 久保町新櫻田町又互れる街路をいふ
琴平町 虎の門より南の外濠とろ沿へる街路として愛宕下通あざか通せり

四辻 飯倉の岐路といふ東北の西の久保又通ト南の赤羽町より芝三田又達し西の赤坂に通ずる街路あり商店櫛比して百貨辨べんずべきの地あり

赤羽根橋 赤羽川又架する橋として赤羽町あり其傍わら製作場ありて鐵材の製作をかせり

三田白金 高輪たかね通ずる街路にして三田四國町に育種場

ありしが今のこれを廢して市街を開きたり

札の辻 三田芝の岐路なり西南の芝車町より高輪品川しんがわ通じ東北の本芝町より金杉橋かねすぎはしに至り北の三田の街路あり高輪 南町北町あり海瀨うみ又單列する街路にして梵刹ぼんせつ多き所なり其沿岸の雜樹を列植して天然の風光に添へたり此地の東一面東京灣にして水平の間又翠巒すいれん々々遙とほ々相望み白雲去りて布帆遠近し風景極めて佳あり灣に臨みて酒樓を起し新鮮の割烹をなせり且海又沿ふて一帯の鐵路あり瀛車やうしやの往復間斷なく煤烟ばいえん空あか又靡なき糸の調の音高く水の鱗うろこ族りゆうも眠る暇ひまあり其南の端に停車場あり品川停車場と稱す是れより軌道二ツに岐かれ一は横濱線ふして一は目黒、新宿、板橋、目白を経て赤羽に達し上野線と接續し奥羽線おくう通ずる所なれば乗客の上下も随つて多いため往來馬車

人力夥し此地の舊時より觀月の勝地ありとて人の知る所あり

東 京 土 産

臺場 御臺場と呼ぶ東京灣内あり此の嘉永六年黒船と稱して亞米利加國の船通商貿易を來るものを征ち拂はんがため徳川幕府が空手間掛けて築きたる砲臺六基の趾なりし其頃亞米利加より來た人のペルリーと舌を出し笑たど今其第四基の西面を燈臺を置く其光の不動赤色にして四里餘を照らし船路の望標とあしぬ場を廻りて商船常にお輻湊し危檣林立す其間漁獵の利最と多ければ釣網の船常と群をかしぬ

品川町 日本橋を距る南の方二里東京の咽喉として東海道五十三驛の初程あり酒屋妓樓商店軒を並へて鱗次し往來絡繹人行織るが如し目黒川其中央を横切して東流す其

東 京 市 街

河口を抱きて海中に突出する地方の居民漁獵を業とせり硝子會社 品川町あり専ら硝子細工をかして近來頗る改良を謀り舶來の硝子製の物品と仰がぬ目的ありと興業振起の邦家のためと祝すべし賀すべきあり

麻布 麻布地方と坂谷多き所にして鳥居坂の鳥居町と永坂の永坂町と狸穴は狸穴町と我善坊谷の我善坊谷町にあ

り

澁谷川 玉川上水の支流にして一の橋二の橋三の橋四の橋を架せり

赤坂通 表町裏町をいふ赤坂門と通し酒樓商店軒を交へたり

溜池 赤坂門より虎の門と環れる外濠をいふ往時の池塘廣くして蓮の名所ありしが近時漸次と埋立大に狭小とあ

東 京 土 産

りしも其地山王山の下ありて風景最と麗し
 學習院 工科大学の跡にして其地溜池の上お時ち高燥
 るが上にも結構壯麗よしわれバ門地高き華族方の子弟を
 養成する所も適へるあるべし
 青山通 南町北町を總稱す大山街道も通せり
 青山墓地 青山通の南ある埋葬地あり廣袤甚はた廣し
 一とたび市内に於て土葬の禁令出しより神佛葬祭の差別
 なく此お葬れり故を以て新お一墓地となしければ舊寺域
 の汚穢を見ぞ建る石碑も亦圓形頭の平扁ものちく長方形
 の壯大あるもの多し石碑をも開化して一洗せるが如きの
 觀あり殊も故大久保内務卿の墓の如きの縁樹蒼々の間お
 宏大の墓碑を建て錢柵を繞らせり國家顯要の地位も立ち
 柱石の任に當りたる功臣とし自ら墓前も威嚴を存せり其

東 京 市 街

他野津中將松田前府知事等皆宏大あるものよして一々記
 するに進あらねバ此に畧して只其一斑を掲るのみ
 四ッ谷傳馬町通 東の麴町四ッ谷門も連り東の忍町鹽町
 に延長し内藤新宿町も通ト甲州青梅の二街道も當り店舗
 櫛比し商賣繁昌車馬人行織るが如し頗る殷賑の所なり其
 間の左右の横町の街路多し
 内藤新宿町 日本橋の西二里酒樓妓館商店軒を交へて車
 馬陸續たり其西端に岐路あり追分といふ左折するもの
 甲州街道おして真直も西に走るもの、青梅街道あり
 新宿停車場 新宿町の西端もありて甲武鐵道線路の起る
 所もして中野、境國分寺立川を経て八王子も達せり
 麴町 十三町相連り四ッ谷門外より半藏門も至る市街に
 して商店並列す

電燈會社 麴町一丁目にあり電燈の源おして是れより各所の市街に電線を架して電氣を作用し燈火を点せり其光り煌々として數丁を輝し明月も光を奪れて瓦斯燈も猶其光に三舍を避け燈火の全權を占めたり一たびこれを見たら如何ある天保翁の無學文盲も智識と煥發しぬるべし喰違 紀尾井町より外濠を経て元赤坂町へ出る屈折せし處の名あり

櫻田 櫻田門より南を總稱す門を入れれば即はち宮城の正門二重橋の前に出づ

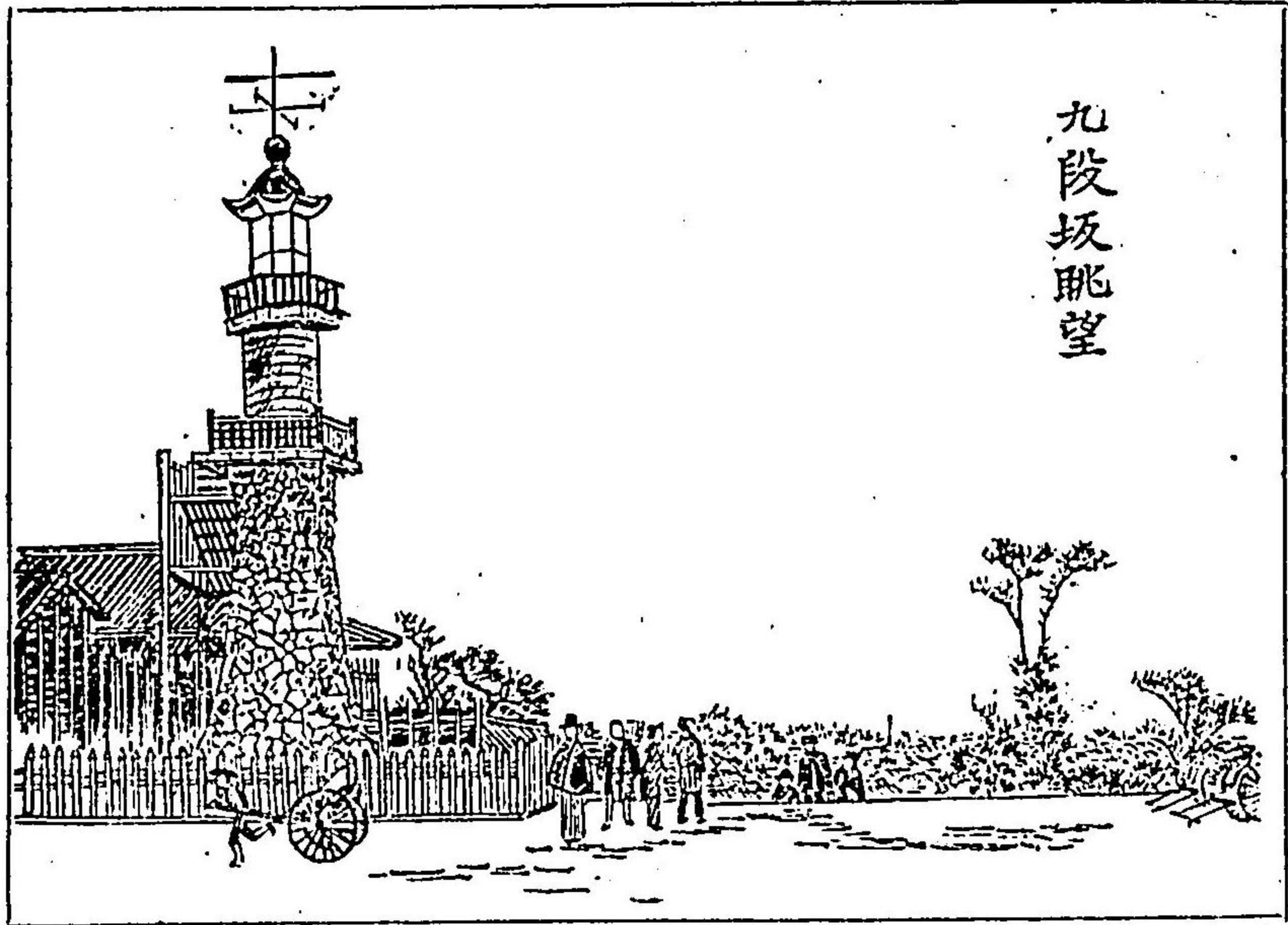
霞ヶ關 三年町より幸町のかたへ下る坂をいふ今霞ヶ關町と稱す往時より著名の勝地にして奥羽の官道ありし所なりといへり

日比谷練兵場 日比谷町あり廣袤頗る廣く練兵の喇叭

常に勇しく又觀兵式場あり

外濠 宮城の外郭をめぐれる濠水にして龍の口の下流を合せ日本橋よ入る其間橋梁を架して内外の往來をさす南の第一を新し橋をいふ幸町より新櫻田町へ架し其次を幸橋といふ幸町より新幸町へ其次を山下橋といふ内山下町より山下町へ其次を數寄屋橋といふ有樂町より元數寄屋町へ其次を鍛冶橋といふ八重洲町より西鍛冶町へ其次を吳服橋といふ永樂町より吳服町へ其次を常盤橋といふ錢瓶町より本町通へ其次を神田橋といふ大手町より美土代町へ其次を一ッ橋といふ竹平町より一ッ橋通町へ其次を雉子橋といふ同トく竹平町より一ッ橋通お架せり其數寄屋橋より雉子橋に至るの間の舟楫往來して運輸の便あり龍の口 濠水の瀉ぎ出る所おして其下流日本橋川に入り

小舟往來して運輸の用お供せり其間お錢瓶橋道三橋を架
 す 内濠宮城を環れる濠氷にして東よ和田倉橋馬場先橋わ
 りて八重洲町有樂町に通ト北よ平河門ありて竹平町よ通
 ト竹橋を架して郭内の代官町より半藏門よ達し麴町お出
 で其れより南お廻りて櫻田門お至るをいふ
 半藏門 郭内より麴町への出口よして左右お濠氷を眺め
 縁松崖に臨みて生茂り風景最と閑雅の所あり
 番町 舊時徳川將軍たりしとき大番士の邸宅ありし所な
 れば此名ありて今尙名のみ存せしが邸宅の間商店相夾ま
 り全く市街とありぬ
 九段坂 富士見町より飯田町へ下るの坂路にして組橋よ
 り小川町通に連れり坂の南濠氷の漚たる所を牛ヶ淵とい



九段坂眺望

ふ淵よ沿ふて竹橋お通せり
 坂上甚だ高く眺望開豁よし
 て都下の千門萬戸斐を連ね
 て目の中に集るが如く酒樓の
 白旗紅帘飄々とし風お舞ひ
 遙かお白雲驟驟の間よ房總
 の翠巒明滅し一大快豁の觀
 をおしぬ
 牛込揚場町神樂町 濠氷に
 沿ふて單列する市街あり西
 南の市ヶ谷四ッ谷の市街に
 連り東北の小石川より神田
 に通す其間通船の便あり又

市街の商店櫛比して稍繁昌の所あり
 神樂坂 高田町の通路に當り其坂上は肴町通寺町の諸街
 相連りて百貨辨すべし
 市ヶ谷 八幡町田町の諸街をいふ神樂町と連りて往來多
 く西は本村町戸塚町あり
 陸軍士官學校 市ヶ谷本村町にあり舊尾張の邸地にして
 高燥の處に建て搆へたり
 陸軍戸山學校 市ヶ谷戸塚町にあり陸軍士官校と共に兵
 事を訓習する所あり
 神田上氷 寛永年間の創設にして北多摩郡井の頭池より
 發し關口町に至り分れて二派となり一は東流して砲兵工
 廠を経て神田川に架せる筈と達し一は東南に流れ江戸川
 とあり新諏訪町に至り濠氷を合せて神田川となる其間の

市街は小石川水道端町水道町等あり
 音羽町 南北に延長する市街にして小日向水道町と連れ
 り其東の高丘を豊島岡と稱す御陵墓の地あり
 小石川表町久堅町 諸街の相連りて商店稍多き所あり
 巢鴨町 高田村と相連り農商雜居し又種樹を業とするも
 の多し
 板橋町 日本橋を距る北二里二十七町中仙道の首程にして
 て其東端より東折して上板橋村を經る一路を河越街道といふ
 商店酒樓妓館軒を交へたり停車場ありて上野新橋の
 間の線路も當れり
 王子村 王子停車場のある所にして地は一路あり岩淵町
 を經て埼玉縣下へ出づるものを岩槻街道といふ石神井川
 村中を流れ澄潭掬すべし氷崖に據りて酒樓の美麗あるも

の蒲酒しやうまいの室むろを構へ割烹わいの鹽梅しほ宜しく使婢やの治容ちよう嬋妍せんげんあるもの杯盤はいばんを周旋しゆうせんしぬれハ一日の遊あそびをあす屈強くつきやうの境さかいならめ製紙會社抄紙部 王子村にあり其建築けんちく巍々ゑいゑいとして宏大こうだいあり且其製紙器械けんきの如きハ最も巧妙くわうまうを極めたるものおして一の蒸氣じやうき罐かんありて其作用さようハ依り原質げんしつの材料そくざうを其器械けんきお投なせば其れより漉ろき出して紙かみとあり大小廣狹たうせうくわう人工じんこうを籍せきらず成功せいこうをあす以前いぜんハ其器械けんきの構造こうぞう運轉うんてん等を見物けんぶつさせたりしが往々過あやちありしとかよて近時きんじハこれを止めたり

瀧野川村 石神井川を夾くわさむ村落そらつおして風景佳絶ふうけいけいぜつある所あり

駒込追分町 板橋岩槻いたばしの駁わかれ路ぢなれば追分おひの名あり

本郷通 南ハ萬世橋まんぜきやうお達し北ハ駒込巢鴨かみに連る街路まちぢよし

て中仙道ちゆうせんだうの要衝やうしゆうハ當れり市街いちがいハ森川町もりがわ、春木町はるき、東竹町とうたけ等相

連り店舖並列して往來頗る殷賑いんげんあり

帝國大學 本郷五丁目にあり舊加州きゆうかうしゅうの邸地ていぢにして裏門うらもんハ舊來きゆうらいのものおて表門うへもんハ龍岡町りゆうかうに向へり講堂かうだう及び病院びやういんの建築けんちくハ全く洋風やうふうよて頗る宏麗こうれいなり又城内廣濶こうわくおして最も高燥こうそうなれば眺望たうぼうハ富み下谷淺草かみの市街いちがいを眼下がんげに見下し開豁かいかくの境さかいあり其園庭いんでんハ卉木けいぼくを栽植たくわんして蒼綠そうりよく蔭かげをさせり

小石川橋水道橋 萬世橋まんぜきやうの西神田川にしんたがわお架する橋梁きやうりやうにして共に小石川こいしがわ、本郷ほんかうより内神田うちじんたハ通ずるの所あり此邊こゝハ兩岸ふたがは高く峙たてち其上そのかみハ大厦高樓たうたか巍峨ゑいがとして並び立ち崖たかハ臨みて綠樹りよくじゆ鬱鬱うよくよくハ風光大ふうこうハ佳よき所あり

駿河臺しゆんがたい 高敞かうしやうにして富士山ふじさんを望のぞむハ宜よろし故ゆゑに此名こゝあり紅梅町べんがいのち、南みなみ甲賀町かかのち、袋町ふくろの市街いちがい相連り其間そのま豪商紳士ごうしやうしんしの居いを占るもの多く大厦高樓たうたか聳たかえ列らされり

小川町通 小川町の市街にして東の佐柄木町より雉子町
 萬世橋に通じ西北の神保町より連り岐れて一の北の方猿樂
 町より水道橋に至り一の組橋より九段坂下に至れり其間
 商店櫛比して頗る繁昌に往來織るが如く熱鬧の所なり蓋
 し此邊は學舎の盛あるもの多く一ツ橋通町より高等商業學
 校錦町より英語學校小川町より東京法學校淡路町に共立學校
 ありてこれより學ぶの書生多きが故あり其間又下宿屋軒を
 連ぬ且より夕に至るまで短衣高履の勉強生袂を連ねて通
 學お散歩に用達は往來あしぬれば殊更賑ひしうりき近來
 女學校の設け盛んあれは女書生亦これお加はり犬糞頭は
 足も穿つ靴鳴すもの多りて日暮よりの散歩に小説仕組
 を演じて醜聞を此往來の間に流すもの多しとや兎も角こ
 の邊の繁昌は日一日に繁昌を増すばかりあり

御成道 萬世橋の東北上野廣小路に至るの街路をいふ商
 店櫛比して往來織るが如し往時徳川が將軍たりしとき上
 野の廟墓お詣るの道ありしが故今尙其名あり其街衢甚は
 だ狭さがため市區改正第一着の街は當り一等道路十間と
 り已より着手ありて兩側の家屋は取拂ひとなりぬれば其成
 功も近きにあるべし
 宮本町 御成道の西本郷通の東端にして市街繁盛工商軒
 を交へ其地頗る眺望は富み俯して都下數萬の人烟を瞰む
 べし其東の市街を神田旅籠町といふ
 和泉橋通 萬世橋の東神田川は架する和泉橋より佐久間
 町和泉町御徒町を歴て上野に通ずる街路なり其間商店相
 連り往來亦多し佐久間町は秋葉原あり秋葉神社を奉祀し
 て防火の地とあせしが秋葉神社立ち退き近時日本鐵道會

社が新設鐵道の停車場建築地となりて今其工事中なり」
 廣小路 御成道より上野に至るの大路にして兩行又樹木
 を栽ゑ其道を區劃て三條とす車馬絡繹人行緘るが如く
 牛肉店、蕎麥庵、汁粉屋軒を連て飲食店最も多き所あり
 三橋 廣小路にあり忍川を架す忍川の不忍池の委流よし
 て下流三味線堀とあり小船を通ずべし
 仲町 池の端仲町といふ元黒門町より湯嶋切通し坂町に
 連る市街おして其間商店櫛比し頗る繁昌の所あり
 湯島切通し坂町 下谷より本郷への通路にして人行緘る
 が如し
 根津 池の端を北に廻り往きたる所よして八重垣町宮永
 町あり去る二十一年六月までの根津遊廓と稱し新吉原お
 續きたる妓樓百餘戸ありて晝夜酒池肉林色海をあし絃歌

の聲一刻間も止むときあく蕩子冶容が鋭鋒磨礪の接戦場
 ありしが今の洲崎に移轉て寂漠の境と變し風流雅客が杖
 を曳くの幽逸場となりぬ
 團子坂 根津の裏手の方より駒込に出るの坂をいふ此邊
 の菊の名所よして植木商軒を並べて菊を培養せり
 谷中 上野の山續きの地よえて寺院甚いた多き所あり
 谷中墓地 舊天王寺跡と東叡山境内林光院跡にえて明治
 維新の初上野戦争のとき兵火お罹りし焼跡おあり墓地の
 中お残りたる五層の塔の天王寺の塔なり明治七年市區内
 の寺院おて土葬を禁せられしより此地も青山墓地と共よ
 神佛混淆の埋葬地とありたりぬ
 根岸 金杉村の一部にして上野の北麓おあり幽寂の佳境
 あるを以て都人の別荘多く風流雅士の居を占むるもの多

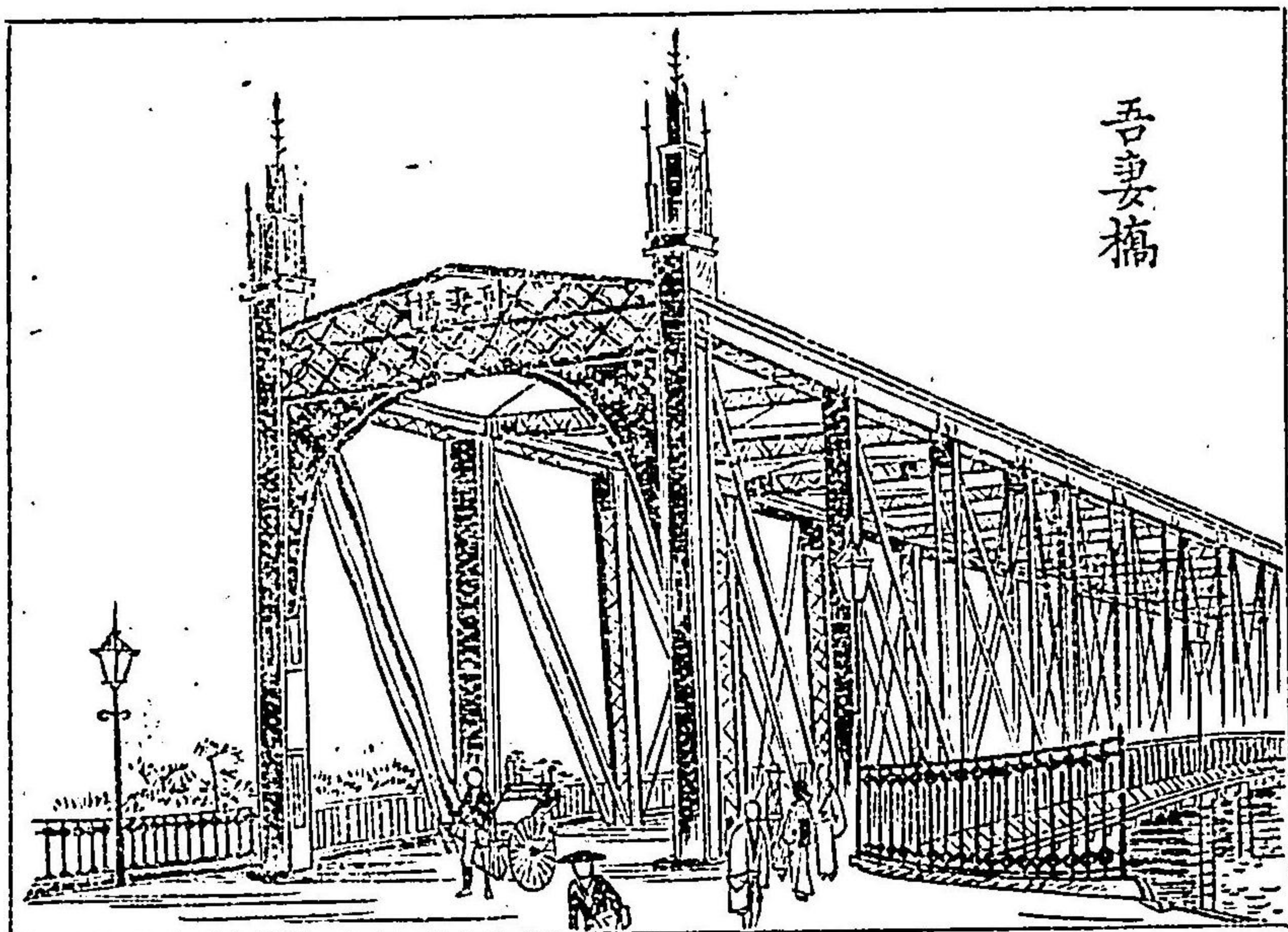
し
 日暮里 日暮里村にして根岸と續きたる所あり道灌山其
 西よにあり
 三の輪 下谷坂本村より千住大橋と至るの街路をいふ
 上野停車場 上野の東麓山下町あり奥羽鐵道線路の起
 る所あり
 山下町通 上野山下町より廣徳寺門前を過ぎ淺草菊屋橋
 に連り田原町を過ぎて淺草公園と通する街路にして商店
 軒を並べ寺院其間に夾まれり
 佐竹原 下谷竹町あり以前の廣袤たる空地なりしが今
 の家屋並列して飲食店相連り其間と觀戲の場を開くもの
 ありて晝夜熱鬧をかしぬ
 鳥越 三味線堀の末流鳥越川の東の地をいふ元鳥越町西

鳥越町ありて下谷神田と接するの地あり
 淺草橋 神田川を架する鐵橋にして橋上の街路の北茅町、
 瓦町御藏前通を過ぎて淺草公園に通じ西南の馬喰町通本
 町通兩國橋と通ト所謂四通八達の要路あれば往來の瀕繁
 として車馬人行の熱鬧ある都下屈指の所あり瓦町茅町の
 道幅甚だ狭くして往來常お肩摩せる所あると鐵道馬車の
 線路ありて往復間斷なく且人車の往來するもの引きも切
 らずありつる中お圓太郎馬車が歩行人にも會釋なく驚
 馬を驅馳するお故老人小兒が往來お注意せざれば危険
 ある所なりしが市區改正一等道路線に當りて目下取廣げ
 ゐ着手せり
 柳橋 淺草橋の東神田川の咽喉を架す此地兩國橋を距る
 こと僅お數十弓ありしが故都下舟楫の利實に第一とあす

遊舫飛舸最も多し春の花夏の避暑秋の月冬の雪皆水路を
 此に取るを以てなり橋の兩岸の酒樓茶店の佳麗あるもの
 簾を連ね南に生稻北に柳光亭あり其他數多あれども舉て
 算へがたし
 藏前通 須賀町、片町の總て藏前通といふ河岸に米倉相連
 るを以てなり其構へ内は東京職工學校と設く須賀町より
 八幡町に至るの間の兩行に楊柳を列植し道路と區劃して
 三條となし中央を車馬道とし左右を人道とせり前後と
 も市區改正の着手あれば遠くらず此邊の市街と同じく華
 麗にして廣き市街とありぬべし
 須賀橋 鳥越川に架する橋にして須賀町と瓦町との間に
 あり橋上の淺草公園に至るの街路あり
 厩橋 隅田川に架す三好町より本所外手町に至る舊時は

厩河岸と稱し、渡船場ありし所あり
 駒形 藏前通より淺草公園に至る駒形町といふ此處より
 本所表町へ渡船あり駒形の渡しといふ
 並木 駒形の先二ツ又岐れし所の街路なり道巾極めて狭
 きが故市區改正第一着に家屋を取拂はせられ道敷を廣げ
 たりし所あり
 廣小路 淺草廣小路といふ東の吾妻橋と連り西の田原町
 と通せり田原町の市區改正ありて街路大に面目を新よせ
 り此邊の馬車人力頗る輻輳しつるに鐵道馬車の上野と本
 町通との兩方より行違ふ停車をあすが故一層の熱鬧をな
 せり兩側の酒樓飲食店簾を連ね宛りも食物町といふが如
 き觀あり又夜に入れは露店道の中央に相並びて蠟燭の光
 の雲を燒くかと疑ふ計りあるは兩側の飲食店の紅燈と点

して夜色を添へ不夜城を現出す實も繁昌も亦繁昌を極む
 るの所あり
 吾妻橋 材木町より本所へ渡るの橋なり明和年間この橋
 を架んことを謀りしが水底に大石ありて橋杭を立るにも
 費えのみ多く堅牢ある能はずとて遂に果さざりしかど安
 永年間お復び其事興りて功を竣へりたりこれ此橋を架け
 し權興あり其後に至りて官の建築する所とありしが去
 る明治十八年大川筋満水して千住大橋没落し其木材流れ
 來り橋杭に突き當りしたため遂にこの橋を落したり因つて
 其年十一月より工事興りて二年間を費ひし米國のフラット
 フラス形お倣ひ長さ八十一間五尺幅八間四尺の釣橋を構
 造せり其間二基の橋臺の石と煉瓦石を用ゐる堅牢を極めた
 り橋上は人道と車道とを劃ち左右人道の鐵欄より八基の



吾妻橋

瓦斯燈を設けたり其建築の
 宏大結構の巧妙目を驚かす
 ぱりりよて我邦の橋よてい
 未だこの橋の如き絶えて見
 聞かざる所なりき
 馬道 公園の東よ沿ふて田
 町よ至る馬道町をいふ商店
 軒を並べ往來多き所あり
 花川戸 材木町より山の宿
 町よ至る街路をいふ陸羽街
 道お通せり
 猿若町 舊時東都劇場の本
 場所よして劇場の名あり也

東 京 土 産

もの多かりしが今の市村座のみ存せり此塲も亦下谷二長町より移轉の事とありて當時同所より築建工事中ありといふに
 聖天町 山谷町に接する街路にして眞乳山高く峙ち隅田川に臨める一勝地あり
 日本堤 聖天町より三輪に至る一帯の長堤あり呼んで土堤といふ往時荒川の濫溢に備へんがために築く所なり今の吉原通ひの路とありたりぬ堤に沿ふて堀あり山谷堀といふ
 山谷橋 山谷堀に架す其昔しの吉原通ひの客船路を此より取りて往來おしぬれば橋の前後左右に船宿多かりて繁昌せまかど一たび人力てふものゝ世に出來しより便りをこれお奪れしう今の幽寂の境とありたりぬ
 今戸橋 山谷橋より並ぶの橋にして今戸町あり今戸橋の

東 京 市 街

此處の名産なり
 今戸渡し 隅田川の渡しおして今戸町より隅田堤への渡し船塲あり此地頗る眺望あり隅田川を隔て隅田堤一帯相連り布帆の往來常に斷ゆる間おかりし若し夫れ春風苦蕩薫暖人を困するお方りてや數里の長堤紅靄岸を擁し宛然白雲の靉靄が如く秋月冬雪其賞皆佳おらざるなきの境なり
 新吉原 東都第一の遊廓地にして俗呼んで五町街といふ
 伏見町、江戸町、角町、京町、揚屋町の五花街あるを以てあり周圍に溝渠を繞して廓の區域をおす實に仙洞といふべきあり
 淺草田甫 千束村より日本堤の間ある田甫の總稱あり其以前に蛙鳴を聞くのみなりしが近時の漸々家屋立ち並び其間に残れるの田圃は多く遊を作りたれば荷葉始め

て氷上よ錢を浮ぶるころより遠く清香道ゆく人の衣袂を
 襲ひ特々花開ひて盛んあるに至りての往來するもの想ひ
 ず願望なせるとかや
 山谷 日本堤より小塚原に至るの街路おして山谷町と稱
 す市街稍繁盛なり此地の儘も熱鬧の市街を距れども自か
 ら紅塵を避くるが如きあり故に都下第一の割烹樓八百善
 も此にあり
 小塚原 山谷より北へ一繩手越たしる所おして今千住町
 と稱する地あり明治維新前までの罪人の刑場と唱びて幽
 寂の境ありしが今の町家並び立ちて漸次繁昌の所となれ
 り其間妓樓見世を構まへ絃歌の聲喧ましく俗呼んで小塚
 といへるの此處なりし
 千住町 陸羽街道及び陸前濱街道一に水戸街の首驛にして旅

舍妓館商店軒を錯へ繁昌の地あり殊に荒川を夾みて舟楫
 往來し運輸の便漁網の利夥かざればためお土地を賑し
 ぬ此地毎朝野菜河魚の市を開く千住市場と稱して其雜沓
 いはんうたさし都下お出るの野菜及び河魚の大抵此より
 來るものなりとりや其繁昌知るも足るべし
 千住大橋 都下六大橋の一あり里俗云ふ此橋の橋杭の樟
 樹を以て造りたるもの故文祿三年始めて架けしより取替
 たることあかりしと然るを明治十八年荒川筋洪水ありて
 汎濫せしとき打流し此木材流出のためよ吾妻橋をも没落
 せしめけり今の橋梁の其後建築したるものありき
 本所 兩國橋以東の市街を總稱する所の名なり元町の兩
 國橋の東なる市街にして往來頗る雜沓し甚だ繁昌の地な
 り

相生町 元町より縁町お相連り堅川の岸に沿ふ市街おし
て材木商薪炭商多き所あり
縁町 相生町お接する市街にして人烟稀疎ある所あり故
よ商店至りて少し津軽原と稱して下等の飲食店揚弓場相
連るの所あり恰も一の遊園場をさせるが如く盡く敢て賑
かあらざりしも夜間の運動がてらに入り來るもの夥しく
雑沓といふより寧喧噪といふかたなるべし蓋し此地に奇
怪ある動物變幻出沒するを捕んがためお否捕へられんが
ためよ來るものあるが故ありとか
東京乗合馬車會社 菊川町おあり四十輛の馬車を蓄へて
本社より兩國に至り兩國より一の淺車廣小路間一の小川
町通り九段坂間一の萬世橋より上野間一の本町通より新
橋間を往復して乗合馬車の營業をさす鐵道馬車と同トク

一區域間乗車賃二錢あり馭者車掌の恰も陸軍憲兵如きの
服装とさせり世間呼んで紅馬車といふのこれあり本社
益々其業務を擴張し往來の便を謀らんがためよ上野廣
小路お支社を置きて千住町に往復し尙新橋品川間も及
ぼさんと目下馬車製造中ありと聞ぬ
富士見渡し 横網町より淺草旅籠町お渡るの船場として
渡船の上より遙か富峯を眺むる故よ此名あり
中の郷 中の郷横川町本所横川町お相連るの市街おれど
も冷淡ある地にして瓦師最も多く此地の名産あり中の郷
瓦町に舊佐竹邸あり佐竹が原と呼ぶ原の高野山出張所と
されり其園地の頗る著名のものよて往時幕府が威張し頃
普代大名某が數万の紅血を絞りて作りしものありといふ
城内甚だ廣濶よして緑樹材をさし假山泉水の如き妙筆

の畫師も能く寫すべからざる程なりき園の名今の浩養園
 と呼びて縦覽料二錢あり又其中よ吾妻樓と稱する温泉兼
 割烹店あり
 枕橋 中の郷瓦町より新小梅町ふ架す橋より以北の所謂
 ゆる隅田堤にして橋上頗る風光ありて對岸を願望すれば
 葦を並べたるが如く其間み緑樹鬱蒼たる待乳山あり淺草
 寺の五層塔高く聳えて雲を衝くが如し橋畔水み臨みて大
 樓あり八百松といふ割烹樓あり
 向島 隅田川沿岸の地を總稱する所の名にして隅田堤の
 ある所あり農商雜居し甚だ閑雅あるを以て富豪の商風流
 の土居を占むるもの多し然れば農家のものも自ら雅致を
 喜ぶの風ありて農間四季折々の草花を培養して雅客に杖
 を曳かしむるの家多し殊に秋日の七草を以て奇觀とあす

遊人殆んど雜沓せぬばかりあり
 深川 一の橋以南の地を總稱する所の名あり此地往古の
 概ね淺沙遠く連りしが後世に至り漸次經營したる所あり
 故に溝渠縱横し疎通して橋梁の多きこと都下第一たり
 御船藏町 大川に沿ふたる市街にして元船藏相連りしを
 以て此名あり
 六間堀町 六間堀に沿ふ兩岸の市街をいふ六間堀の小名
 木川より北豎川に通する溝渠なり小名木川の東川より東
 に通じて中川に至る其間運轍の便頗る宜し此川筋に架す
 る橋梁夥多しして枚擧しがたし
 佐賀町 大川の東岸に連りて店舖簷を並べ商賣稍繁昌を
 あせり
 材木町 市街繁盛からざるも米商干鰯商軒を列ねて富豪

東 京 土 産

の商賈も多き地あり
 木場 木場町、島田町邊の總稱なり材木商最も多し各溝渠
 の水を疎して漚を作り材木を蓄へ且運搬の用に供す都下
 數百萬の大夏を營み高樓を造くるも皆木材の用を此より
 取る其販賣の廣き需用の多き此地商家の愈々盛大よして
 富豪の商賈多きを見ても都下繁昌の隆盛を知るふ足るべ
 し
 大島町 蛤町よ連る市街よして漁業を營むもの多しため
 よ市街甚だ清潔ならず家屋も亦矮小にして汚穢のもの軒
 を列ねたり
 仲町 富岡門前町よ連り茶肆酒肉店軒を並べ商店亦其間
 よ交錯して稍繁華をかしぬ此地の百年の昔岡場所を許さ
 れしとき娼院妓館櫛比隣次して都下の諸街よ先ち繁昌を

東 京 市 街

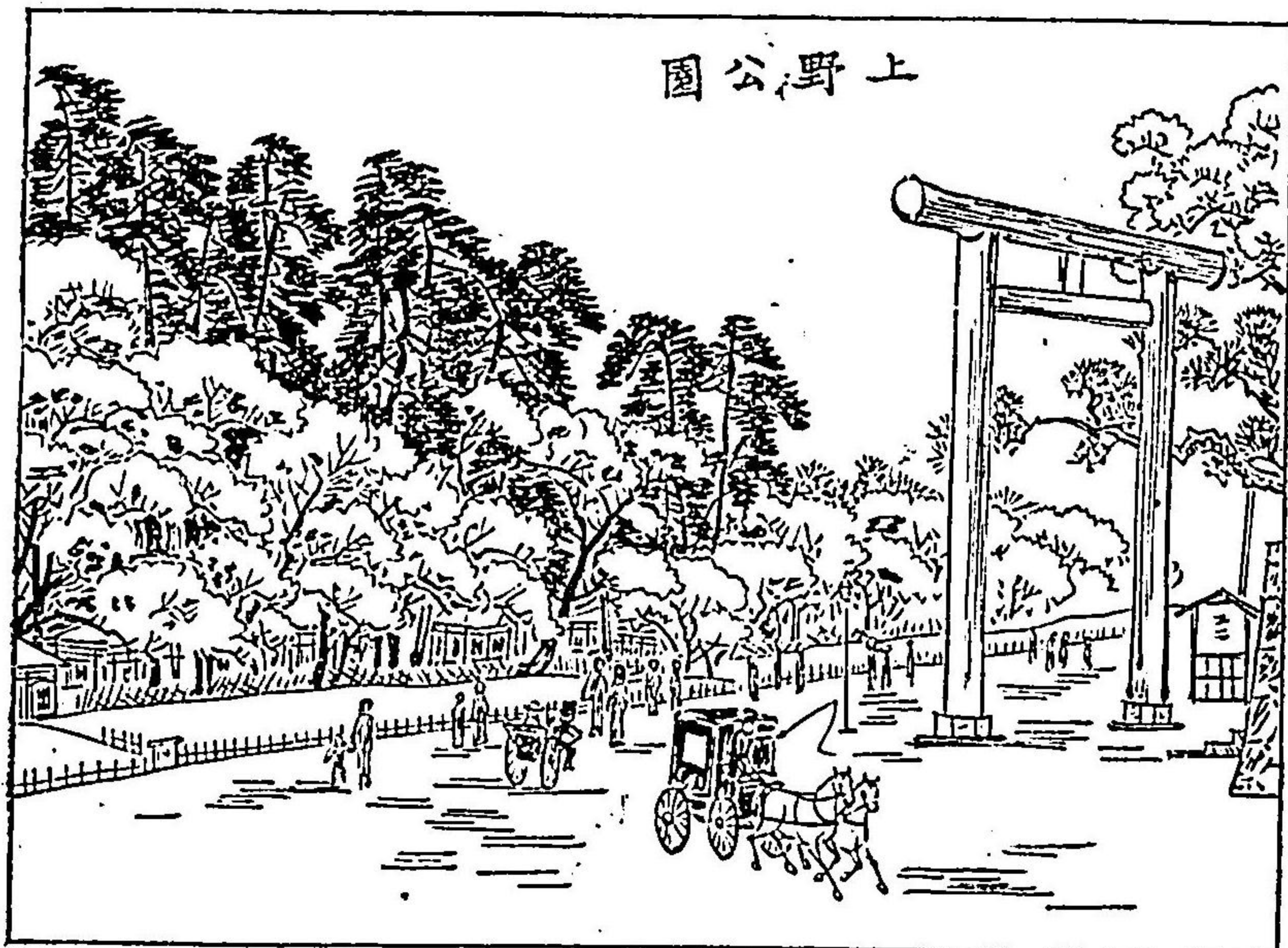
なせし處ありしが其禁止令の出しより俄に冷淡を來し僅
 お平康の名を存するのみ一新以後新吉原の燒失せしとき
 假宅と稱して一時妓樓を設けしも數日にして元地お復歸
 しより寂寥の境となりたり
 洲崎 木場の南よ連る小市街よして海岸に接するを以て
 眺曠絶佳あり殊に晚春沙干あす頃の都人の貴賤袂を列ね
 て真砂の文蛤を搜り又樓船を浮べ妓婦絃歌よ興を催すも
 のありて最も春色を添るの奇觀として愉快ありし秋おし
 て月色玲瓏たるを賞し冬にして一望銀世界の觀あり又酒
 樓の瀟洒あるものあり新鮮の割烹を合せり故を以て都人
 遊覽の一境地なり

公 園

附

名勝古跡 神社佛閣
上野公園

山を忍岡といひ氷を不忍池といふ七公園の一にして東叡
 山寛永寺のある所あり寛永寺の慈眼大師開基の梵刹よし
 て寛永二年徳川三代將軍家光が命トて西京の比叡山よ比
 し創造せしむる所あり伽藍根本中堂吉祥樓閣の欄干雲に
 架し瓦衝空に凌ぎ回廊輪堂鐘樓層塔の丹彩班斲として金
 碧煌輝し巍々一城の靈塲をなすこと二百餘年ありしが憐
 むべし慶應四戊辰の役よ兵燹お罹りて悉く烏有とありぬ
 蓋し東都中山水相映ト雪花風月四時の勝を鐘るものある
 ちし況やこの盛都紅塵の中お於ておや明治六年官この一
 勝區を修めて公園となせしより車馬のものも行き杖履の
 ものも往き民偕お樂んで行樂地の最大一となせり満山櫻



樹ふして開花の候よの白雲の霞あせたるが如く輕烟樹枝を擁して芳香かほ馥郁ふよくたり花を觀るの客又人を視るの人老幼男女綺羅相襲あひらし園内至る所煩わづらる雜沓ざつをさしぬ

觀音堂 清水の舞臺といふ西崖せがきに據りて堂を構ふ眼下した不忍の池水を臨み風景頗る佳よかり

彰義隊墓 摺鉢山すりばちの南ふあり戊辰の亂らんに官兵に抗して戰死せし徳川脱走兵の墓なり

東照宮 園の西方ふあり寛永年中の創建にして宮殿壯麗頗る善美を盡せり維新以來府社に列せられしが其以前徳川盛んかりし頃ハ諸人ハ拜觀を許れざりて宮殿を繞り縁樹蔭森として閑寂の境あり

黒門くろかど 往時上野南の入口ふ建てし所の冠木門かぶきとして戊辰の兵亂ハ砲丸の痕跡あとを遺したるを以て東照宮の門側かたに遷

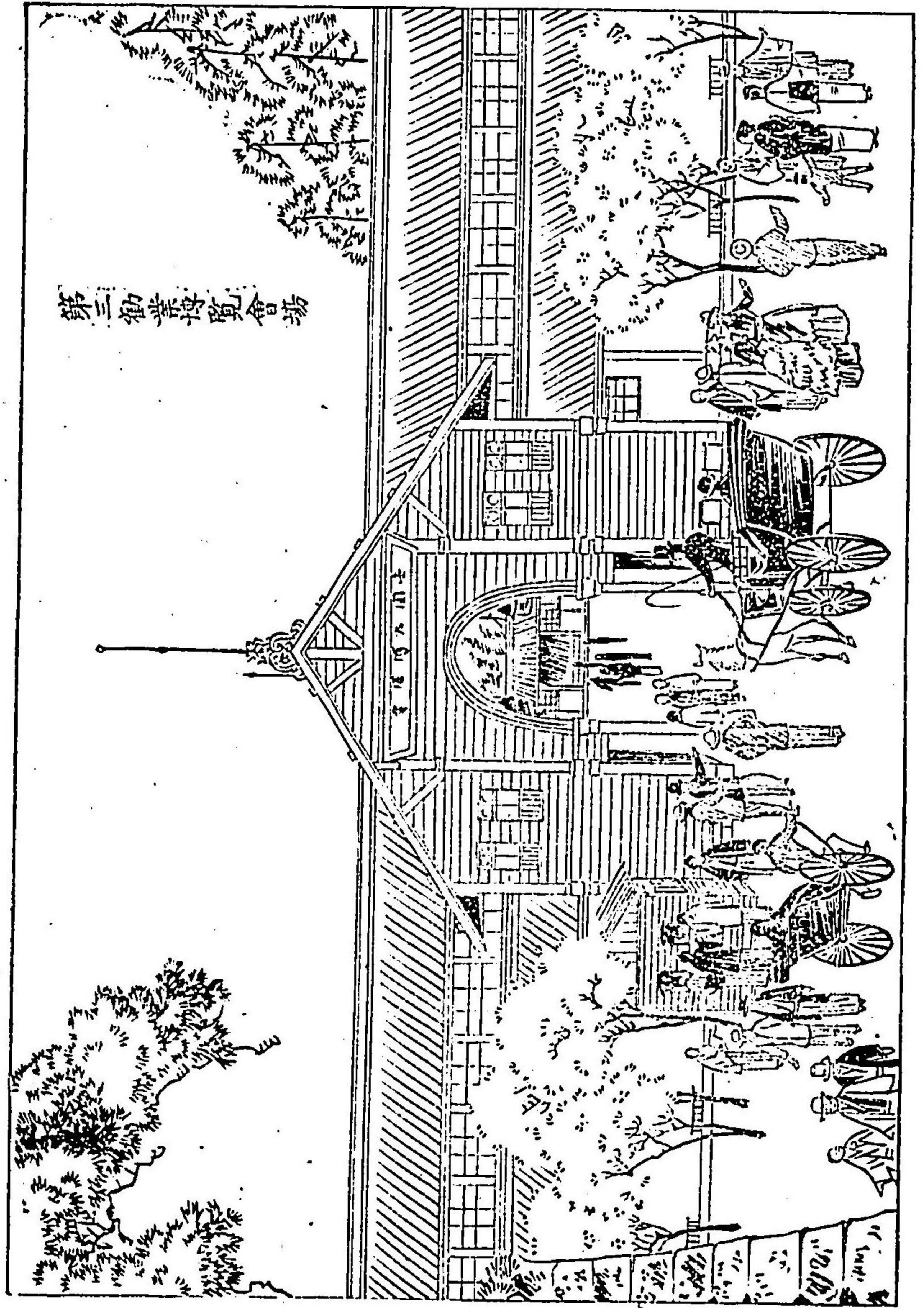
し存せり

徳川靈殿 徳川代々の靈殿ハ二ヶ所にあり金銀を鏤うめ壯麗を極めたりしうハ人目を炫耀けんせるが如き廟を繞りて二百六十餘の大名より奉獻せし石燈籠數千基羅列せり

根本中堂 維新後の新設しんせつとして十間四面なりこれを當今の寛永寺とさす

兩大師 慈眼堂といふ東北隅にあり幸に兵火を免れぬれば今元三大師を安置す舊時ハ都下の人群參殆んど虚刻うそざとありしが今日ハ詣するもの殆んど稀なるが如し

博物館 明治十年始めて内國勸業博覽會を開らざし時の建築けんちくあて結構宏麗こうれいあり表門ハ上野宮の御門を其儘用ゐしものにして門内に噴水あり千川上水を引きて高さ丈餘の噴水常とこに絶えず館を繞りて雜木扶疎そそ衆草蔓蕪むし四時日と



して花の開うざるあし縦覧料二銭なり館の前に當りて數棟の建築工事あり明治二十三年の第三勸業博覧場なるべし開會の日に至らば随つて觀を更め隆んかること、想るあらめ

上野公園

教育博物館 宏麗にして教育上に係る品物と聚集する所あり構内お東京圖書館を置く明治十八年舊聖堂内お設けありし書籍館及び淺草藏前米廩内おありし淺草文庫を合併したるものにて何人に限らず圖書の借覽を許す特別求覽券一回一枚五錢 尋常求覽券一回一枚二錢 の二種を區別せり動物園 園内に珍禽奇獸より蟲類に至るまで悉く畜養して縦覧を許しぬ牝牡二頭の象の暹羅國の王より 天皇陛下に贈られしものよて殊に見物ありし不忍池 公園内にして山下おあり池の中央お辨財天の祠

を安ず寛永年中僧正天海近江琵琶湖の竹生島に擬ひて池
 中に小島を築き辨財天の祠を建つ辨財天の慈覺大師の作
 かりと聞ぬ池の廣袤十餘町東西の二面の邱樹これを圍み
 澄潭一碧霖よして溢れず旱にして涸れず一面芙蓉にして
 夏秋の候の紅白種を交へ芬香甚はだ高し觀遊の觀都下第
 一たり池塘又楊柳を栽ゑ木柵を繞らして競馬場を設く丸
 馬場といふ其幽趣清致風色極めて佳なり園内を割烹樓あ
 り長蛇亭といふ其他上野の精養軒八百善支店より池の南
 端を繞りて酒肉店最も多く就中松源、鳥八十、雁鍋、岡村等其
 名あるものよして牛肉店蕎麥庵の如きの擧て算ふべうら
 ざる程ありき

芝公園

山を三縁山といひ寺を増上寺といふ徳川氏廟墓のある所

おして城内の七公園の一あり日本橋を距る南三十町ばか
 り深樹背を繞りて鬱茂し自から靈物の憑るが如きあり淨
 土宗總本山にして十八檀林の冠首たり開山の聖聰大和尚
 ありし舊幕府の時寺領一万五千餘石を與へ東叡山と共に
 祈願所たり其堂宇の金碧煌耀頗る巍峨たりしが維新の後
 灰燼となりて當時又建立略成りしも遠く先きの輪奐ある
 ものよ及びざりし
 樓門 本堂の前に東面し結構壯大美觀東都に冠たり寺鐘
 の門内にあり東都第一の大鐘おして響聲七里の海を隔て
 遠く房總の地方お聞えたりしが本堂焼失のときよ其樓宇
 烏有となり鐘も亦焼けて只其形を存せるのみ
 御成門 堂の北よあり往昔徳川氏佛參よ此門より入るが
 故よ御成門の名あり方丈の其左の方にあり舊大僧正の本

坊ありしかバ規模宏大あり當時海軍省の所轄に屬しぬ
 御靈屋 徳川六代將軍家宣の廟墓にして金銀珠玉を鏤め
 名工の彫刻等よて修飾あせる堂宇あれば其美麗日光の靈
 殿に次ぎで東都に比類あかりし近時庶人は拜觀を許せり
 東照宮 華麗を極め善美を盡したる宮殿にして上野と顔
 頰す一に安國殿と稱せり
 紅葉館 大厦高樓結構蒼苧よ懸り壯麗完美盡さるるあき
 の館あり貴顯紳士の共立あして謂ゆる俱樂部あり能舞臺
 の設けあり紅葉館といひし地は楓樹多きが故ありと
 東京勸工場 正札付厘毛引あしの物品を商ふ所にして家
 具の勿論種々様々の器械道具を陳列せる場あり田舎漢が
 物を買ふに懸引の世話あし買ひうぶりの愛ひあき故大
 に便利調法なる所あり然れど價の少し高きうたなるべし

此の始め辰の口勸工場と呼びて天葵屋敷跡にて開業あせ
 しが後上野公園内に移り又此に引きたり是を東京にて勸
 工場の鼻祖とあす
 丸山 園中の高丘をいふ縁樹鬱鬱として背を掩ひ花木繁
 茂して腰を繞り小坂蜿蜒して頂よ達す頂上に西京丸山稻
 荷を奉遷す故よ丸山と名けしとや南方の開豁よして遙
 に白帆の明滅するに東京灣に出入する房總の船舶あり眼
 下よ朱門白壁相連り高樓大厦並び時つに都下の市街なり
 灣よ沿ふて一帶の黒烟靡き飛ぶが如きの汽車の品川よ向
 ふて走るあり其眺望の絶佳ある人をして快餘魂飛ぶの懐
 ひあらしむ山背を下れば小池あり池中に天女廟を立つ閑
 雅幽邃の境なり池邊よ茶亭相並びて茶菓洋酒を商ふ茶亭
 にい治容艶盛の別嬪居並びて散步逍遙に來る客待顔をあ

しぬ
西坂 御成門より赤羽根通りへの道路にまて左右森林蒼蔚たる所なり故に晝も尙暗きはどなれば避暑納涼に極宜しき處あるが是まで夜間おの人の通行も稀ある位まで寂しきがためと絶えて納涼おと来るものありしが今度其道路の兩側へ瓦斯燈二十基を設置し点火することありたれば今後の夜間納涼の人定めて多かるあらんと想はる

淺草公園

淺草寺境内一圓を以て公園とす淺草寺の日本橋の北三十町許にあり千有餘年の古刹として都下香火の盛んある其右に出づるものあり一寸八分の觀音の靈像あるが故にらめ觀音堂の正南に向ひ十八間四面の宏大なる堂宇にして

玉籠寶帷金碧相映じ壯嚴の美都下の寺域に冠たり堂前の樓門を仁王門といふ斐楹の顔る壯あり何れも徳川三代將軍家光が喜捨に係りて成る所ありといふ十二の子坊の大門の東西に並らび住せり其廡下より玩具鋪小間物店繪草紙屋等簷を列らねて蠅豆を炒るの店紅梅燒店は撥々撥々の音喧すしく請來毎度ありがたうの聲と相混トて器々たり俗呼んで仲見



世と云ふ朝より夕に至るまで詣するもの運動がてらに散
 歩よ來るもの肩摩けんま毬たき撃げたり園内の最も熱鬧あるは十二月
 十七日十七日歳の市あり注連しゆまうざり羽子板其他種々の品物を販ばいぐ
 の露店櫛比並列して人の山を築けるが如し
 傳法院 淺草寺の本坊よまて巍然たる淨舎あり院の西北
 に二露佛あり佛に隣る石像を久米の平内といふ元祿年間
 の俠客なりといへり
 辨天山 天女廟を安置す側に鐘樓ありて晝夜時を報ず彼
 の其角宗匠が鐘の上野う淺草うと詠めるはこれが故なり
 五層塔 堂の側にあり高さ十餘丈にして尤も壯觀あり都
 下の東西南北其尖塔せんたの雲間お聳ゆるを望むこれにて其高
 きを知りぬべし

淺草神社 舊三社と稱したりしが維新以後今の名に更め

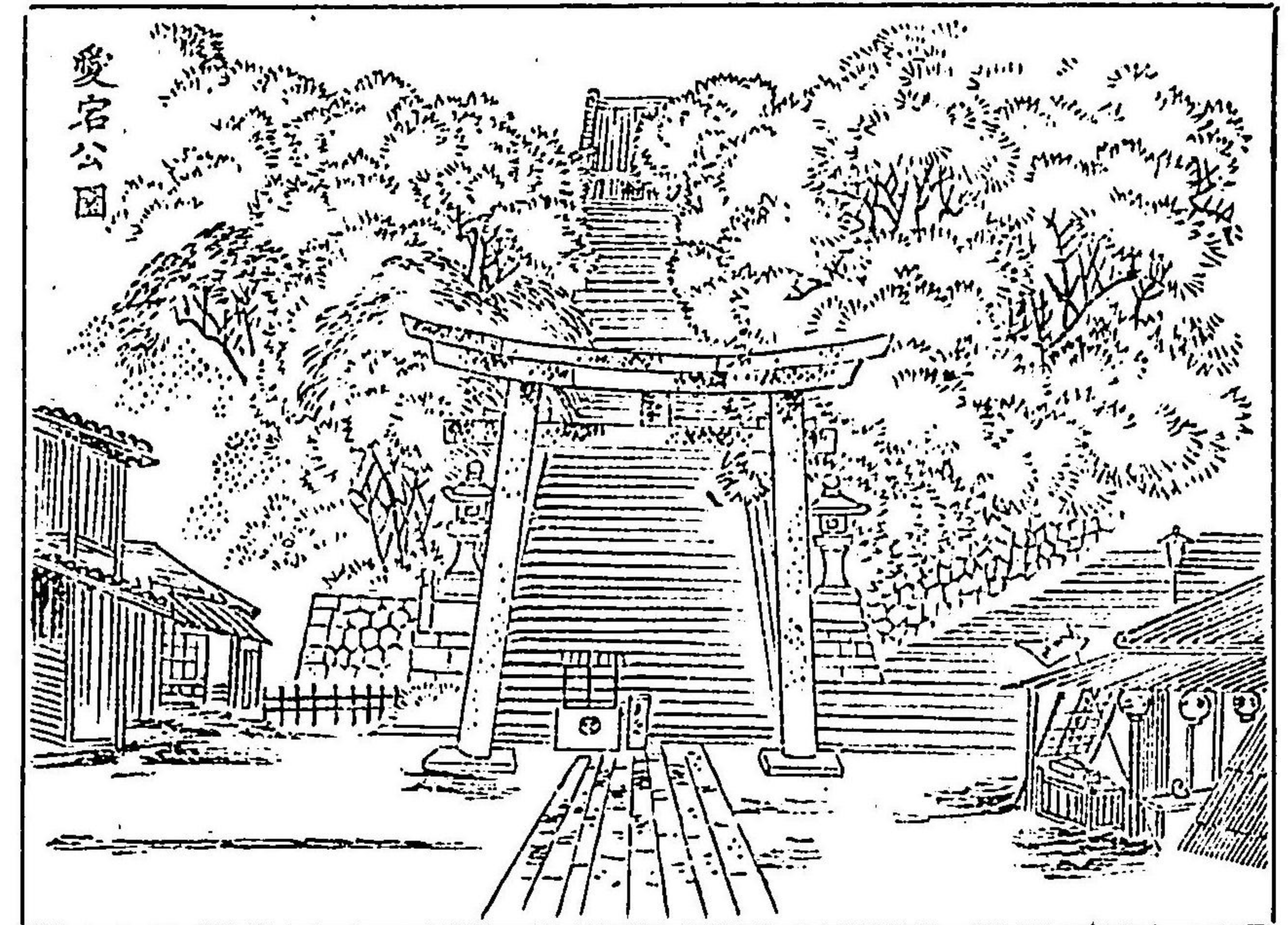
られ祭祀も亦神道の如くありし口碑又往昔尊像を宮戸川
 よて網せし漁夫の靈を祀りし所ありといへり
 念佛堂 堂後數十歩の所にあり常に僧徒相集りて相盤あひばん鐘
 又太鼓を交へて拍子面白く和贊わさん念佛の聲絶ゆるとあし其
 他の堂塔の無慮むりょ數十相連りて鴈行がんかう並列せり堂の西よ青板
 石の古碑あり釋迦如來の像を刻す今を距る七百年前鎌倉
 將軍頼嗣お仕へし鎌田三郎入道西佛の建る所なりとて中
 央より打ち折しを鐵材を添へて保存しぬ其間賣卜ばいぼく先生相
 夾りて筮竹をふり廻し一の天眼鏡を置く田舎漢鈍痴鬼が
 吉凶の判断はんぱんに却て籤中の多少を占うらなはる此邊總て奥山といふ
 花屋敷 俗植六と呼ぶ植木屋六三郎が花園あるが故あり
 竹垣を繞らし一勝地を開く幅員數百歩ばかり園の中央に
 五層の樓閣を建つ奥山閣といふ結構完美にして縦覽料五

鏡きり園内ふの千花万草青を圃のし緑を競ふ又數多の動物を畜へり就中虎の東都中只一匹のみ
 池堂の西ふあり廣袤甚だ廣く中央に橋を架す橋の上は藤棚を設く花時の奇觀ありし楊柳池塘を繞ぐりて稠茂し閑雅の趣きあるも西南北の三面の觀物場雜戲場相連りて笛聲鼓聲絃聲喧しくために殺風景を極めたりしが田舎漢や小兒の遊び場にい至極宜しき處あり
 揚弓店 堂の北に店と列ね茶舗其間に交りて阿娘各々嬋妍を鬪す逍遙の際弓を弄して的を狙ひ茶を喫して頬を燒くの所あり
 寫真店 園内至る所寫真店を開く恰も寫真店の陳列場といふが如きの觀あり偶々店前ふ立つものあれば忽ち出でて寫を促す尙揚弓店茶舗の阿娘か治客を招くに髣髴たり

江崎氏其巨擘にして域内に冠たるのみあらず都下皆推して好寫真師と稱しぬ
 飲食店 園内よあるもの其數夥し万梅一直松嶋等の割烹よして御手輕料理をあす萬盛庵の蕎麥店よして花月北村等の汁粉屋あり其他總菜字治の里の茶漬屋よして金龍山は餅屋あり

麴町公園

日本橋を距る西廿五町許り麴町永田町にあり山を山王山又の星ヶ岡とも云ひ社を日枝神社といふ官幣大社にして大山咋神を祀る都下第一の大社あり境内の七公園の一にして其地溜池の上よ峙ち古木陰森幽邃の佳境あり明治六年公園となりしより山を開き園を營み四時の花木を植そえたれば春の櫻秋は紅葉の詠よ富る計あらで遠近の眺望



愛宕公園

も一どしはに最美々しき所
 あり毎年六月十五日を大祭
 日となして氏子の町々より
 花車を牽き屋臺手古舞等を
 出し神輿の渡御ありて其賑
 かあるの神田神社の祭禮と
 共よ東都の二大祭とよびぬ

愛宕公園

愛宕町よ峙ち愛宕神社のあ
 る所あり境内の七公園の一
 よして懸崖倉穹を凌ぎ六十
 八級の石階直立して空お攀
 るが如し崖端よ亭榭を架し

紅粧の阿娘茶菓を賣るお慰あさいの嬌聲の自ら客をして
 慰ふの情をひき起さしむ山上一望すれば市街の阡陌萬戸
 を視芝浦の帆檣を眺め四時遊覽佳からざるなきの地たり
 丘下に茶舗あり酒樓あり又楊弓店ありて常お賑しきの地
 あり十二月四二十歳の市立ちて頗る熱鬧をかせり

深川公園

富岡神社のある所あして富岡門前町あり日本橋を距る
 東南三十町ばかり富岡神社の府社ふして應神天皇を祀る
 麗お深川八幡といふ境内の七公園の一あして舊八幡の別
 當たりし永代寺の庭園を開き花卉樹木を栽ゑたれば風色
 自ら幽雅にして閑静の趣きあり城内ふ茶舗割烹樓あり

飛鳥山公園

王子村よあり日本橋を距る北二里ばかり七公園の一なり

一方の断崖一の爪先上りの芝山にして往昔幕府にて櫻樹
 數千株を植ゑしが近年又園地を經營してこれに植添たれ
 ば花の頃の騒客こゝに群集してけるに殊に上野より汽車
 の便もありぬるが故一層熱鬧して上野王子間臨時汽車と
 發する程ありき山上の最と高きが故眺めありて荒川の流
 れの宛然白布を引きたるが如く崖下を走る汽車の烟りは
 黒帯を敷きたるが如く兩所製紙場の煙筒の空は知れぬ雲
 を起すかど見違ふ計りありつるは猶足立郡の廣地の田圃
 相連り目をうざりおして遙くに國府の臺を眺み北に筑波
 山緑を集め西は富士山白を抜き其絶景あるいはんうたさ
 きの勝地されば春花秋草夏涼冬雪よ來り賞し來り遊ぶも
 の最と多かりし外國人も殊に此風景を愛して常にお散歩運
 動お杖を曳けり且此の山下おの音無川の流も清く茶亭酒

樓の水も臨みて樓を構ふもの多く瀟洒の室美麗の席を設
 けて割烹の鹽梅口腹の慾を充たしむるに足る蔦屋扇屋海
 老屋等其名あるものにして向側の海老屋の西洋料理あり
 此地都下を離れしも地に停車場ありて汽車の便ありつれ
 ば春の花の頃より冬の雪よ至るまで一年三百六十日流れ
 お臨みて盃を洗ひ佳人お對して沈酔し歸るを忘るゝもの
 陸續多しとかや殊に夏日の緑陰に川風涼しく炎暑を知ら
 ざる程ありければ夏の長き日も何時う忘れて西山よ春く
 日脚よ驚き歸途汽車よ乗後れてコレハとばかり又人車に
 足を假るものあるは常なりしとか

都下公園と稱するものの上野、芝、淺草、麴町、愛宕、深川、飛鳥
 山等にしてこれを七公園と稱すれども已に市區改正條
 例の設計通りおありし上の四十九園とありぬべし然れ

とも今暫く是まで公園と稱へ來るもの、みを公園と見倣して此お掲ぐること、し其他條例は公園の名稱を附せらしものも神社佛閣の部に記すこと、おしぬ

名勝古跡 神社佛閣

兜稻荷 兜町にある小祠なり往昔源義家奥州征伐のとき
兜を埋め一の塚を築きし兜塚といひし處に倉稻魂の神を
奉祀たり故よ兜稻荷と稱しぬ
杉の森稻荷 新材木町新道あり往古藤原秀郷が將門退討のとき此神に祈誓し遂お其功を奏せし故建立せし所の社ありといふ

茅場町薬師堂 茅場町山王神社御旅所の地内にあり薬師如來の山王權現の本地佛たるが故勸請せしと云ひ傳へしが神佛混淆の昔いざ知らず今日よての甚だ不可思議千

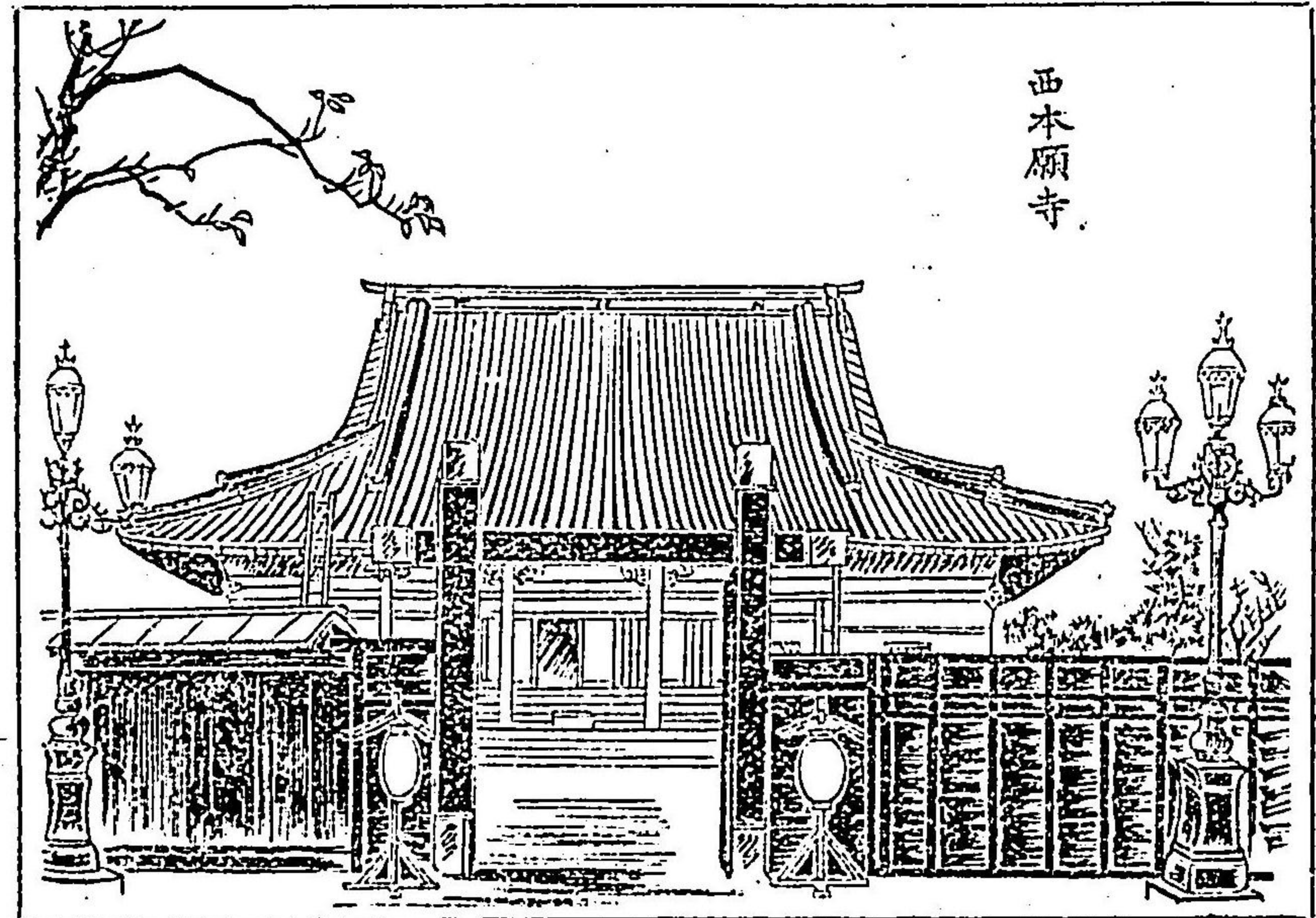
伊雑太神宮 八丁堀あり天照太神宮の別宮なりとら祭神の伊佐波登美命王抱屋姫命の二神おして舊社ありといふ

西本願寺 築地三丁目あり日本橋と距ること南十八町ばかり築地門跡と呼ぶ一向宗派にして西京西六條よりの輪番所あり塔中五十七宇ありしが今其名のみ本尊阿彌陀如來の泉州堺の信証院より移す所ありと開祖の准如上人にして寺の煉石を疊みたる壯嚴の結構なり毎年十一月二十八日開山忌として信徒のものの群集す俗これを御講とい

東 京 土 産

ふ其側に盲啞學校あり盲目
 啞聾お教ゆる所なり
 佃島住吉神社 佃島の鎮守
 よして攝州住吉神社を奉祀
 せり祭禮おの神輿を海中よ
 昇き入るが例ありといふ
 日比谷稻荷 芝口二丁目西
 裏あり京都藤の森稻荷を
 奉祀する所なり
 鳥森稻荷 鳥森町あり天
 慶年中秀郷が將門を追討の
 とき奉祀する所ありといふ
 歌妓の賽詣朝より夕よ至る

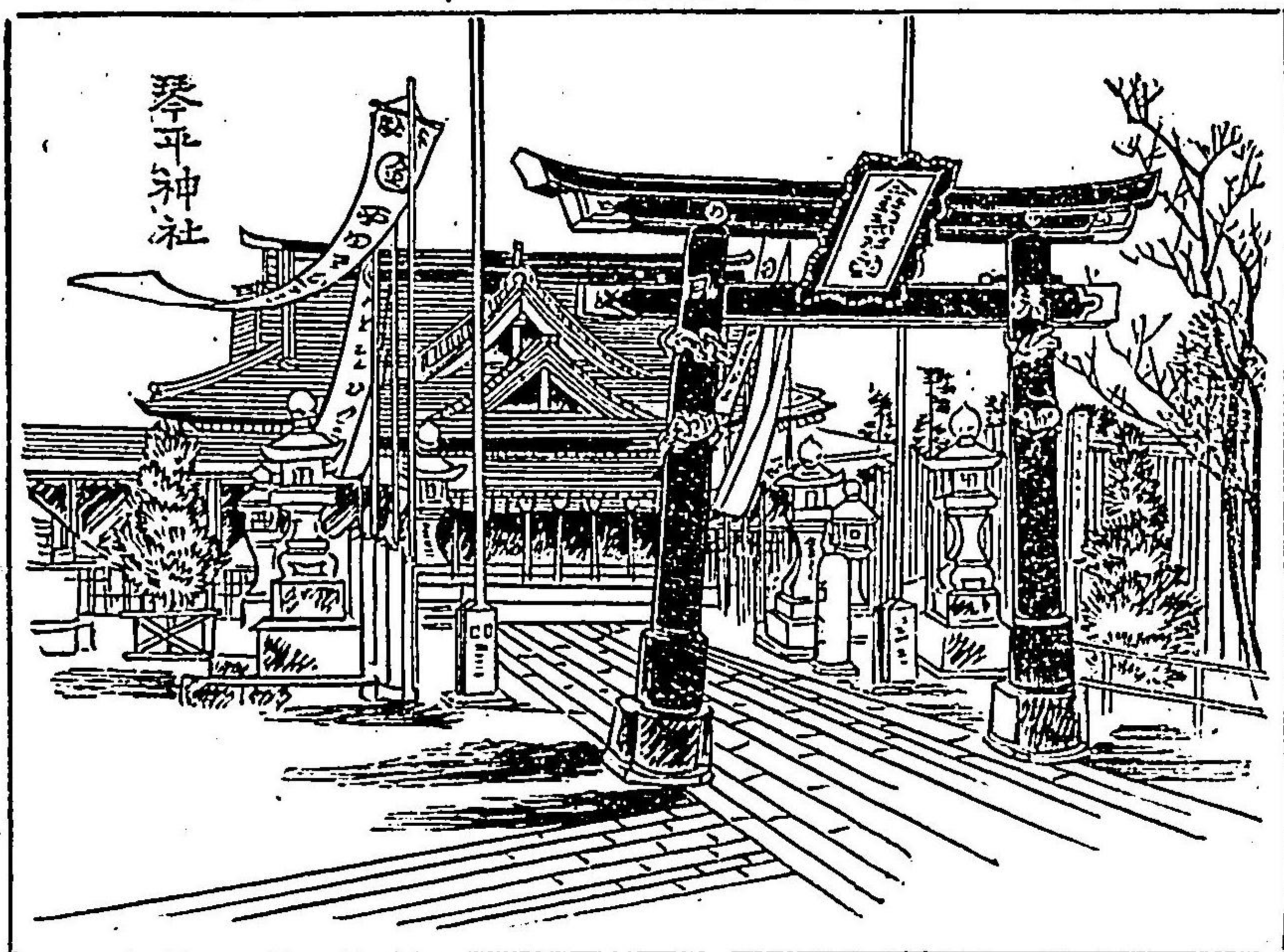
西本願寺



まで絶えず鳥森町に住む歌妓が來客と幸福とを祈るがた
 めなり蓋し歌妓が稻荷の祠お詣するの狐に縁あるが故あ
 らめ

神 社 佛 閣

天照太神宮 芝宮本町よ奉祀す府社格おして天照太神豊
 受姫神を祀る中古増上等境内より此に遷すと俗呼んで芝
 の神明といふ境内廣うらざるも揚弓店軒を連れて自首の
 阿娘矢取よ侍りければ晝夜よ入り來る客も藝的の戯れを
 あすまわらずして阿娘の聲を的まするもの多く故に往々
 奇怪の醜聞を流布することありみき兎よ角此域内の賑し
 きい太神の恩みありぬべし又社前よの飲食店多かりて繁
 昌をなせる中よ太々餅の人の知る所あり
 琴平神社 琴平町あり府社格にして大物主神崇徳天皇
 を祀る俗呼んで虎の門金比羅といふ其虎の門外ああるが



故あり毎月十日を例祭とす社前より社外の町々を露店を張るの商人の處せまきまでお居並びつ賑は都下の善男善女の申に及ばす近郷近在より参詣に来るもの夥しく其雑沓して賑はさるいんかたなきばかりなり
 青松寺 萬年山と号す愛宕町にあり曹洞派の禪刹ありて都下三ヶ寺の一あり文明年間の草創なりといふ巨大の寺域にして堂内甚だ廣げ

名 勝 古 跡

れば時々演説會場に假るものあり
 天徳寺 光明山と号す西の久保神谷町あり東都浄土宗四ヶ寺の一あり天文二年の草創ありして頗る著名の寺院ありしが今の焼失去て其跡を存せるのみ
 八幡宮 西の久保八幡といふ八幡町にあり寛弘年中石清水八幡と奉祀せる所あり社地甚だ高燥ありして閑雅の境あり
 春日神社 三田二丁目あり其地高くして眺望お宜し
 魚籃觀音 三田聖坂の上あり淨閑寺の域内に安置せり
 功運寺 同所功運寺町あり境内に綱の塚あり
 齊海寺 同所あり昔の芝竹寺と稱して眞言宗の巨刹ありしが中古荒廢せり庭中芝浦の海岸を見おろし絶景の地あり月の岬といへるも此邊の總名ありぬべし

泉岳寺 萬松山と号す芝車町あり曹洞宗都下三ヶ寺の一あり舊櫻田ありしを寛永年間今の地に移したりぬ當時の浅野家の香花院にして浅野内匠頭長矩および大石良雄等赤穂義士四十七人の墳墓ありて頗る其名著るし二月三月四月に其入々の英名を追慕しつるため此に歩を運ぶもの最と多りし殊に境内の高地にして芝浦に向ひ景色も亦一としはにてありければ春の花の頃よの茶店を出すものありて賑ひをさしぬ且堂後の庭園の閑雅ある營みなりしが近來大に荒れ廢て殆んど見る影なきの惜むべくもあを哀れにこそ

如來寺 歸命山大日院と号す俗呼んで高輪の大佛といふ泉岳寺の南隣りあり本尊五智如來の坐像にして各一丈あり木食但唱師の作にして寛永年間の開創なりといふ

東禪寺 高輪北町あり禪宗として東都四ヶ寺の一あり

御殿山 高輪の西南端あり丘陵あり慶長元和の頃此地に御殿ありし其遺跡あり此名ありと丘陵の東海に面ひ數歩相連りければ景色絶佳の境なり故に寛文年間大和吉野山の櫻を移し植ゑたり春色明媚の頃よの爛熳として雲とまがひ雪と乱きて花香遠く浦風に吹き

御殿山古図



送くり磯菜つむ海人の袂を襲ひて瓢を肩に擔へる騷客群
集あしぬれば最と賑うありしが近來の遺跡の名を存する
のみ

東海寺 萬松山と号す品川町あり寛文年間澤庵和尚の
開創ありといふ當時の品川町の名勝區にして門前の綠水
の潺湲として目黒川に入り下流東海に注ぎ屋後の青山崔
嵬として祇植の祠の松間お聳え茂杯脩竹幽邃の境あり實
は禪心をすましむるの一巨藍たりしが今の寺刹狹小にし
て城内お硝子製造場の設けありて大は風致を損せるもの
如し

海晏寺 補陀山と号す曹洞派の禪刹おして同所にあり北
條時頼の開基ありといふ城内は時頼および時宗二階堂出
羽守梶原景時の石塔ありしが何れも其移しあらんといふ

説あり當寺の城内の東都丹楓の名勝區にして晩秋のころ
の滿庭錦繡を裁するが如く房總の翠巒の紅ひあそ葉分に
見えわたり渺々たる蒼海の夕日は映じて又紅ひを洗ふが
如く堂塔僧房皆其色を輝きて最と奇觀ありしが明治の始
め大いお樹を空ふし舊時の觀を損ひしも雅客閑人が杖を
曳くことお敢て異らざりし

品川神社 東海寺の山上にあり品川町の鎮守にして俗牛
頭天王といふ例祭六月おの神輿を渡御し海中お昇き入る
これを興洗と稱す甚だ賑をあせり町の中央に荏原神社あ
り俗呼んでかつば天王といふ

八景園 新井宿村おあり高阜お據りて園を開く樹木を植
る花卉を栽しぬれば青綠翠を競ひ紅白相争ふて四時日と
して花開りざるおし殊に梅樹の其株幾何なるを知らざる

程ありければ花の候よの香氣満庭よ芬々たり且地東海に
 面ひ遠望開豁ひらとして翠巒渺々の間ひ白帆の明滅する宛
 然濱千鳥の群れ飛ぶが如く風色の佳妙一目の中は集り豈
 八景の勝のみあらざるあり況んや又酒樓客舎の設けある
 に於ておや然らば則ち天下の騷客たるもの競う敢て來り
 賞し來り遊ばざらんと餘り大げさなれども丘下に大森停
 車場ありて汽車の便もありぬれば一日の遊びに宜しき
 處あらめかし

本門寺 長榮山と號す池上村あり大森停車場より西二
 十町ばかり日蓮大師寂滅の處おして弘安年間の開創あり
 といふ坊舎三十六宇斐楹相映じ堂塔並び峙ち自ら一域の
 靈場をちまぬ毎年十月十三日又會式あり宗徒の信者遠近
 より集ひ來りて堂内に籠る其賑はしき殆んど雜沓せぬば

池上温泉之圖



かりなり境内甚だ高岡なら
 ざるも深樹陰森として閑雅
 の趣きあり門前の兩側より
 茶舗酒樓りやうを連ねたり
 池上温泉 近時此境裏に温
 泉を發見して温泉宿を開く
 もの數戸其中光明館最も著
 名にして樓の結構も亦瀟洒
 あり温泉の功能は胃病、脚氣、
 肺病、癩麻質斯、子宮病、疝氣等
 ありと聞く此地日本橋を距
 る三里ばかりありぬれども汽車
 の便あるが故入浴うた

一日の遊びに出かけるもの多く漸く繁昌を志しぬこれ自ら市街熱鬧の塵埃を避け一日の消光は所愛を携へて遊ぶは妙境あるが故あり且地東海に瀕する大森邊は近ければ魚類の新鮮を食ふを得べし

新田神社 府社格にして矢口村六郷川の邊にあり新田義興の靈を祀る社前古廟碑あり服部元喬の撰文ありて鳥石の書あり十騎社義興の家臣十人を祀る道を隔て、向あり

蒲田の梅 蒲田村にあり大森停車場より數町ばかり村内の民家の前庭後園悉く梅樹を栽し其實の熟するを採りて都下に鬻ぐ一の産物ありされば開花の候は至る所雪を点綴し積郁綴紛たらざるなし近時遊賞するもの年一年より増しぬれば梅樹の間は亭を設け茶菓を賣るの家ありて

雅客閑人が杖を曳き幽香を探る休憩所と志しぬ

要島辨天祠 羽田村の南端海中に斗出して一岬をなせる所を洲崎といふ辨天祠のある所あり故に洲崎辨天ともいふ祠地の眺望最と秀美にして東の滄海渺々限りなく遙るは房總の翠巒隠見し南の玉川の下流六郷の海口は臨み清流混々たり西の海老取川を隔て、東海の驛路相連り遙るに望めば白雪を織く富岳の雲邊は聳え北の筑波山峨々として翠を刷す其間の風光は謂ゆる飛雨行雲氣象萬千あり

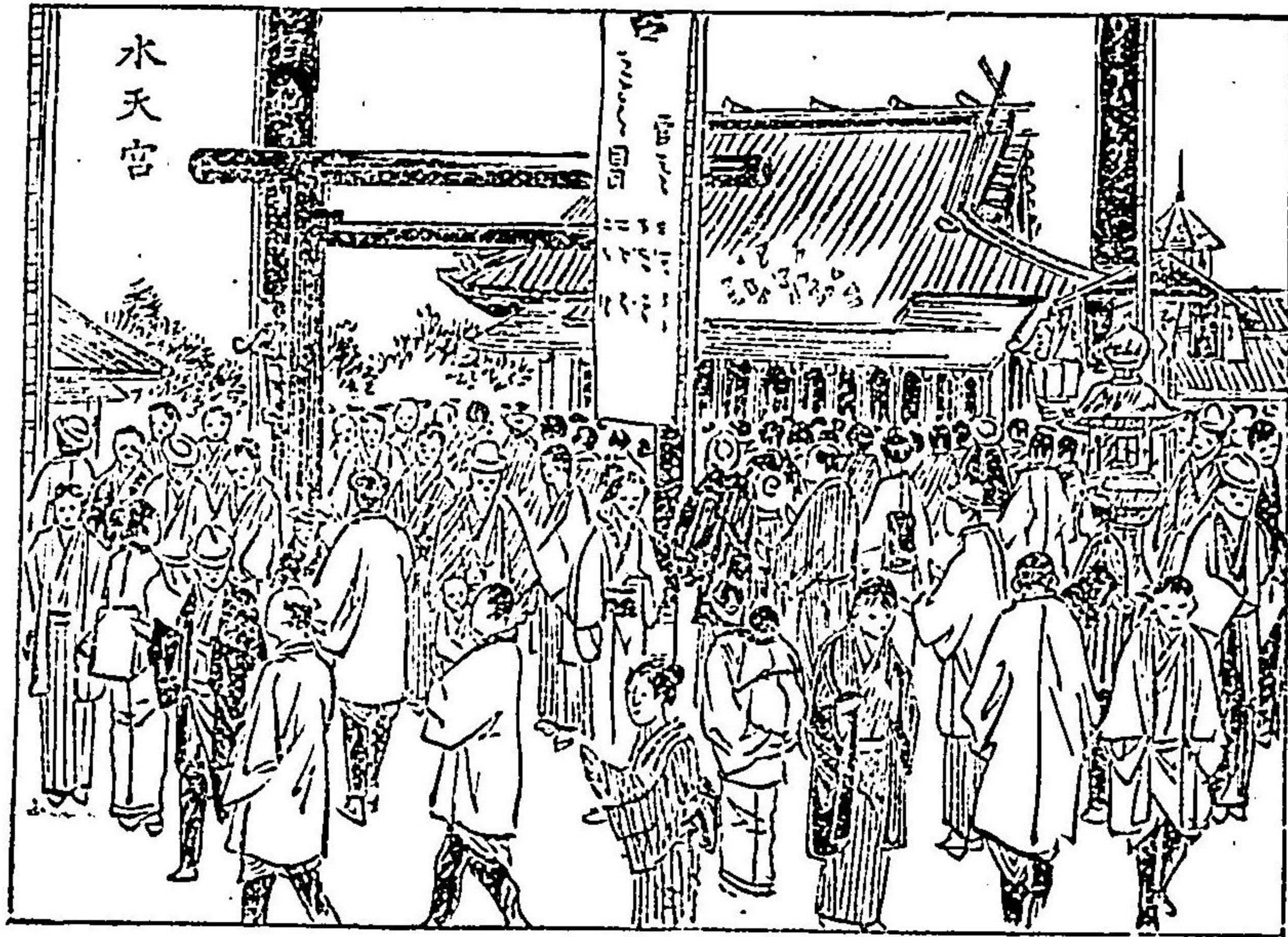
目黒不動堂 目黒村にあり泰叡山瀧泉寺と號す大同三年慈覺大師の開山といふ境内甚だ高く樹木鬱蒼たり正面は石階數十級あり男坂といふ側面は女坂あり本堂の階上に峙ちて結構壯嚴なり石階の側に靈泉滔々漲ぎり落つてれを獨鈞の流といふ當寺の垢離場あり境内に堂塔雁行並

列す樓門の如きハ殊ハ巨大あり詣人常ニ多く香火また盛
 まして門前の左右ハ大國屋、宇知田、角伊勢等の酒肉店あ
 りて瀟洒の趣を辨へたりぬ此地ハ荀の名産あれハ其期節
 ハ其味を賞せんとして來るもの多く時に牡丹の花も開
 きぬれば遊觀するもの亦最ト多かりき抑モ此地の繁昌ハ
 往昔ハ似ずといへども四季の眺望もありぬれば城南の人
 ハ遊歩の地となせりとりや
 祐天寺 明顯山ト号す同地にあり享保年間祐天和尙の開
 祖ハ係る常行念佛の道場ハして鉦鼓の聲山林に響き餘裕
 たり毎年七月十六日より二十五日ハ至るの間阿彌陀經千
 部讀誦修行ありて道俗の參詣最ト多かりける
 淨眞寺 九品山ト號す玉川村の字奥澤ハあり俗呼んで奥
 澤の九品佛といふ珂碩和尚開基とる所の淨刹ハして九品

九會の靈場たり
 長谷寺 普陀山ト號す澁谷村ハあり曹洞宗にして東都檀
 林の一室あり本尊ハ二丈六尺の高像ハして御首の中ニ四
 寸の觀音を安置せり境内ハ古松老杉蒼鬱として寂々寥々
 をあしぬれば佛家の謂ゆる坐禪公案のためハ便よく佛目
 祖風を仰ぐ勤めよよろしうるべしとなり
 澁谷八幡宮 同地ハあり應神天皇を祀る即ち鎮守なり
 富士見坂 同地ハあり富士峯に對ひて其正面を眺めけれ
 ば此名あり坂を下りて小川の流に架する橋をも呼びて富
 士見橋といへり
 善福寺 麻布山ト號す山元町にあり親鸞上人が弘法の地
 ハして關東七ヶ寺の一大院あり
 氷川神社 麻布西町にあり太田道灌の奉祀する所ニして

舊地の麻布切通にありて大社ありと古記に載せたり一本
 松の神木ありしといひ傳へぬ
 霞山稻荷 櫻田町あり往古霞ヶ關の上ありしと以て
 斯く呼べりといへり
 城山の古跡 西の久保城山町の邊をいふ熊谷直實が城址
 ありと口碑いひ傳へぬ
 氷川神社 府社格にして素盞鳥尊を祀る赤坂氷川町にあ
 り
 豊川稻荷 赤坂一ツ木にあり近來新又堂宇を建立して甚
 だ華麗を極めたり神靈最と有がたしとて詣するもの常に
 絶えざる中お歌妓の信仰の殊お深く那呼んで豊川様とい
 ふ來りて詣するをかりからず各々家お神檀を設けて飾立
 て朝夕拜するが上おも客の招きあるとき必らず出づるよ

先だちて拜するを例とす其厚き知りぬべし
 善光寺 南命山と號す青山南町にあり信州善光寺の宿寺
 おして淨土宗の尼寺あり
 須賀神社 四ッ谷須賀町にあり素盞鳥尊を祀る四ッ谷の
 鎮守として俗牛頭天王と呼ぶ
 篠寺 四谷山長善寺といふ四ッ谷鹽町三丁目あり寺の
 庭中小篠繁茂せるを以て呼びて篠寺といふ今尙寺前に柵
 を繞らし篠を植えて其名を永世に標しぬ
 津の守邸 四ッ谷車力横町とよべる所にあり舊津の守の
 邸跡にて山あり水あり其風色甚だ閑雅幽逸ありしが故開
 きて遊園とちし茶亭を設け酒樓を營むものありて運動遊
 歩がてらよ一杯を傾くるに宜しき所ありしが近來の庭中
 大に荒れて見る影もあき程ありしに最も惜むべきことあり



水天宮

門前數町の間街市の左右に露店並び連りて其間又觀戯の場を開くもの多く都下のもの更なり近郷近在より參詣のもの群集して其賑しき雜沓を極めぬ
 祖師堂 舊囚獄跡に建立す
 小傳馬町にあり維新の際まで傳馬町囚獄とよびて數多の囚人を繋留し且城内よて刑罰を行ひしが其後取拂とありし跡地又就き祖師堂を建立し刑場の露と消し囚

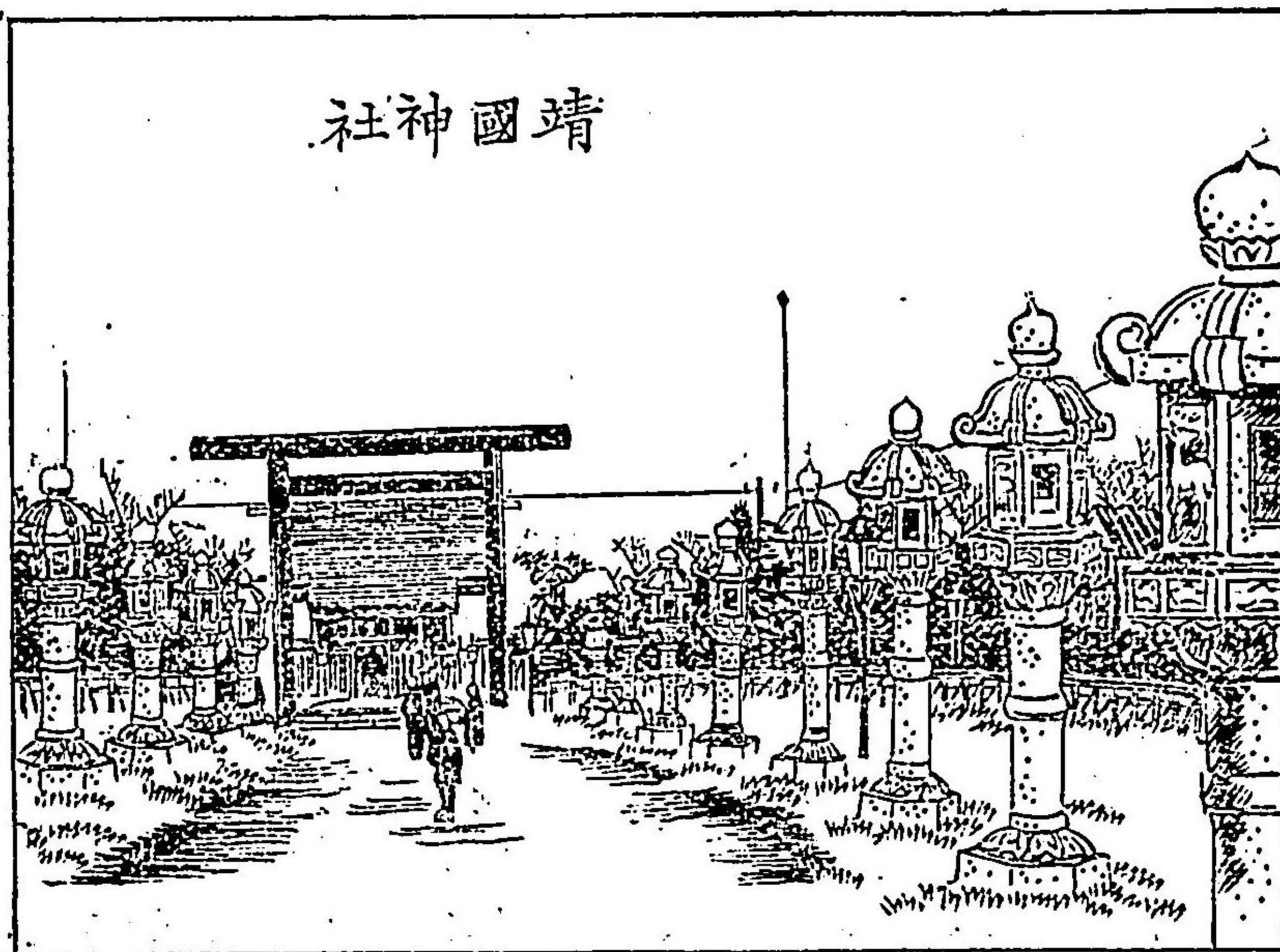
れ然れど天然の風光と上水を引きて造りれる瀧の更も眺めありし
 櫻田の風色 宮城の西南濠ふかく塘高く透運迂回する邊の風色最と麗しく堤上より宮城のうたを眺むれば城樓高く茂林脩竹の間に峙ち奥遠いふべきさく堤下の濠氷下漱艶として生ひ繁れる蒹葭の風に靡きたりしが今の悉く刈り取りて一としは瀟洒とあり其間鷺鴨相逐ふの情の幽遠も亦自から太平の象を現しぬ更ふこの地の往時を追想せば幕府の閣老井伊直弼が水戸浪士のために刺れし處にして陰雲悲風の日堤上の柳瀟條として尙當時の慘狀さぞかしと想いやらる
 水天宮 人形通りの東蠟壳町あり府社も列す祭神の安徳天皇建禮門院二位尼平時子なり毎月五日を例祭とあす

人追^お用^りのためおあせしと其れより域内に勸工場雜貨店觀
 戲場並び立ちて最も賑しき處とありぬ
 藥研堀不動尊 藥研堀町お安置す毎月二十八日を縁日と
 なす茅場町藥師の縁日と同じく雜商粟^あ駝^ま師^や露店を出して
 頗る雜沓せり都下佛寺の縁日の數多あれども植木商の多
 くして莫^た大^たの商ひあるに此縁日ありとか聞きぬ又毎年十
 二月二十八日歳の市立ち淺草市に續ぎて賑うあり
 郡代屋敷 今の馬喰町の地あり俗お板新道といふ揚弓店
 簷^のを列ねて治^や容^まの阿娘粧^{つりま}飾^て的^てねらいの客を待つ晩景よ
 り變^か的^て好^ち射^ち手^いの聲^{かま}喧^びびすしく夜^た關^たけるころまで頗る賑う
 あり

柳森稻荷 神田柳原通あり太田姫稻荷社の駿河臺土手
 際^にあり於玉稻荷社の神田於玉ヶ池あり何れも祠の小

あれども古き社ありといふ
 靖國神社 九段坂上富士見
 町あり日本橋を距る西二
 十五町ばかり爰も招魂社と
 稱す今官幣社と列せられ維
 新以來王事お死せしもの
 靈魂を祀りし所なり社殿の
 結構本邦の古制おして美麗
 といふにあらざりしも神
 威赫々たるの造りあり社前
 銅製の華表あり宏大都下
 に冠たり域内頗る廣濶よし
 て後も假山を設け玉川上水

靖國神社



を引きて池を作り噴水を装置し丈餘の噴水潺々たり且白
 簾深樹の間は懸りて清冽あり鯉魚の其間も潑潑躍らんと
 し金魚の優々游泳せり園地樹木を栽植し花卉を培養し四
 時日として花の開かざるなく閑雅の佳境あり毎歲二期五
 月十一に大祭あり競馬烟火相撲等の技を演して頗る熱鬧を
 極めぬ
 競馬場 社前の廣園を設く坪を繞らして祭時競馬場とさ
 す馬場の正中を通じて石燈籠數十基並列せり
 遊就館 園内もあり煉石を疊みたる最と宏壯の樓閣なり
 日本舊時の戦具刀劔弓矢の更あり鎧兜の廢れたるものよ
 り泰西諸國の兵器武具を集聚陳列し毎日曜日開館して縦
 覽を許しぬ遠くの豊太閣の唐冠近くの台灣蠻地にて獲た
 る刀劔戎服砲門等觀るもの當時勇將強卒が心膽を追懐せ

しむべし

常夜燈 九段坂上より丸石を疊みたる燈臺にして其地
 城西の高地あれば燈光四方に輝き燦然として里外を照し
 ぬ俗よんで九段の常燈明といふ燈下頗る遠眺ありて遠く
 の東京灣近くの都下の千門萬戸目中に聚りて開豁の觀あ
 り坂の南濠水の湛へたる所を牛が淵といふ風光亦佳あり
 市ヶ谷八幡 市ヶ谷八幡町にあり神功皇后を祀る文明年
 間太田道灌江戸城守護のために相州鶴が岡八幡を奉遷し
 て田園までを寄附せりといふ其後天正年間焼失せしが東
 照公の賢母桂昌院が喜捨せし黄金にて社殿を經營し神興
 の修造ありて往昔に倍したる神區とありぬ地甚だ高く數
 十階の石磴ありて眺望最と麗し
 神樂坂の上寺町行元寺あり毘沙門天の善國

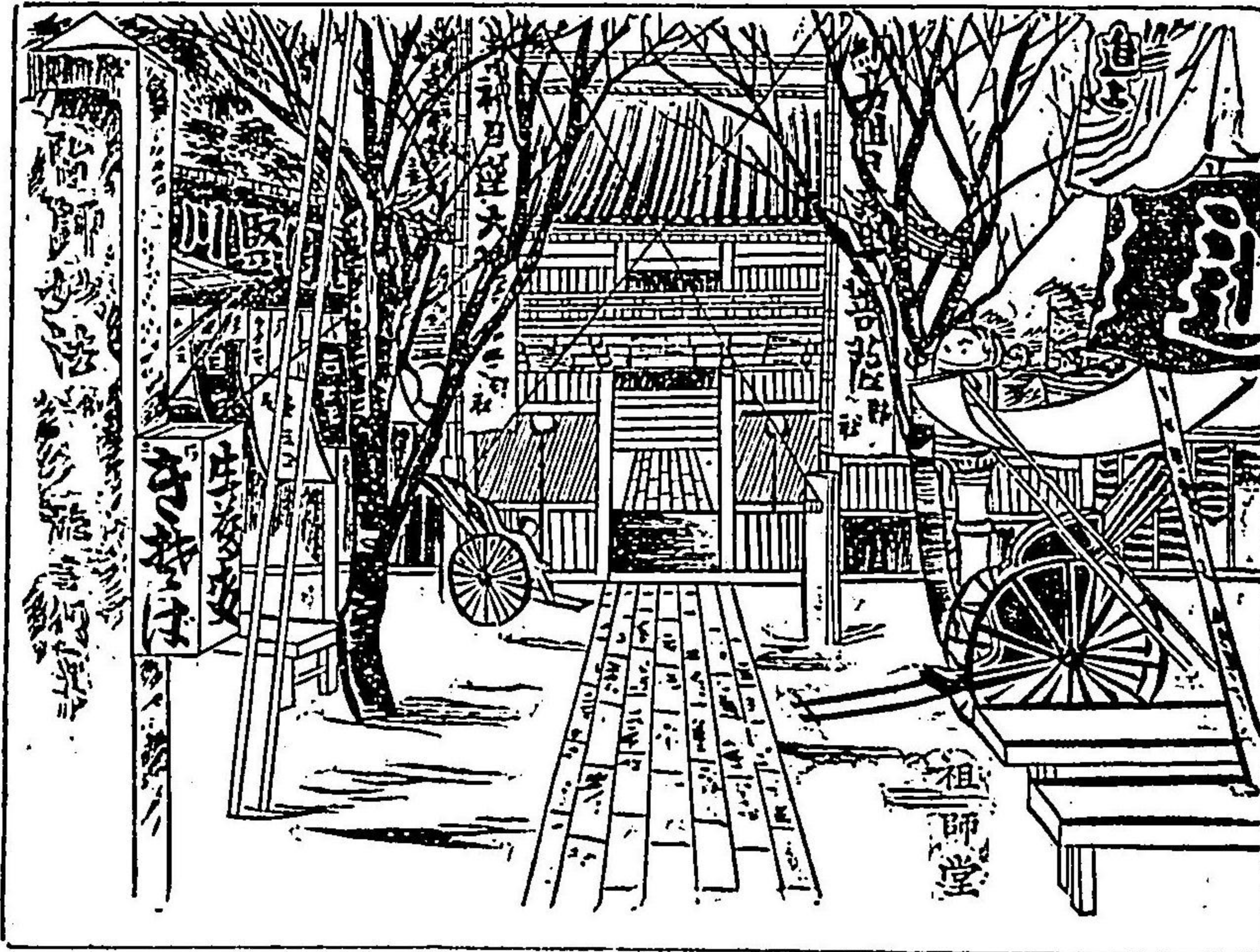
寺あり其側は松源寺といふ禪林あり東都四ヶ寺の一にして俗よんで猿寺といへり
 赤城神社 牛込の鎮守にして赤城町に祀る若宮八幡の若宮町あり鎌倉鶴ヶ岡の遷神ありといふ
 大久保天満宮 大久保町ありあつめ天神といふ北野と同社にして東帯の神なり城内と隔て、七面堂あり堂の前は櫻樹多く花時より爛熳たり
 大久保花園 大久保村の民家の種樹を業とするもの多く就中映山紅の此地の名花にして至る所栽培ざるなま故に彌生の末に叢り開きて枝莖と蔽し満庭紅をそぐが如し夕陽に映して錦織の林をなしぬれば一しほの壯觀ありて紅艶を愛する騷人が杖を曳き殆んど雑沓せぬばうりの賑をなしぬ

植物御園 宮内省の所轄にして内藤新宿町に設く園内に千種万類の植物を培養せしが就中菊花の見事なりしとか
 太宗寺 霞關山と號す内藤新宿町あり淨土宗にして地内は丈餘の焰魔像を安置す俗太宗寺焰魔とよびて淺草藏前の焰魔と共に都下の二大焰魔とあす一、七月の十六日この境の外せまきまでお緑日商店を張りて參詣の人群集をなしぬ抑も此日の都下商店の番頭より丁稚に至るまで一年二日の數入りと唱ふる日あれば殊更は熱鬧をなせり
 新日暮の里 千駄ヶ谷村日蓮宗仙壽寺の庭園と爾よべり境裏の地勢林泉の趣き幽邃閑雅にして谷中日暮里に似たる静逸よしわれは相對して假初も此名ありとや満庭櫻樹として花候至れを爛熳白雲のたなびくが如く氷に臨みて一としほの眺めあり近時の訪ひ來る騷客も最と多か

りしと

十二社 淀橋町の内字角筈といふ所あり祭神紀州熊野
 又同ト鈴木莊司重邦の後裔鈴木九郎が祀る所あり世俗誤
 りて十二社とよぶ境内ふ大ひなる池あり池を繞りて松杉
 の大樹鬱鬱し閑雅幽寂の場なり池水の清冽あらざりしも
 其落ち口を漉どかしのぬれば三伏の炎暑おも尙清涼にして
 最も避暑納涼ふ宜しく近ごろの茶亭を出すものありて歩
 を運ぶもの多し

寶泉寺 明王山無動院と號す中野村ふあり著名の寺院よ
 おして享保年間交趾國より貢獻せし馴象の古骨を藏むる
 の世人の偏く知る所なり抑も近來堂宇の修築あければ大
 お荒廢のすがたよありしは惜きことなり
 堀の内祖師 和田堀の内村にあり日圓山妙法寺と號す日



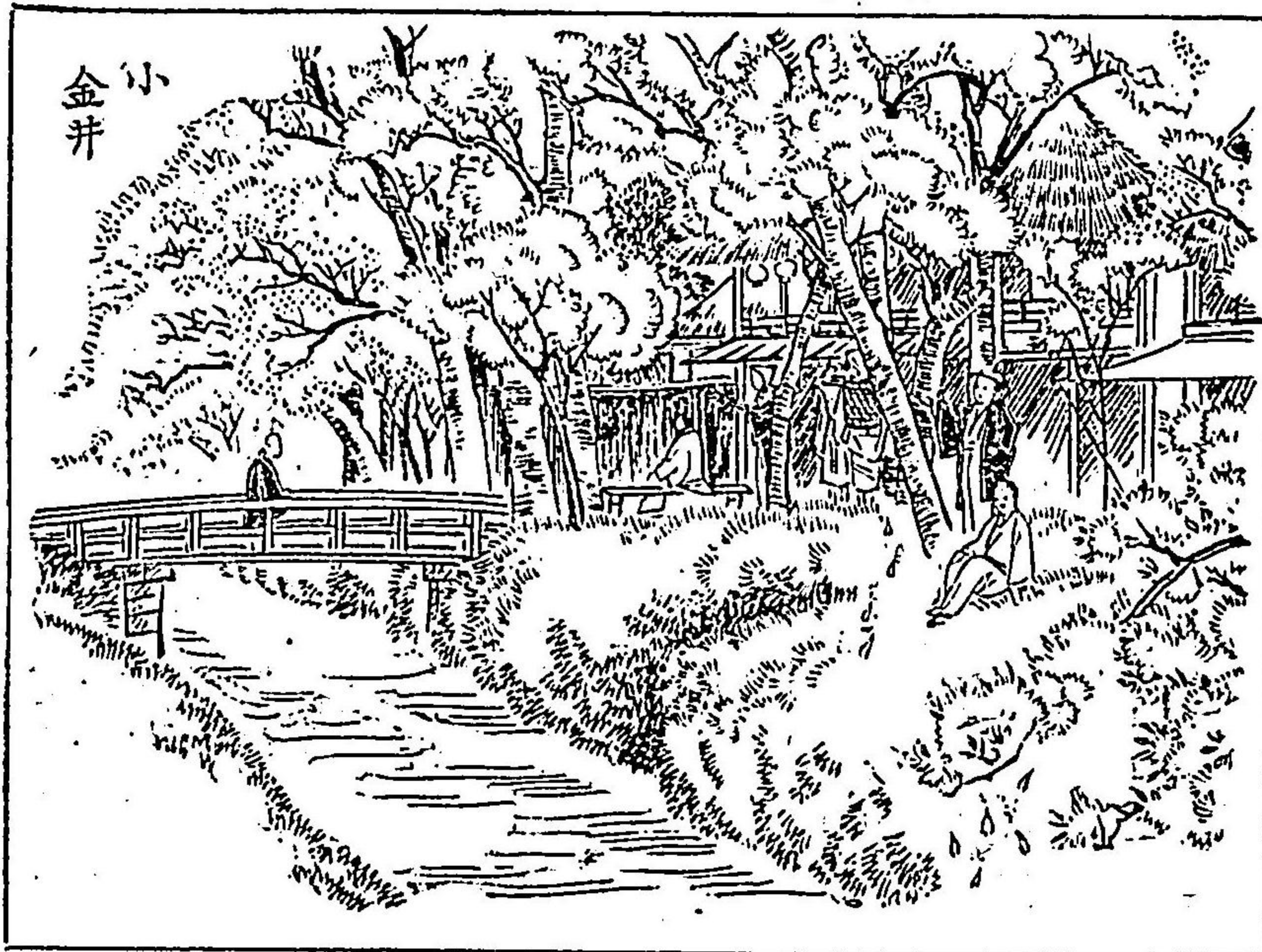
蓮宗の一派にして頗る壯嚴
 の寺域あり宗祖日蓮の像の
 世に厄除の御影とよぶ舊碑
 衾村の妙法華寺にありしを
 元祿の頃當寺に移せしとい
 ふ當寺の日本橋を距ること
 西の方三里バウリ宗徒の參
 詣常に絶ゆることお殊よ
 十月の會式おの群集をなし
 ぬ此宗徒が信仰お熱心なる
 の流石法華の頑固の名お背
 かざる懇く叩き立つるを見
 ても知りぬべし冷語を叩け

東 京 土 産

小 金 井 櫻 玉 川 上 氷 堀 の 兩 岸 の 芝 塘 又 裁 ゆ 東 西 一 里 づ か
 り に 連 り 櫻 樹 の ある 所 九 村 又 跨 れ り 就 中 最 も 佳 ち る 所 の
 小 金 井 橋 の 邊 ち り 小 金 井 橋 の 小 金 井 村 に ある 故 の 名 ち り
 開 花 爛 熳 の と き 此 橋 上 よ り 願 望 す れ ば 上 水 を 夾 さん で 落
 英 續 紛 雪 と 散 り 雲 と 亂 れ て 一 目 千 里 前 後 際 り な し 宛 ち ら
 白 雲 の 中 ち り ある が 如 し 蓬 壺 の 仙 臺 に いた る か と ち り や し ま
 る べ ち り な り き 橋 の 畔 又 栢 や ち り 呼 べ る 酒 樓 ち り て 田 舎
 料 理 と 旅 籠 や と を な し ぬ 茶 亭 の 花 間 又 酒 を 煖 め 茶 を 煎 る
 も の ち り 夥 多 ち り て 愁 ち り ぬ べ し 此 地 の 日 本 橋 を 距

名 勝 古 跡

る と 西 五 里 餘 り 馬 車 人 力 の
 便 も ち り つ る 小 甲 武 鐵 道 の
 開 け て よ り 便 り を 此 ち り ち り
 も の ち り 多 し 新 宿 停 車 場 よ り 乘
 り て 境 の 停 車 場 又 下 り 夫 ち り
 り 七 八 丁 又 て 櫻 の ある 所 又
 至 る べ し 歸 途 に 小 金 井 橋
 の 西 に 喜 平 橋 ち り 是 ち り ち り
 國 分 寺 の 停 車 場 ち り 至 る 其 間
 僅 ち り 又 十 三 町 ば ち り ち り 國
 分 寺 の 名 又 し 負 ち り 古 刹 ち り
 ち り ち り 當 時 の 寺 院 の 堂 宇 至 り
 て 狹 少 な り 但 門 前 の 圃 中 ち り



小 金 井

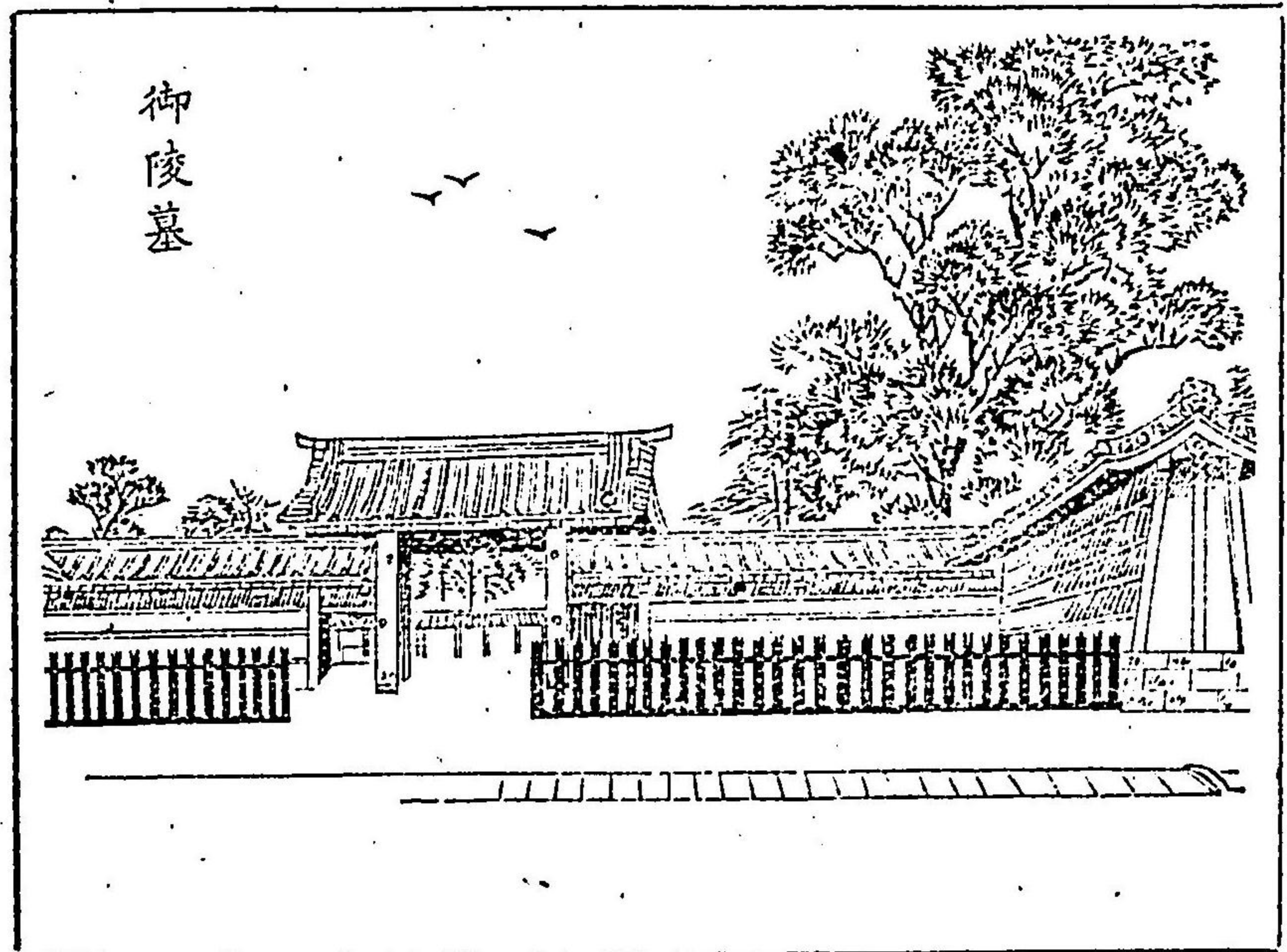
遺れる礎の往古伽藍の巨大あるを追想すべく布目瓦の缺
 の處、又散在せり是より府中驛の大國魂神社への十八町
 ばかりあり大國魂神社の舊六所明神とよぶ官幣小社おし
 て著名の舊社あり境内廣く且樹木多く神さびの境あり
 玉川の里 府中驛の南八町ばより甲州より湧出し其流れ
 十餘里よして内海に注ぐ其間兩岸の風景佳絶なるの實に
 當國第一といふべし年魚の此川の名産よして毎年七八月
 の頃、都下より年魚漁に來るもの多し
 井の頭辨天 小金井の東北一里ばかり舊牟禮村あり井
 の頭とよべる池の中嶋に祀る源頼朝の創建ありといへり
 此池の神田上水の源おして廣袤西北より東南に屈曲て三
 百歩ばかり池水常に泌湧として清泉湧出し大旱ありしも
 涸れことおしといふ東都數百萬の居民半の飲料水を此池

に仰ぎぬ其泉源の混々たる知るべきなり此地頗る寂寥た
 りしも閑雅よして幽致深く池を繞りて柳樹多く初夏のこ
 ろよの嫩葉蔭くらく松杉枝を交へて天日を遮ぎり避暑に
 宜しく炎熱を忘るゝの境なり都下のもの小金井の櫻花を
 探ぐるの歸途此地お廻るもの多し
 新井薬師 新井村梅正山よ安置す中野停車場より北半里
 ばかりありあり俗子育薬師とよぶ又眼を患るもの平癒を祈
 願す薬師を眼科治療の専門と見做せるの抑もまた奇怪お
 らめ參詣の人多く毎月十二日の特に群集をかしぬ
 落合土橋 落合村お架する土橋にして此地玉川上水と神
 田上水と會流するところあるが故落合の名あり螢の名所
 おして芒種の後より夏至のころまでを盛りとす其草葉よ
 すがるの滴たる露とらたがひ高く飛ぶ天つ星かと訝う

るばかりなりしかば日の暮るころより遊人來り賞しつゝ、
 捕へて壯觀とあしぬ
 大洗の堰 目白の崖下ふあり承應年間幕府が井の頭池の
 池水を東都に通せしむるに當り此地に堰を設けて餘水を
 分てり其後天明年間洪水ありて堰を崩潰ぬれば再たび堅
 固に築き立て先の堰より低くもあまたれば氷嵩み溢ると
 さい其上を越し流れて損するの患あしとや今尙存して
 依然たり
 目白不動 目白坂の側ふありて大洗の堰口の崖に臨む眞
 言宗おして東豊山新長谷寺と號す本尊の不動の弘法大師
 が作といへり當寺の元和三年和州長谷の小池坊中興より
 徳川台徳命トて堂塔坊舎を建立せしめたりぬ堰下に堰
 口の流れ滔々として日夜絶えず早稲田高田の村落を遠く

眺めて風光最と閑雅の佛域なり
 雜司ヶ谷鬼子母神 高田村の字雜司ヶ谷ふあり壯嚴の寺
 院にして縁起お本尊の永祿四年池の水は星現のれしを見
 て穿ち得たりとあり出現の舊地の護國寺の西よて星の清
 水とよべり舊時の參詣のもの群集して大ひお繁昌したり
 しが今の衰微して門前の茶店も漸く二三軒あるのみよて
 土地の名産ある風車麥藁細工の獅子もわづらふ其形を殘
 すぱりあり世お神佛の社堂へ百度參りといふをあすの
 當寺の鬼子母神が權輿にて其故の十羅刹女を始めとして
 此神の産みたる千人の御子に皆願ふこゝろよて十と千と
 の間をとりて百度參りするお依れりとぞ
 護國寺 神齡山悉地院と號す音羽町の北端ふあり本尊如
 意輪觀音の瑪瑙石にして天然のものといふ本堂の柱を猿

柱とあづく其故の木目猿の
 面と似たるを以てあり境内
 お堂宇並び立てり此地の舊
 幕府の薬園ありしを白山よ
 移し其跡一寺宇を建立した
 るありといふ當山の花に紅
 葉お四時の眺望つきざるが
 中よも霧島躑躅の都下よて
 著名ありし
 豊嶋岡 筑波山護持院の後
 背おあり護持院の舊と寺領
 多うりし大地おれば殿堂も
 最と壯嚴ありしが明治十六



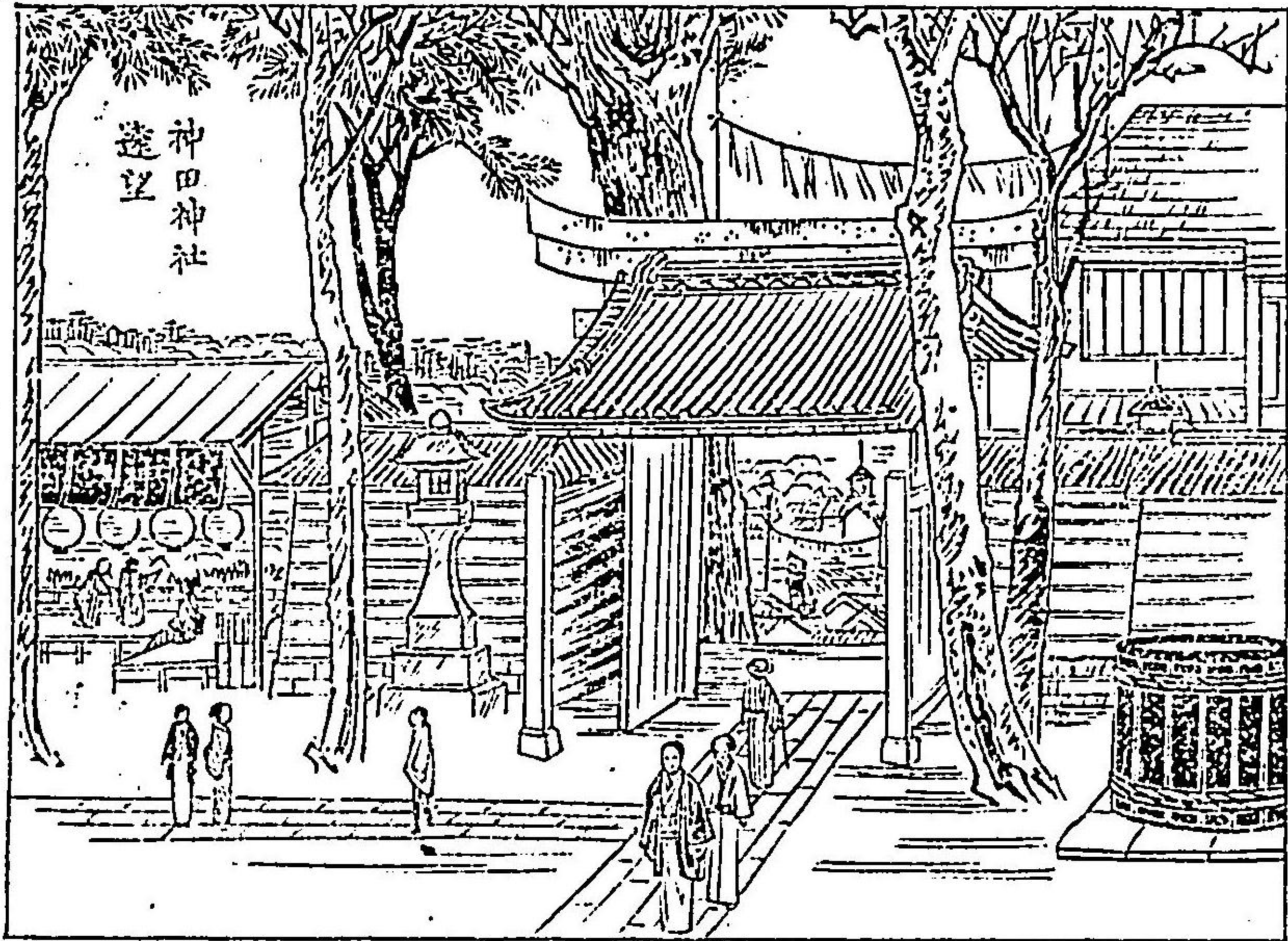
御陵墓

年火災に罹り惜むべし坊舎悉く鳥有となりぬ當所の花あ
 り紅葉ありて真お閑静の勝地といへり當時 御陵墓とあ
 りて稚瑞照彦命稚高依姫命の山陵あり
 白山神社 駒込指ヶ谷町よあり元和年間の創建ありとい
 ふ境内に銀杏樹最と多くして黄葉見事あり
 富士山 駒込よあり木花開耶姫命を祀る山の形ち富士山
 に似たる故一社を創立せしといふ當時の帝國大學の構内
 お入りたりし其以前の祭日にの麥藁細工の蛇又麥こがし
 等を賣るもの多し當所の名産とかいへり
 植物園 小石川久堅町お設く舊幕府のころは養生所薬園
 なとといへる地ありしが明治のはじめ植物園と改め文部省
 の所轄となり草木を培養して植物學をさすもの、参考と
 かしぬ縦覧料二錢あり抑も園中の弁木林をなして四季折

々の花絶ゆることなかりしが特^きに梅の幕府のこる諸國よ
 り集め植ゑしどて種々の名木多し又泉水あり假山あり閑
 雅幽逸の庭園ふして風景の佳絶あるのいとんうたさうり
 し
 氷川神社 植物園の後背^{うしろ}にある小祠^{こほら}として祠下^{ほらもと}は猫又^{ねまた}と
 よべる橋あり人の知る所あり
 傳通院 無量寺と號^{なづ}を小石川大門町にあり淨土宗十八檀
 林の一院^{いちゐん}として頗る著名の大伽藍^{だいがらん}あり境内^{けいん}に堂宇^{どうう}雁行^{かりかき}並
 列^{りれつ}したりしが惜むべし明治の後鳥有^{うりゆ}とありぬ
 初音の里 今初音町^{はつねまち}といへる所にして往昔^{むかし}の御殿地^{ごてんち}とよ
 べり杜鵑^{つばき}の初音を聞くの名所ありし
 牛天神 小石川水道町^{せうせきかわすいどうまち}あり金杉天神^{かねすぎんてんじん}ともよぶ境内最^{もと}と
 高岡にして閑雅の趣^{おもむき}あり又眺望^{たうぼう}も佳^よかる所なり

後樂園 小石川砲兵工廠の内^{うち}あり地^ちの往時^{むかし}水戸侯の邸^{てい}
 ふして名勝^{めいしょう}あるの人の知る所あり園内巨樹^{きょじゆ}鬱^う葱^{そう}として奇
 石^{いし}參差^{さんさ}あり幽^{ゆう}邃^{すい}自ら別寢^{べつしん}區^くをさせるが如し水を引き
 て園^{えん}ふ入れ濔^せして池^{いけ}となし白^{しろ}簾^{れん}懸^かりて清冽^{せいれつ}あり園の構造
 巧妙^{きうまう}にして布置^{はいち}極めて宜^{よろ}し亭^{てい}を設^たけて休憩^{きゅうけい}の所となす此
 園^{えん}鴻儒^{こうにゆ}名匠^{めいしょう}の記文^{きぶん}少^{すく}からず流石^{りゅうせき}の幕府^{まくふ}に威權^{いけん}ありし水
 戸侯^{みづのうぢ}が作^{つく}れる園^{えん}あればあり今^{いま}に至^{いた}りても舊時^{きうじ}の觀^{かん}を更^{あらた}め
 ざりしといふ
 お茶の氷 舊^{ふる}聖堂^{せいどう}の河岸^{がん}通^{とほ}をいふ始め^{はじめ}このところお名^な氷
 ありて幕府^{まくふ}のときこれを茶^{ちや}の氷^ひふ汲^くみたり神田川^{かんだがわ}掘割^{くわ}の
 ころまでの川^{がわ}縁^ぎの氷^ひ際^ぎに形^{かたち}のこりしが享保^{きやうほ}年間^{ねんかん}江戸川^{えどがわ}洪^{こう}
 氷^ひありて川幅^{がわのひろさ}を廣^{ひろ}けたりしとき氷^ひの中^{なか}より透^{とお}る見えす
 かりたりと今^{いま}尙^{なほ}其名^{そのな}を存^{ぞん}しぬ

舊聖堂 大成殿といふ幕臣の學問所にして嘗て漢土の大
 聖人孔子を祭りし所あり其結構の甚だ壯麗にして殿堂の
 ある處高く且深樹鬱葱たり本邦始めて博覽會と稱し名器
 珍品奇物内外古今の千種万類を聚めて衆庶の縦覽を許し
 たるの實ふ此場を以て嚆矢とせり其後和漢洋の書籍を
 網羅して縦覽に供したりしが上野教育博物館内の圖書館
 に其書籍を徙したり今尙殿内に一聖十哲の像あり
 神田神社 宮本町に祀る府社格にして大己貴命少彥名命
 を祀る氏子町々の中人以下のものゝ近來に至るまで平將
 門の靈を祀るとのみ信じ居たりしが祭神の前の二神あり
 と聞て大に信仰を捨てりとか一笑すべけれ祭祀の隔年九
 月十五日にして練物車臺等を出し善を盡し美を極め華麗
 を競ふて囃子の音喧すしく町々を引き廻る都下の一大壯



觀といふべし社のある處の
 本郷臺の東端にて高燥にし
 あれば眺望最と開豁の境に
 して俯して數万の人烟を瞰
 むべく茶店の各崖に據りて
 構へぬる中に冶容の阿娘居
 並びて客を招けり。又割烹樓
 に開花亭海水浴にやまと等
 ありて散歩運動がてらに浴
 すべくもあり飲すべくも足
 りぬべし毎歲十二月二十三日の
 歳の市立ちて社前の町々に
 の露店處せきさまでに見世

張きし其賑いしき雑沓を極めり
 湯島天神 湯島天神町にあり文明年中太田道灌が奉祀す
 る所ありといふ境内の謂ゆる本郷臺にして遙くに忍ヶ岡
 公園の蒼翠と抱み近くの小西湖の浴藻を臨み洛陽三月花
 弄ぶべく河朔の避暑興取るべく中秋の蟾蜍仰で招くべく
 晩冬の銀界飲んで賞すべきの境ありつるに楊弓店茶亭軒
 を連らねて婀娜冶容の阿娘嬌聲情を挑みて濃かありし境
 内に割烹樓三四軒ありて真に歡娛を盡すべきの妙境あら
 め
 妻戀稻荷 妻戀坂にある小祠あれども其名著るし磯部温
 泉亭を此に構へて割烹をなせり
 隣祥院 湯島切通坂町の上彌生町にあり臨濟宗にして東
 都四ヶ寺の一たり境内廣く樹木多く閑雅の趣きある佛域

あり
 根津神社 根津宮永町に奉祀す祭神の素盞雄尊大己貴命
 蛭兒命の三神なり域内尙ヶ岡の下にありて閑雅幽邃神さ
 びたる境ありぬ抑も其以前の門外より根津遊廓地にして
 百餘戸の妓樓並び立ち晝夜絃聲湧くが如く酒池肉林色海
 をあせしが其引拂ひとありし今日の清淨の地と變じて地
 む在せる神威も最と尊き御徳を増せるが如し神泉亭とい
 へる温泉兼割烹樓の麗お大八幡とよべる妓館のあとにて
 あれば其建築も宏大として室席も亦瀟洒あり殊も其庭園
 の池を設けて夥多の花井雜木を栽植雅致巧妙を極めぬれ
 ば浴後の一杯も運動また佳ある所あるべけれ其他飲食店
 數多ありし
 造り菊 圓子坂邊の植木屋に飾る造り菊の圓子坂が專賣

あり其ころよの毎戸花壇を造り菊花を陳列して縦覽も供しぬ但し縦覽料二錢を取れり菊花の一莖も數百を開くものあり花辨の變化たるものあり一々名狀すべからざりしが就中奇怪なるの如く造り菊あり文覺が瀧、牛若が五條橋を作り出す瀧と牛若の洞との菊花にてありしも橋や首の奥山生人形にうざれるものと一様あり殊も其文覺の面の圓十郎の似顔といふ作りあり菊を造りて觀せるに俳優の似面の奇怪なり寧ろこれが文覺これが牛若と其人とありらしく面を作たらんよのまだましあるべけれ世の人怪を好むもの多きと見えて菊を見物するもの、中よ往々これの誰の似顔成田やよしての頬がふくれ音羽やよしての鼻が低くして願の出りたが足りぬを評するものあるの聞く所ありし菊を造りて奇に陥るの世間の奇を好む

お投するといふ意匠あるべけれどもし菊に口わりせば隠逸を損ずると小言をいふからめ何に免れ其ころの觀菊の人殆んど雜沓せぬばかりあり藪蕎麥店に此地よ名あるものにて庭園に池氷を設け白簾これに懸りて雅麗に蕎麥の最も佳品あり
 螢澤 螢火の名所あり谷中の宗林寺妙林寺といふ寺院の邊をよべり
 日暮里 谷中感應寺の北より道灌山に至るを界とす此邊寺院相並びたる所にして各々庭園を營み奇石を疊み假山を築き種々の草木を植ゑつれば四時花のためることかく殊に彌生のころよりの茶店酒亭の床几の所せまきまでに相列らね遊賞するもの袂を接へ春の日の永きを覺えぬの此里の名にしれへるものあらんとし舊時のことにて今の

只其名のみのこりて都下の墓地とあり寂寥の境と變たり
 ぬ時に近時この里をさる儘りの所に茶毘所の設ありて終
 日臭氣四方に紛々として鼻を掩ふばかりありき
 諏訪明神社 同所北の方諏訪とよべる臺にあり元享のこ
 るの奉祀にして其後太田道灌江戸城を築けるときこの地
 を出張の砦とせし修營して郭内の鎮守となせしと社頭
 に杉の木立生ひ繁りて矯々たり地最と高崖と臨みけれ
 ば一目千里の田園を見おろし風景閑雅四時の眺佳からざ
 るさうりし就中雪の眺めの一しは勝れければ世に稱して
 雪見の岡ともよべるとりや
 青雲寺 淨居山と號す妙心寺派の禪宗なり境内高崖と臨
 みて樹木鬱蒼蔭をさし遙うと眺むれば荒川の流れのさか
 がら白布を引くが如く筑波黒髪（黒髪）の諸山翠を刷するも似た

り豊嶋の村落の眼下に相連りて耕ま畑うつ賤が業まで双
 眸の中に入りてける中より利根川の遠帆緑樹の蔭と隠見し
 白鷺の飛ぶと怪まるばかりにて其風光の佳絶あるの拙
 き筆あり描し能はざりぬ
 道灌山 一に城山とよぶ南の日暮里をかぎり北の平塚村
 に接す往昔太田道灌が江戸城の砦城とせしあとなりと
 もいひ又關の道觀坊といへるもの、第宅の地ありともい
 ひ傳へぬ此地眺望最と麗しく遙うに東のうたの廣野を見
 はらし其風景いんうたなかりし崖の上の高き小山を蟲
 塚とよぶ蟲きの名所ありとて舊くより騷人雅客が清音
 を終夜賞して有明の月をまち出たるおとよひはべりし
 が今の夜陰種々の小蟲襲ひ來りて松虫鈴虫の清音あるも
 居を安んじて聞居るに堪へざりける

根岸御行の松 根岸といへるは金杉村の一部にして時雨
 岡の流の端は蒼鬱として千歳の緑深き古松をいへり土人
 の説は日光御門主ひそり此どころにて佛道修業を志し
 たまへる事ありしより斯くは名づけしと然れど信じがた
 し一は時雨の松ともよぶ東都中の名松ありぬ此邊瀟洒の
 樓を構へて飲むべく食ふべきものは笹の雪、鶯春亭、此花園、
 伊香保等あり

王子神社 飛鳥山の西北にあり郷社格にして伊弉册尊を
 祀る文龜年間の奉祀ありといふ

王子稻荷社 同所にあり倉稻魂命を祀る月毎の午の日に
 は參詣人多く殊に二月初午の例祭には詣り人集あしぬ

松島辨天祠 瀧野川村にあり境内瀧野川に臨みて自然の
 山水をあす風光極めて佳なり其兩岸の高き地に櫻楓の二

樹枝を交へぬれば春秋にハ一としはの眺めをませる一勝
 地なりき

瀧不動尊 同所の正受院に安置を境内また瀧野川に臨み
 て風景奇絶あり堂後を下れば飛泉あり滔々として峭壁に
 趨る頗る壯觀あり不動の瀧また泉流の瀧といふ常々蒼樹
 蒼鬱として白日を遮り青苔露滑かにして人跡まれありと
 は舊時のことおしわれ今の斯る幽邃の境を愛るもの多か
 りて暑月の如きハ歩を運ぶ者の最と多りぬ

瀧野川の紅葉 瀧野川の石神井川の下流にして其水極め
 て清冽あり川のある處を瀧野川村とよぶ川の兩岸ハ林又
 林相連りて其間民家相交れり晩秋のころは林木悉く紅葉
 なしつれて錦繡を裁するが如く奇觀とこそ稱すべけれ此
 地都下を距ること北二里餘なれども自ら塵埃を避くるが

東 京 土 産

如き想ひありて常に閑人雅客が杖を曳くの地とあり紅楓を以て其名著るしく一勝區とよびはやしぬ

下谷神社 下谷南稻荷町にあり倉稻魂命を祀る下谷の總鎮守にして俗に廣徳寺稻荷とよぶ其廣徳寺前にあるが故からめ

廣徳寺 同所にあり圓滿山と號す禪宗にして域内に堂塔十一宇ありしが今の大に荒廢に屬せり

五條天神 下谷五條町にあり北野および五條天神を奉祀す近來社殿の建築新たに成りて華麗の社あり

小野照神社 下谷坂本町にあり小野の篋たかむらの靈を祀る坂本町の鎮守あり太郎稻荷の坂本村にありて人の知る所の社あり

摩利支天堂 下谷上野町にあり毎月亥日を縁日となす植

名 勝 古 跡

木商雜品商露店を門前の町々に張りつめて參詣人群集あせる中にも夏の日暮りたより一しはの賑ひをなして肩摩ま散か撃げをかしぬ

鳥越神社 元鳥越町に奉祀す日本武尊天兒屋根命の二神を祀る往昔より著名の社にして今の郷社格に列せらる

熱田神社 新鳥越町にあり祭神の日本武尊にして小祀あり

須賀神社 淺草須賀町にあり素盞雄尊を祀る俗よんで團だん子天王といふ其故を知らず近時社の新築成りて壯麗あり

彌やま神社 淺草彌町にあり而足尊あそくみ惶根尊かしくねの二神を祀る俗よぶ

第六天だいろくてんとよぶ又福井町にあり八幡社あり銀杏いんこう八幡とよぶ

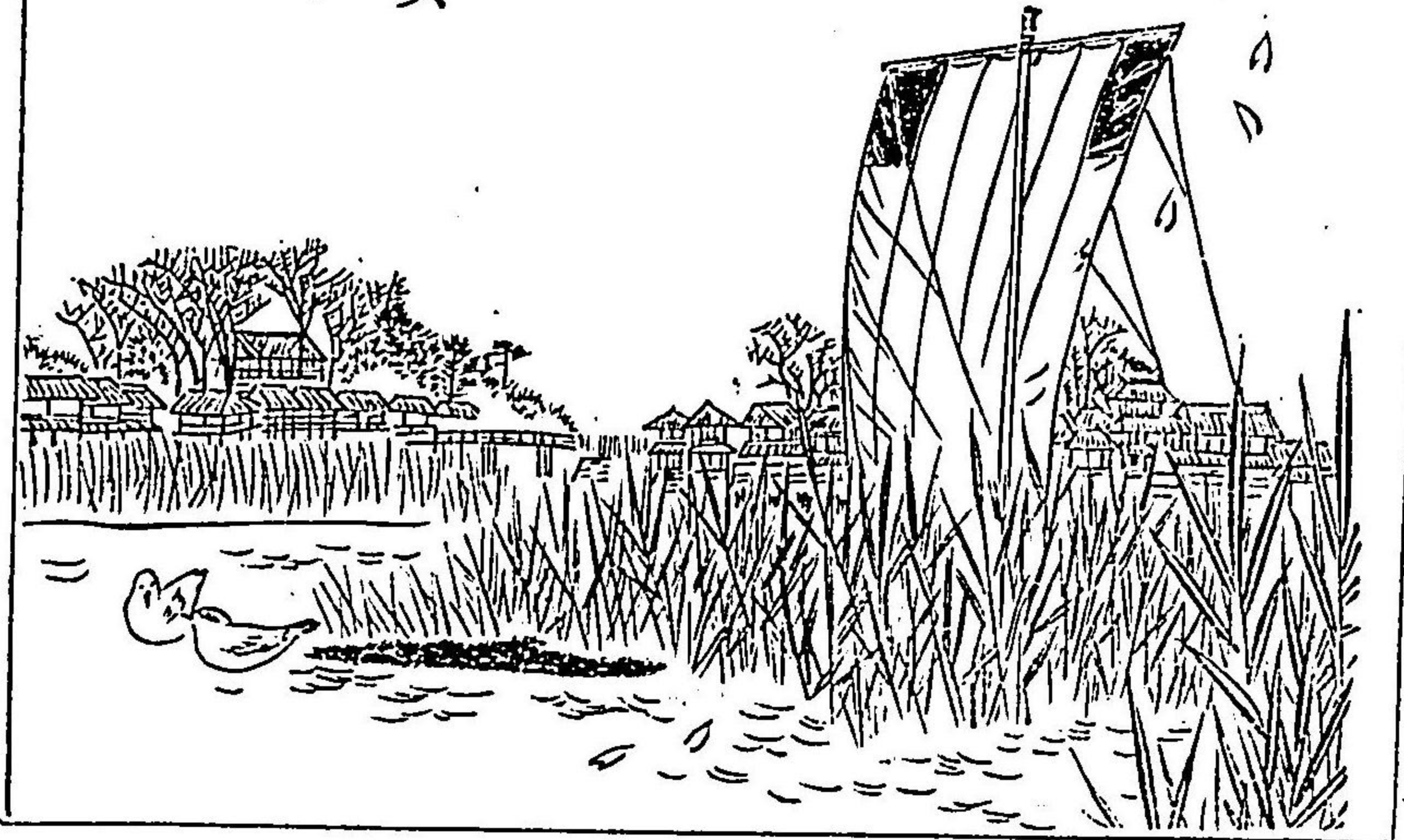
閻魔堂 須賀町にあり閻魔の運慶の作にして長一丈六尺の大像なり藏前の閻魔とよぶ一七月の十六日に參詣す

るもの群集して頗る賑へり
 八幡宮 八幡町あり石清水八幡といふ域内に盃竈神社
 を奉祀す國幣中社に列す
 榎寺 黒舟町あり正覺寺を爾よべり往時境内に榎の大
 木ありし故なりといふ
 西福寺 良雲山と號す南元町あり東都淨土宗四ヶ寺の
 一あり家康松平の稱および山號を賜へりとして松平寺とモ
 よぶ此邊より新堀の東の端に沿ふて寺院最も多し淨念寺
 東漸寺等の殊に名あるものあり永見寺石門を設くる寺に
 て彼の北里にて燈籠を掲け其靈を追用する妓玉菊の墓の
 ある所あり玉菊の北里萬字樓の妓にして享保年間より名聲
 をあげし妓ありといへり
 海禪寺 大雄山と號す松葉町あり禪宗にして東都四ヶ

寺の一なり往古平親王將門が下總相馬の郷ありしとき
 創建せし所ありといふ
 東本願寺 淺草門跡とよぶ松清町あり開山の教如上人
 にして京都室町よりの輪番所なりといふ舊地の神田あり
 しが明暦大火の後此に移さると聞く宏大壯觀の淨舎にし
 て毎年七月七日に立花會あり十二月二十二日より七日間
 開山忌として説教および讀經會あり俗に御講とよび門徒の
 參詣頗る夥多し域内より支院堂宇並び立てり近來其間車馬
 の通行するをゆるして大に往來に便利あり
 諏訪神社 淺草諏訪町あり信州諏訪明神を奉祀す近來
 殿の建築新たに成りたり
 宮戸森稻荷 三間町あり小祀あり本社に淺草寺の内西
 宮と俱に淺草二社とよび觀音出現のときよりの鎮坐あり

といふ宮戸森宮戸川かといへるの此地の古き名ありき
 駒形堂 浅草駒形町の大川端にあり天慶五年平公雅が建立なりといふ本尊と馬頭観音あり諸願をいのるもの馬を作りて納める故堂内お充滿たりぬ故に世俗よんで駒形堂といふ然れど今の其事廢れしが是をいふものも絶てあかりき
 聖天堂 聖天町待乳山よあり當時傳法院に屬せり聖天

真 乳 山



を祈れば金が舞ひこむ否祈りて勉強すれば金が儲くるとして世俗信心するもの多し參詣のもの終日終夜絶ゆることなし其地三谷の西よありて風光極めて麗るのしく左お墨田の流れをひうへ右よ金龍山等あり春の氷を隔て墨田の櫻花を觀夏の新緑陰をなし炎暑をわすれ秋月の勝に至りては殊お一勝地なり其冬よして雪景の如きの四望體々として一銀世界とありぬこの四時の眺めを集むるもの浅草近傍たへてあるあきの境ならめ
 浅間社 象潟町にあり俗浅草富士とよぶ毎年六月三十日には參詣人群集とあしぬ
 今戸八幡宮 今戸町おあり山城國石清水八幡を奉遷する所ありといへり
 石濱古戦城 今の橋場町の邊をいふ舊名を石濱とよべる

を以て知りぬべし
 聰泉寺 妙義山といふ橋場にあり曹洞宗の梵刹にして東
 都三ヶ寺の一あり當寺の千葉家の香花院と稱して境内に
 千葉氏の墓あり門前の邊に往時淺茅原とよべる所なり此
 近傍に妙義塚鏡の池袈裟懸松采女塚等の古跡にして世に
 著るるも數多あり
 眞先稻荷社 橋場町にあり社前の名にま貨ふ隅田川に臨
 み其流れ溶々として白帆のかけるに濱千鳥の飛ぶが如く
 風光極めて佳あり殊に茶肆酒樓の簷端に皆川に臨みて搗
 へぬれば夏日の杯を流し洗ふて炎暑を洒ぎ秋の夜中流し
 棹さして明月を賞し春の夕艶粧たる墨田堤の花盛りより
 冬の朝暄々たる白鬘木母寺の雪の眺めまで最と奇絶ふし
 あれば運動がてらに遊宴あす勝地とこそいふべけれ

石濱神社 眞先稻荷の北にあり朝日明神又俗に橋場明神
 とよべり
 玉姫稻荷 總泉寺の西南にあり小祀なり
 鷲神社 龍泉町俗淺草田甫とよべる所にあり鷲大明神と
 稱す毎年十一月酉の日を例祭となす酉の町とよふ此日參
 詣するもの群集して境内立錐の地だも餘さぬほどの雜沓
 をあしぬ此日熊手とて大福帳や寶舟や種々様々の縁起も
 のを飾り付けたるものを商ふの露肆櫛比して競ふてこれ
 を賣る參詣のものも亦必らず争ふてこれを買ふ偶これを
 擔ぎ歩くものを見れば餘り開化人とい覺えず且何お使る
 ものか玩弄物にしては大きすぎるからめ此境内吉原の遊
 廓に近きゆへ其餘裕これに及ばして遊廓もため熱闘を
 あせり流石繁昌の吉原も此日が一年中の繁昌日されば其

熱淵を避けんがために四方の門を開きて出入往來を自由にし四通八達せしむ其繁昌知りぬべし

隅田川 上流を荒川といふ其源は秩父郡の山間より發し溪流これよ落ち入りて北豊島南足立二郡の間を東流し隅田村に至りて隅田川といひ南流して海に注ぐ下流は淺草川大川等の稱あり其舟楫の便漁網の利あるばかりならず其間風光の絶佳ある所多し

隅田堤 隅田川に沿へる堤塘をいふ都下第一の名勝地にして櫻花を以て著る櫻樹の享保年間植ゆる所にして晩春のころの數里の長堤花あらざるあしこれを彌望せるに淡々濃々宛然ら雪ふるが如し吾妻橋より木母等あいたるの間遊人織るが如く肩々と摩り踵々と相接し酒樽を擔の醉漢の輝妍の阿娘お突き當り單衣高履の書生と洋服潤



歩の兵隊の高吟放歌查官の
 お目玉をくらひ黒帽銀昂の
 官員の紅袖翠裳を拉し文人
 の瓢酒を提げて逍遙しつる
 中に茶肆の婢女は冶装妖飾
 露床を設け氈席を展て媚を
 街り客を呼びぬ其時の雜沓
 亦復東都の第一たりき此境
 櫻花の勝のみあらず月を觀
 て涼を納るゝに宜しきは固
 よりにて冬雪の勝亦賞しぬ
 るに宜し殊に其最も宜しき
 の雪の夕月の懸るのとき堤

上より望めば前岸の屋壁摸糊とし宛然ら白屏の連あるが如く淺草寺の五層の塔の高く山谷の渡し舟の低く聖天の祠の聳え竹屋の口のあけ遙に隠見あしつる中に左を願れば吾妻橋凍流の上に架り右を望めば氷神社寒江のほとりに臨むこの時玉兔嬉しの森の梢えにうゝり漸く照して江邊に垂たるに至りあば堤沙すべて瑤をしき江流悉く銀をどろかす其風景の絶佳絶妙ある得て描すべきにあらざりし

百花園 隅田川にあり俗呼んで向島花屋敷といふ梅花を以て著せる園中又七草を植ゆ人亦これを向島の七草とよびて其ころ杖を曳くもの多し秋草の眺めも一としはにて閑雅の情を愛づるの好事家に適しぬべし

三圍稻荷 隅田堤の東の下にあり境内廣うらざるも頗る

静逸の趣きあり境内に碑石數多並び立てり

牛島神社 同所の北にあり俗よんで牛の御前といふ素盞雄尊を社る境内幽逸なり

長命寺 寶壽山と號す天台宗にして東叡山に屬す城内碑石多し墨上漁史の碑ありて肖像を刻せり漁史の成島柳北と稱して明治の探觚士なりと先生の縦横の筆は人の知る所ありし門前の堤上に墨堤櫻植の碑を建つ撰文揮毫とも濱村大澥氏なり花に先つ頃より境内に櫻餅をうる家あり此地の名物にして向嶋櫻餅の名あり言問團子も亦名物ありき

秋葉神社 境内幽逸にして四時の觀あり殊に社頭には青松丹楓林をあし晩秋のころは池水に相映じて錦をあらふが如く奇觀ありし又社前には酒樓の佳なるもの相連りて

飲むべく食ふべし又歌妓をも招きて唄ふべし
 氷神の森 橋場の渡しより少し木母寺のかたに寄りたる
 處の田の中にあり古松一叢の森をなし其中に氷神の祠あ
 りて眺望最と宜しく喧雜を避けたる閑地あり
 木母寺 隅田川の下にあり梅柳山隅田院と號す境内に梅
 若塚あり小祠を建て、梅若の名跡をとめぬ其傍らに柳
 を植ゆこれをしるし柳とよぶ今の柳は幾代りりあせしも
 のどろ梅若丸の京都北白川吉田少將惟房卿の子なりとい
 へり
 關屋の里 木母寺のうしろの地を爾うよべり枕橋より此
 邊にいたるの間割烹樓の名あるもの多く磯部亭の温泉に
 して割烹を兼ね植半新柏や大文の割烹のみにして有馬温
 泉また割烹をあし各瀟洒の樓佳麗の室を設けて此境に遊

ぶものを待てり其他尙夥多あれども一々記しがたし
 鐘が淵 隅田川荒川綾瀬川の三派の所をよべり今の紡績
 所の設けありて其結構の宏大ある器械の完備せる都下に
 冠たり
 堀切の花菖蒲 南綾瀬村の堀切とよべる地の花菖蒲の名
 所にして植木屋武藏屋あんどよべる中に多くの菖蒲を
 培養してけれハ花の種類も亦夥多變りしものありて花の
 ころこれを愛するの騷人最と群集をかしぬ
 回向院 國豊山と號す本所元町にあり俗向兩國とよべる
 所にして日本橋を距る東十六町ばかり當寺の明暦三年大
 江戸大火にて焼死したるもの十萬八千餘の遺骸をうづめ
 尙其亡魂を追弔せんがために幕府より増上寺の基屋大和
 尙に命して梵刹一字を建立せしめられし所あり毎歲七月

七日に大施餓鬼の法會を營み又翌八日に佛餉施入の檀主現當兩益法事の修行をさせり無縁寺あれども香火常に絶ゆることさく殊に鼠小僧とよべる猶賊の墓なとの參詣人最と多く猶賊に詣でるの何故か甚だ奇怪あることなれ且當時の諸方よりの便り宜しき地なれば諸國の靈佛靈像等が結縁のため都下に出稼ぎ否出開帳に假るもの多く芝山の仁王成田の不動尊の常得意にて繁昌したる中にも亦繁昌をさしぬ城内に相撲場あり本場とよふ謂ゆる勸進大相撲の興行場にして春秋二度の興行をさす相撲等の等級づけの場處にしこれにて其番附が定まるといへり拂曉より變々の音にて客を招く相撲見物に行く臂張拳かためのか方に格別なれど安眠するもの喧噪しきといはんのみ然れど相撲の技の太平に戦争を忘れざるためなりとい

の可からんう
 百本杭 本所横網町の河岸にして波除杭の多く打ちたる所といふ此地風景頗る宜しく遠くの富士峯より筑波の諸山を白雲の間にあがめ近くは對岸の大厦高樓水に臨みて相構へ其間の絶美ある描くも及らざるが如し此邊は鯉釣の名所ありといへり
 多田薬師 本所番場町にあり大川端の東光寺に安置す本尊薬師如來の多田満仲の念持佛ありといふ
 羅漢寺 天恩山と號す黄檗派の禪刹にして本所緑町四丁目にあり往時の本所五ツ目とよべる處にありて東都第一の名籃たり本尊の丈六の釋迦牟尼佛にして文珠普賢は八尺の像あり又左右の階壇に等身の五百羅漢像列れり其頃の境内頗る廣濶にして堂塔並び立ち其間に藤棚櫻樹等數

千株ありて開花爛熳のころには共に美觀ありつるに境外に桃土堤と稱して桃李を植ゆるあり佛閣の魏々たるの皆人の知る所にして五百羅漢とよひしが今の地に移りてよりは堂塔の結構も宏壯ならず又舊時の觀かく大に靈域を損そるが如し那蘇が日増し蔓延する當時にの宗教のため惜むべきことなれ

業平天神 中の郷業平町南藏院とよべる寺境にあり傳へいふ在原業平が靈を祀れりと

宿禰神社 緑町二丁目に津輕原とよべる域内にあり野見宿禰を祀る相撲輩の祭神として時々奉納角觥を興行なしぬ

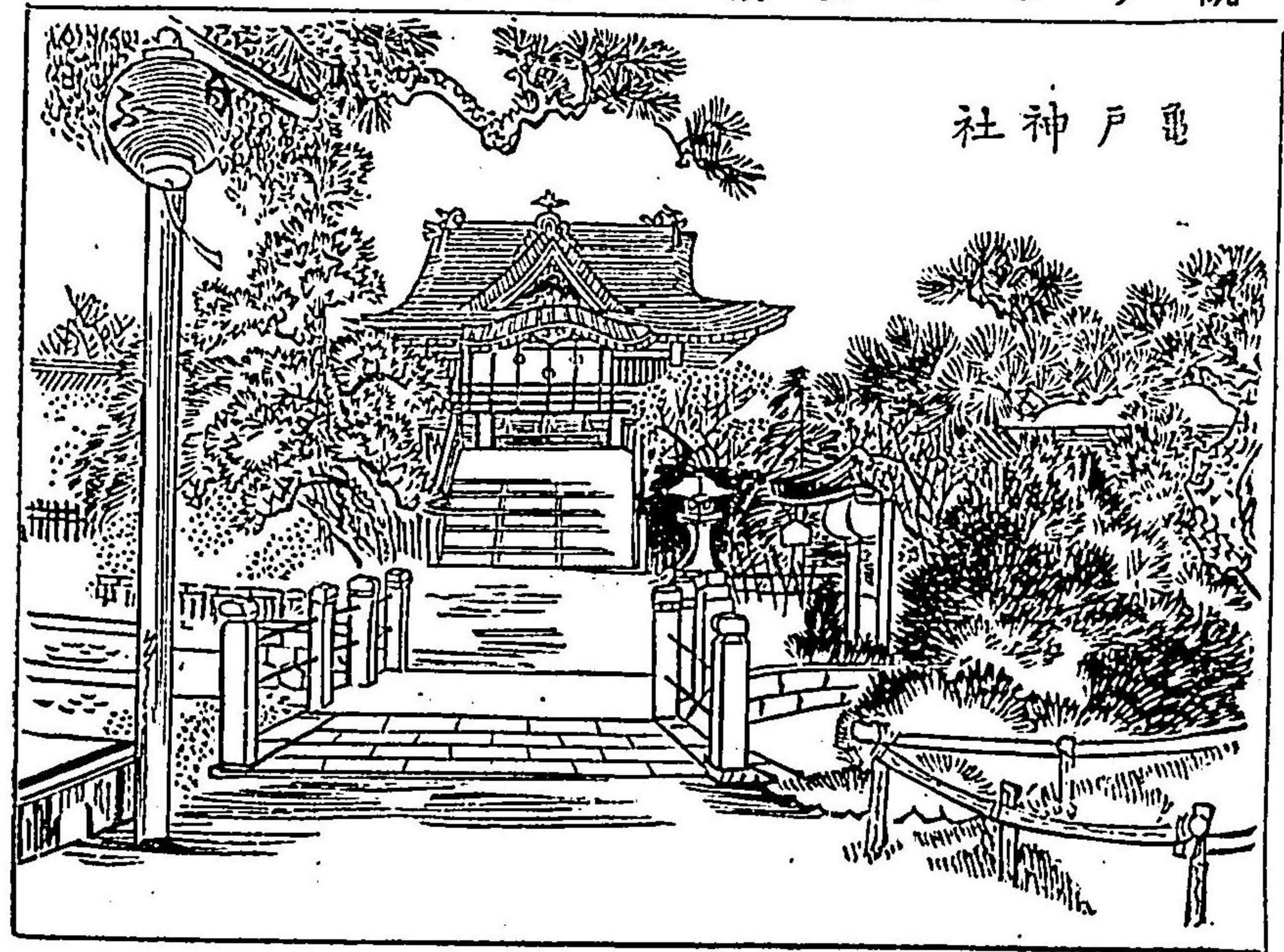
法恩寺 平河山と號す本所太平町とあり日蓮宗として東都三ヶ寺の一たり境内に三十番神の堂宇および平河清水

とよべる稻荷の小祠あり

妙見堂 押揚堤のはづれにあり俗よんで柳島妙見といふ日蓮宗法性寺境に安置す近時堂宇悉く焼失して茫然たる陳跡に僅うに堂宇を營み往日の状をかりしも一日十五日よの尙參詣人多しとや川を隔て向に菘寺とよべる寺院あり菘を培養す其ころの見事ありし菘寺の名菘を培養せしよりにして實の龍眼寺あり

龜戸神社 龜戸村にあり府社格にして菅原道實を祀る俗よんで龜戸天神といふ域内に花園の社頼宮明神兵洲邊神社並び立てり社前に池あり鯉魚最も多し池に架する橋を太鼓橋といふ圓形にして太鼓に似たるが故あるべし此橋の女子兒の更なり壯者にても駒下駄をこけて渡ることありたし池を繞りて藤架を設く花時に至れば花枝垂れて水

面に敷き斑々相映きて奇観
 を極めぬ其間茶戸池に據り
 て擗へ詣するもの遊ぶもの
 休憩を待てり本社右の
 方に妙義神社あり毎年一月
 卯の日詣するもの群集熱鬧
 をあす此日境内より門前
 至るまで露店多く張りつる
 中にも繭玉と稱するものを
 販ぐの店最も多し賽するに
 朝早きを嘉例とかし老若男
 女曉きをかふて麿至あせり
 妓輩嫖客また此日を以て歳



首の樂事とあし妓の前より狎客に同行の約束を請ひつ
 れば通客氣取りの鼻下長者の亦押妓を携へて行くを榮譽
 となし同車にて頼へた押付のものあり手を引くものあり
 舟行相話するものありて肩々に接し車々に摩して往來の
 賑ひしき中にも畫舫を泛へて來るもの舟艦相銜みてけ
 る輓車の盛ある今日に途上の便りを畫舫も假るもの此
 日のみ
 臥龍梅 俗梅園といふ龜戸神社の東北にあり日本橋を距
 ること一里十町ばうり園を清香庵といふ其花一品おして
 重瓣潔白あり其香馥郁として園中に満てり梅樹の形狀宛
 がら龍の蟠まり臥すが如し故に臥龍梅と名けしと開花の
 ころハ騷人雅客の來り賞するもの多し詩に詠し俳句に吟
 ぎて枝に結び賞心樂事日を没して歸へるを忘る眞に閑雅

東 京 土 産

の仙境あり世の開化につれて閑雅の境幽逸の梅を賞するもの年一年より増加して其盛なるころハ雅致をいふもんなものかといふ輩の入り來りて殆んど雜沓せぬばかりと變トために一時の俗境を現出するが如し

吾嬬の森 龜戸村十門川の北端あり又浮洲の森といふ中に吾嬬神社あり弟橋媛命を祀る社傳曰く人皇十二代景行天皇の御宇四十年ハ皇子日本武尊東夷征討のとき相摸の國より上總の國に至らんとて船に乗りて海中に出るとき颶風にかよ起りて船漂蕩ぬれば渡り行くべくもあらざりし時に尊の妾弟橋媛命のたまへる今しも風濤起り逆浪立ちて船も没しさんとせりこれ必ず海神の心ありぬべし妾が身もてこれ又當り祈んものと云へるや瀾を披けいりたまへけるハ忽ち暴風も靜穩ぬるハ故尊も遂に渡ら

名 勝 古 跡

せられし其後弟橋媛の御裳このはどりの海上に浮びてければ尊群臣にあふせありて此お收めさせ壇を築き瑞籬をめぐらして御廟とあさせられぬこれ此社の草創の古事ありといふ社の側お胞衣埋納地あり吾妻社とよびて胞衣埋納の事務を扱ふ會社ありて都下出産の家も就き其委託を受け此お理め其子をして永く胞衣のある所を知らしめ幸福安全を祈りつるといへり

辨財天祠 豎川一の橋側あり故に俗一ツ目の辨天といふ元祿年間の創立おかゝる祠前お小池あり又窟岩ありて入るべし中に小祠を立て、天女を安置す相州江の島辨天に擬して造るといふ已の日參詣人多し

彌勒寺 萬徳山と號す本所林町あり本尊ハ藥師如來おして毎月十二日を縁日とす詣するもの群集せり

靈岸寺 深川靈岸町あり宏壯の梵刹にして域内に寮舎僧坊鬘を連ねて巍然たり總門の正面に銅像の地藏尊あり東都六地藏の一ありといふ道俗の參詣最も多し此邊精舎寺域相並び相連れり

不動堂 深川不動とよぶ富岡門前町あり境内富岡公園に連りて頗る廣く園庭閑雅あり堂も亦宏大にして參詣人常に多し近時この境内より來りて開籠する佛像多く其當時の堂の周邊に更あり境内至るところ狹きまで観物場弄具舖酢屋汁粉屋等相連りて客を招くの聲喧としく參詣人群集雜沓をかしぬ

洲崎辨天 洲崎町あり辨天の像の弘法大師の作ありといふ相つたふ元祿年間幕府命じて富岡神社の東の方海濱を築き立てしめ大僧正隆光の天女の宮祠を建立せしめら

れたりこれ今の辨天祠あり此地最も風光ありて眺望絶佳あるの境ありし

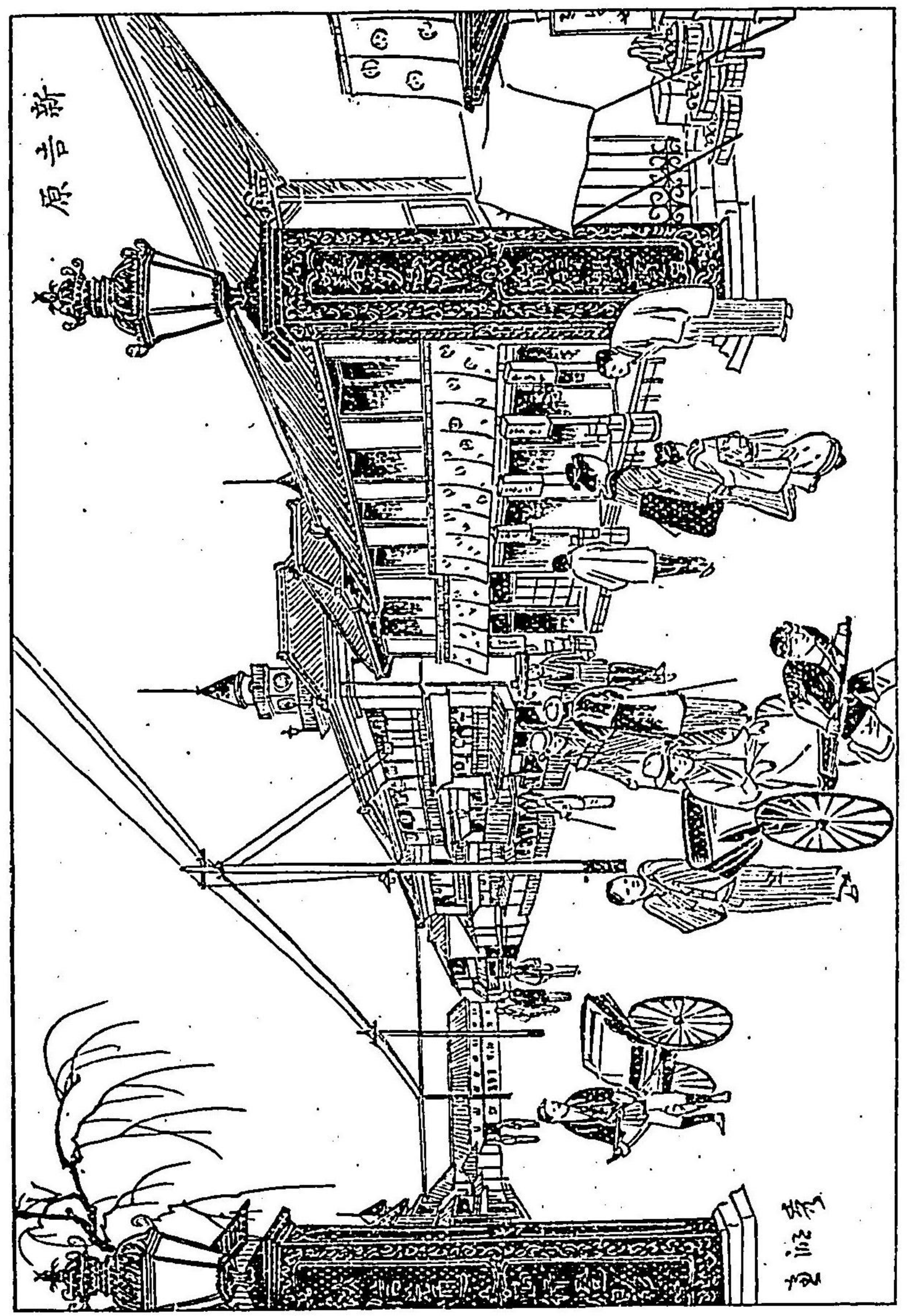
花街柳巷

附

劇場

娼叢

新吉原 東都第一の遊廓にして日本橋を距ること北一里ばかりありあり俗五町街といふ伏見街江戸街角街京街揚屋街の五花街あるを以てあり周回溝渠を繞らして一廓をかせり溝よんで鐵漿涵といふ一方口を開ひて總門を設くこれ大門といふ鐵の鑄造おして名の如く大あり門柱に福地櫻痴居士の銘あり銘に曰く春夢正濃滿街櫻雲秋信先通兩行燈影門を入りて一直線俗水吐尻に至る衢を仲の町と



いふ兩側皆引手茶屋あり毎店必らず長方形の行燈を掲げ家號を記せり門の左の第一支衢を伏見街次を江戸街二丁目次を揚屋町次を京街一丁目とす右の第一支衢を江戸街一丁目次を揚屋町次を京街一丁目とす妓樓の皆横坊にあり碧瓦朱欄相聳へて雲を凌ぎ香燈花燭不夜城をなし四時花ありて能く語を解き蝶の皆妙舞鶯の皆嬌聲酒の樽に満ち肴の盤も盈つるに翠袖紅顔金觥を侑めてける此地の其昔蘆葦の田ありしが一朝おして繁華東都も冠たりぬ

吉原娼妓町の起因を尋ぬるお慶長のころ江戸(今の東京)に三ヶ所の娼妓樓始めり京都(今の西京)六條より移れるもの鎌倉河岸おわり駿州彌勤町より移れるもの麴町にありしが戸數共々十餘戸に過ぎざりし中にも大橋(今の常盤橋)柳町にあるもの二十餘戸にして最も繁昌してける其後攝州

伏見、和州、奈良等より追々移り來りて所々に散在する。至
 れり又同時に駿州元吉原驛よりも娼樓を始めんとするも
 の二十餘人江戸に移り來たりしが其頃の未だ定まれる女
 園とてもおく輒り娼樓は所々に散在してければ彼の亡八
 輩が謀らひて官府に訴ふることなし京橋具足町の東泥
 沼の地を築埋め一方口を設け南の側を角町(今の炭町)北の
 側を柳町といひ又中の通りを仲の町(今此邊りの町々を中
 通といへる)自ら其舊稱を失ひざる後證ありとぞと號
 け此地を女園を開きたりといへり其後慶長十七年に至り
 相州小田原の人庄司甚右衛門といへるもの幼名を甚内と
 いひ元來北條家の臣下なりしが主家滅亡しけるより江戸
 に移り來り寓居させる間に所々の娼樓を一所の内に圍ひ
 込まん事を思ひ起し翌十八年此旨を時の奉行に願ひける

に元和三年漸やく其許可を得て葺屋町の邊に二町四方の
 地面を賜はりぬれば始めて女園を定めこれを吉原と號け
 たり(今の和泉町、高砂町、住吉町、難波町の其舊地として現に
 へ泥竈河岸の大街渠の其女園の外渠として又通油町邊を
 大門通といへる)其ころ吉原に通へる道筋の舊稱なりと
 す(抑も此地を號けて吉原といひし泥沼にして葺屋の繁
 茂たるを開きし故葺原とよぶべかりしを葺を吉の字訓と
 換え賀して吉原とせしともいひ又駿州元吉原驛のもの移
 りしより此名ありともいへり然るに其後江戸府内漸次に
 繁華となりて人家増殖してければ火災のため悪名とて明
 暦二年の冬淺草田圃に代地を賜はり且一萬五千圓を下さ
 れ移轉經營の費用を助けられければ翌三年(今を距ること
 二百三十四年)今の地に移せしより更に新吉原と號けしと

いへり其間山谷の農家を借りて娼妓等夜見世を張ること
 を願ひ官府の許可を請けたりこれ娼妓の見世張をあすの
 起因なりされバ其頃遊興するを山谷通ひとよびたりぬ三
 谷の淺草待乳山の麓を繞りて今戸橋と山谷堀との間にあ
 り其河岸に船宿軒をあらべ日夜吉原通ひの遊客を送り迎
 ひして最と繁昌したりしも今の衰微して寂寥の地とされ
 りされを猪牙船を山谷船といへるの往昔山谷山の宿邊に
 吉原の娼家假宅せしころより始まりし名なりと又散茶船
 といへり女郎買船といふ義よて二挺だち三挺だちとて舟
 子を増し速櫓を押することあり又其ころの遊客の鼻紙を
 纏頭お投下て火繩箱の中へ入れ川風を散亂さするをもて
 宏大ある伊達とせしとか山谷より日本堤を過ぎ已に大門
 を入らんとす此間よ紫陌三折の處あり五十間とよぶ堤の

盡くる處に坂あり衣紋坂とよぶ坂を下りて左に柳あり見
 返り柳とよぶ右に吉原神社あり境内の櫻を逢染といひ松
 を駒繫といふ旅人待合の街この地の舊趾なりなき
 五街の娼樓(貸座敷)其數百十七娼妓二千二百餘人樓お大中小
 あり娼妓も等差あり且其大樓と稱する者へ稻本樓角海老
 樓品川樓大文字樓尾彦樓おして巍然たる樓閣を構へ娼房
 の如き閨房及び臺所とも稱すべき部屋あり謂ゆる上の間
 次の間あるものにて茶器酒具を備へ琴棋書畫を飾り綾羅
 の襦袢金蘭の夜具の差明が如く娼妓も亦流石お花魁とよ
 ばれて梳櫛の二人三人を使ひてければ衣服の美あるの申
 さでも知れたる事にて用度整ひ起居動作も自ら優美にし
 て頗る上品と粧ふもの、如くされば單よ娼妓の遊びとい
 へど是品格を粧へる娼妓を對敵よ遊ぶの亦むづりしかり

澤ある財を散りたりとて良きふあらず言語動作に法度を
 示し同く素刃抜ながら進退懸引孫吳の術に適ひて始め
 て可なりとの剛勢を申分かれど踏違ふれば必ずや殺風景
 にて面白うらす強らばもてぬの靦然あり弱くば泥劣附き
 て併呑べし敵媚の氣を以てすると肝要あらめとの餘計の
 言粹も不粹も引手茶屋の案内にて登樓が例あり某遊興資
 の概算の娼妓揚代金壹圓酒肴料壹圓都合二圓金ひて足り
 ぬべし其他藝妓を招けば揚代金大妓一本二十五錢中妓の外は纏頭
 二十錢より少ふからずを要すべく幫間の纏頭一圓金あり全盛遊
 びしあんよの限りなかるべし抑も又初會再會馴染といふ
 ことあり初會の初面會の謂ひて再會の二回目に會ふこと
 あり此とき再會と稱へて二十五錢金を要すべく馴染の三
 回目に會ふことあり此とき又馴染とよびて三圓の金を要

しぬれば是まで清汗さつたる花魁も始めて打解けて語ら
 ひつるが上にも待過も厚かりて蓋の物割割し箸も變じて
 高足の膳象牙銀箱の箸とあり閨房の我が家の如く客の亭
 主もとき花魁の細君あらめ高砂うたひて百歳ちぎる借老
 の末の松山共白髮波風起らぬ和合の情濃うあるが如しと
 ないへ娼妓の情ふ感溺のせざれ戀にくせもの塵が積りて
 山となる宛ふのあらぬ娼妓の誠實其手の喰ふなうれ客の
 深切吾が妻にあらぬ袴をばうさねつゝ今宵の誰とちぎら
 んど啣ちける借斯く知らば譯けあしかり何より恐るし無
 いが異見の總仕舞其中樓と稱するもの萬華樓、蓬萊樓、住
 吉樓おして樓の結構娼妓の服裝等も自ら下るが如し娼妓
 揚代金七十五錢其他遊興お要する諸費の異あることあり
 この大中二樓の娼妓樓を出で、引手茶屋に至り客の來る

を迎ふることあり其往復を稱して花魁道中といふ綾羅錦
 瀟各華を競ひ麗を街ふて桃櫻嬋妍を闘す抑も又全盛の
 一奇觀あり此他の諸樓の總べて小樓おして樓の結構の大
 おして美なるもの小おして汚あるものあり河内樓、中米樓、
 相萬樓等小樓中の冠たるものおして樓の結構娼妓の服装
 等概ね中樓に比すべく亦小町西施を愧しむる美人なきよ
 あらず揚代金五十錢より二十錢まであり一枚一本の御手
 輕で楚臺一夜の紅夢を買ひぬべく眞の愉快の却つて此小
 樓の遊びあらめと粹が遊びが中庭添ふて廊下を廻り肅然
 とした下坐敷途樞の障子引きあくれば例の次の間でお定
 りの火鉢よの鐵瓶の湯よく沸つてカラ、一ラン胡麻柄竹
 の茶棚よ不二見焼の急須茶碗錫の茶入よ茶托唐銅の水漏
 しに朱泥の水注水月の柄杓に鬱金の布巾尺切を四折おし

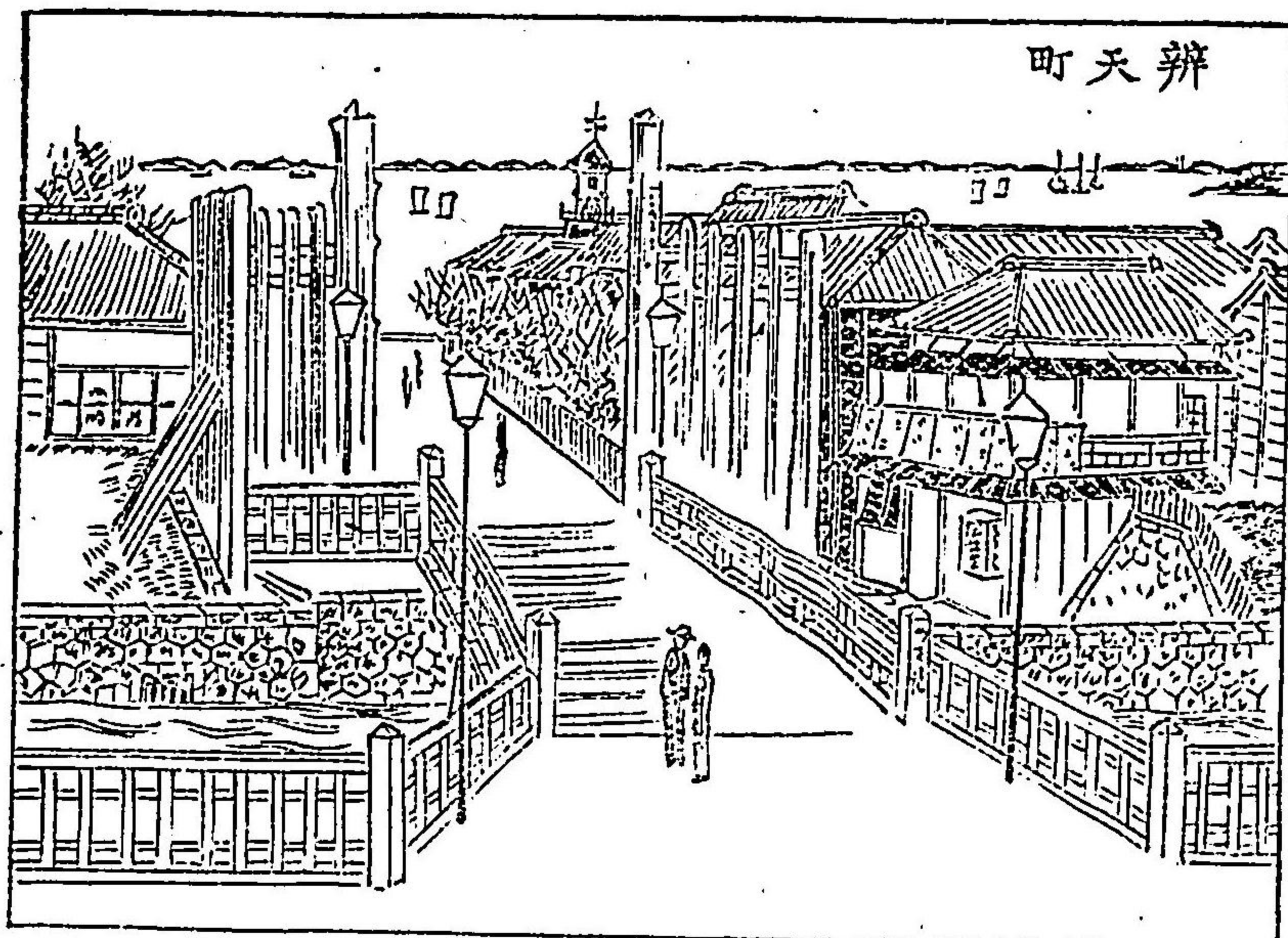
たるを添へたる側へお菓子道具綱代に組んだる女竹の炭
 取膳椀勝手物もありひあてるや片一方の夜具戸棚下よの
 簞笥前よ含漱器と含漱茶碗と手拭うけ坐敷の方をのぞく
 と衣桁にの立派よらん菊を縫ひたる裯袴を掛たり一間ば
 かりの床の間扁額の墨畫の山水軸の三洲先生の筆遠見よ
 の眞物お見たの酔眼う投挿の花の造りもの、蓄薇ナード
 下つて地袋にちがひ柳爰お碁盤に碁器月琴よ鏡お楊枝箱
 物たらぬ所はだんだら下りの蠅除だま床の間の隅よの衣
 箱中よ客人の衣服と羽織疊んだ帯まで入れたり梳櫛の何
 處よ行きしか見えす引廻したる六枚屏風の内の艶話の情
 濃りあらんと想像しつれども儘に聞とれざりきこれおて
 通常大抵の御一人七八十錢あり
 吉原お古例あり栽櫻燈籠踏舞を以て盛事とあす櫻の元と

三月を例とせししが今や曆書陰陽を異おし花の三月といへど花開りざりぬれば又三月を必とせざりし寛保年間も始まりしといふ其とき仲の町爛熳として雲とまがひ雪とみだれて繽紛たり蓋し繁昌を表するの一具あり日本堤畔暮烟練を引き秋葉山頭晚鴉巢も歸りつる頃より仲の町錦燈天を焼く真成も不夜城中如是我聞むかし角街萬字樓に玉菊とかんよべる名妓あり温良の質もて仁慈深けるが琴三味線をも善しぬるとて當時頗る全盛の名噪ぎたり惜むべし年二十五にして享保十一年遂に黄泉の客となりつれば其三年忌も及び仲の町の家々へて簷端も燈を掲げて其追福をあしたりこれ今の燈籠を點するの起因にして其後漸次も奢侈も傾き玉菊其人の靈を追弔すること何れ忘れたりしもの、如くおありて美麗を競ひ新奇を争ひ名工を

備ふて書を絹燈に寫し種々様々の物を燈籠に形ち作りて繁華を誇る具とありたり八月舞を仲の町も演す謂ゆる俄あるものとして享保年間九助郎稻荷の祭りも始るといへりされど今も全く祭りの意なく又繁昌を表す遊客を招くの具とあしぬ男にして女装あるものあり女おして男粧あるものあり日落ちて漸く燈火を點しぬるころより鼓聲起り絃聲湧き舞間妓はんまの舞をあす真成に一刻價千金といふべけれ是に於てり遊人日本堤の長きも厭はず夜の閑けるを知らず群集あしてける此他梅を栽る七草を植ゆることおれども觀また及むざるが如く繁昌も亦其時に若うざるべかりけれ此も略しぬ

州崎 洲崎の遊廓を辨天町といふ日本橋を距ること異一里ばかり過ぐる年間根津遊廓の引拂を命ずるやこの地を

町天辨



賜ふて其業を營むことを許したりこの地の洲崎町の沙洲よてありければ石をたみ土を盛り埋立工事を竣りて妓樓を造築し明治二十一年六月三十日根津より引き移りぬ廓の辨天の祠前より直路を通ずる數丁おして橋を架せり橋を渡れば吉原の謂ゆる大門あるものよして門より一直線南の方海お達する道を二十間道となす又吉原の仲の町の如し左方の

引手茶屋軒を連ね右方の數街衢ありて妓樓櫛比並列し純然の遊廓をなしぬ

此廓の曠昔根津と稱して上野公園の下にあり新吉原よ次げる繁昌の遊廓ありしが其始めて業を開きしに詳ならざりし其昔の下等妓樓のみにして其風習甚だ悪しく淫猥の餘風流れて良民の子女もこれを見習ふものあるに至りければ天保十三年幕府より其業を停止したりしうと世變り時移り明治維新となり先きに業を營むものをも更に官に請ひ許可を得て島原と共に妓樓を開ききたり妓樓のある所を八重垣町とよび根津神社の總門内もあり其後數年あらざるに島原の禁止の令ありしうとこの廓の明治廿一年六月まで妓樓百餘戸酒池肉林絃歌海を湧かしてける其當時の遊廓とよべるも其實然ることかく店前即ち格子

先に幕を張り板塀を設けて表より娼妓の見世張を遮り見えざらしむ品川新宿の宿驛と一般ありこれ其廓ならざるお因る今日より疇昔を懐へバ亦假りの營業場たるに過ぎざりし

妓樓の洲崎もあるもの百五戸娼妓千餘人吉原と同じく樓は大小あり娼妓も等差あり其大樓と稱するもの大八幡樓、新八幡樓、花屋、松葉樓、大松葉樓にして娼妓揚代金一圓乃至七十五錢あり樓の結構娼妓の服裝等吉原に比らばおバ一等を讓るが如く遊興の体裁および其資費の敢て異なることおし其中樓と稱するもの本金村樓、甲子樓等にして娼妓揚代金七十五錢より五十錢まであり其餘の諸樓は皆小樓あるものよて娼妓揚代金四十錢のものあり三十錢のものあり其最下等俗よんで局座とよべるものよ至りて

の二十錢のものあり樓の構造娼妓の衣服等も亦華美あらぬよし官お手輕様にはんのお端錢で撒痴の如何さま花魁がたのお座敷も皆おいて居りますと袂を引く妓夫が口車お乗りて遊興たらんに四五十錢にて一夜の春夢を試みるるべしといへ敢てお勸め申す譯よあらで其景狀を記すバウリあり抑も亦此廓は遊びて愉快あるの吉原の遠く及ばざるものあり吉原の地の田圃の間に夾てければ風致もあく眺望もあき眞の俗境ありしが此境の謂ゆる東京灣の沙洲を埋立てければ三面ともに總房相の海に瀕し遠望豁達風景絶佳なりつるに春の鹽干狩の遊びより遠く船を浮べて釣漁の樂みすべし夏の潮風襲ひ來りて避暑に宜しく秋おして涼氣至り三五の夜に會せば一空皓月千里の浮光金を躍し靜影壁を沈めてける或は冬おして北風來り

白雪しらゆき皚々たるや海上恰も一銀世界の如く萬望際まなざしかし此郷里に遊ぶもの夢覺めてこれに愛し寝ぬれば又美人を懐く此樂み此愉快の極りなき吉原の遠く及ばざる處からめと恍惚筆を執りてける

品川 品川娼樓昔時の繁昌はんしょう及びさりしも今尙五十餘戸娼妓八百餘人あり町の中央目黒川の南を俗呼んで橋向ふといふ下等娼樓のみ則ち其北の娼樓の上下相交りて簷のらを並べたり特に海岸に據りて樓を構ふ土藏相摸樓、岩槻樓、湊樓等此地の大樓あるものにして樓の結構娼妓の服裝等も美麗びんりあり娼妓揚代金五十錢より四十錢臺のもの酒等別に吉原と異りたるとあし大抵引手茶屋の案内にて登樓するを例とす又見世口より登樓することもあるべし謂ゆる直樓ちよくあるものあり此諸樓の吉原の大邸おほいせ中邸の如く見世

張りをあさす其他の諸樓の皆見世張をあすも素遊廓地すゆうがくちよあらざるが故に慕を張り或は板塀を設けて直ち見えぬやうやうあかしぬれば冷客ひやかくのもの殊更に其中に入りて一喫くといふ体裁ていざいよして娼妓の衣服もまた美麗とい稱したたさかり揚代金の三十錢より十五錢までとして極ごくお手輕てかろかれは五十錢にて足りぬべし藝妓も内藝者うちげいしやとよびて妓樓の内うちに同居どうきゆう客の招きお應じて三絃を弾き又舞踏まひもおどるあり其海岸の諸樓の風蘭露ふうらんろ簾れん東海蒼沙とうかいそうさの間に房總ぶどうの翠巒すいれんを眺め風景極めて佳よるが中に春の樓下に潮干狩うしほひの遊びをあすべし夏の潮風襲おそひ來りて暑を避くべく秋あきの又月に宜しく冬の雪ゆきお妙たかり故に往時より此境の繁昌しつるの遊べる客が只娼妓の情なさけを愛あづるばかりあらで一ひとの風月を賞しつるふありてあり其地東海道五十三次の初程はつしほにて具

の俗境ありしも風月の情も富める閑雅の處にてありき
 新宿 遊廓地あらざるも妓樓五十餘戸娼妓六百餘人其
 大樓といふの豊倉樓、大黒樓、中村樓等にして娼妓揚代金五
 十錢なり又引手茶屋ありて遊客の案内をなす樓の結構娼
 妓の衣服等も品川の大樓と零顔（ぜろがほ）頭（かぶ）べく其他の諸樓の皆小
 樓よて娼妓揚代金三十錢より二十錢までなり樓の結構娼
 妓の衣服等美麗からずして俗に宿場娼妓といふ風ある様
 に見受けらるべし其地甲州街道の首驛よしあれば一夜の
 宿に娼妓の情を買ふもの多かりと見えて繁昌おしぬ
 千住小塚原 千住と小塚原といふ一處の妓樓ある處にして
 四十餘戸娼妓四百餘人其内千住に屬する妓樓廿餘戸千住
 の俗よんで大千住といふ即ち千住町あり中田屋、辰巳屋、池
 田屋等の上等おして娼妓揚代金廿八錢なり小塚原の俗よ

んで小塚といふ地邊維新前までの梟首場にして石地藏の
 靈鬼の據り所祖師堂の魂魄の歸し所として常に念佛の聲
 珠木鉦の音絶えざる所ありしう嗜昔に變る今日の開化新
 た小町續きの市街をちして建て並びたる軒端の間に妓樓
 交りてけるもの十三戸海老屋、田中屋さんといへるの大千
 住にも優（ま）にするも劣（おと）のせぬものよて昔に聞きたる念佛の
 聲の甚句活惚の歌と變し珠木鉦の音の三絃の音と換りて
 晝夜絶えまなく娼妓が替す枕と情を賣りて最と繁昌の處
 にありにき此地の儘に半里ばかりありて吉原といへる東京
 第一の仙洞ありながら日と月お繁昌しぬるの縁の異おも
 の味おも相縁奇縁かの知らねども嫖客が誘引れたとの
 大虚よ自分から浮れ廓の吉原を通り抜け此お遊興しぬる
 の抑も亦不思議おちめうし聞がまにく記しぬれば此地

の嫖客のフンと匂ふ壯輩ばうりある處より娼妓もまた同
 ヒフンから鼻つまぬフンを愛にしつるが上にも浮れ廓
 の吉原を通り抜けして來よける嫖客の尙可愛と愛嬌たつ
 ふり情の海に引き入れて六曲屏裡の口説待遇も專賣から
 で特許めりしく妾が情夫の貴客ばうりと誰にも同じ艶語
 で厚遇しおせるとう其が上はんのお手輕で愉快たつより
 遊資端錢ありとて多錢以て興味少き吉原より寧ろ別嬪少
 きも少錢以て興味多き優れるお若うすと此は嫖客の來に
 けるにありとか
 板橋 此地の固より眞の田舎おておれば妓樓も亦華麗お
 らず娼妓の衣服も立派おらざりし故お揚代金の如きも二
 十錢以下おてありき然れば何となく娼妓が客を待遇し妓
 夫藝妓が客よ接するも質撲の風ありて酒肴の強請などお

さざるが如し偶々嫖客の中に並臺かひり臺と命トぬると
 さの娼妓が箸を下し捨かずおバさん喜助とんと無暗に坐
 敷よよびつれてお酒お肴とパツつかしむるの歡心せぬと
 か亦少錢以て愉快を買ふの消魂場あり

妓 叢

柳橋 都人の藝妓を説く首として柳橋を推しぬるの古來
 より狹斜の名境なるが故おらめ且地江流に枕みてければ
 納涼も觀月も皆佳ならざるなく畫舫の往來するもの珠箔
 の參差たるもの治遊の情趣を助るに足るものあり流石お
 此地の妓流の世俗の謂ゆる神田上水を飲みぬれば江戸兒
 の氣象も富み其粧ひも亦淡よして趣きあり意氣爽にして
 媚びざるの往昔深川の餘風を存してか其數も亦少なく絶
 美極艶の尤物おらざるも凡々婢女と一般の賤妓おるおし

これが雛妓たるものも亦能く若妓あからひて泰然輕躁な
 らで務めて老成のおもむきを粧ひぬるが故已に一本立と
 ありよしときい争ふて牛後を避け技を競ひ才を銜ひ音頭
 うら鹿兒島踊まで他の花柳郷裏に先んじ後れて制せらる
 へを耻するの氣性を存し頗る豪爽あるの習慣あらめかしと
 て意氣の投合ざるものには假令數万のお金を積みたどて
 錦帯を解うず然れば其意氣の投合ぬるものには自ら用事
 を辨じて遊ぶを厭はず粹を通すが常あり兎も角色情兼備
 して且媚術伎倆の巧あると關東の氣象をおどさず昔時江
 戸のおもむきを存するものは東京三千の歌妓中唯り柳橋
 妓あるのみ

新橋 世人また歌妓といへば柳橋と共に新橋を推しぬ新
 橋の地ある一帯の濁氷道を劃するに過ぎざりければ觀か

く趣きあきの俗境ならめかし然れど其南北藝妓の籍をか
 ぐるもの無慮三百バウリ實ふて盛んのことか新橋藝
 妓の舊金春藝妓とよびつるの幕府の能師金春太夫の賜地
 に住てけるが故にして其ころの微々振らずも大層なれど
 空しく歳月を經過けるに明治の聖世とあり俄お恩波延て
 那等の地位におよぼし遂よ今日ので盛んどありて柳橋と
 共よ推さるゝに至りまた此地妓流の貴族紳士の寵澤を受
 け翫々裘馬の影日夕斷えず櫻桃梅柳の一枝を折らばやと
 常よ遊杖を此境よ曳き豪を闘ひし華をてらふが故繁昌轉
 た繁昌よおもむき都下第一の烟華を表するの處といあり
 あき此地妓流の多き其種類も一様あらず高尙よりまへて
 静閑ある宴席を好むあり駄洒落を吐き馬鹿口をたゝき客
 をして閉口降伏せしむるあり客の誰たるを聞きざるは尻

を重くして出かけざるものありアラ娯戯あまたお負で
 げすなごとの口説を吐くを好むものあり矢鱈又岡惚して
 浮名を流したがるものあり圓助頂戴を口癖にするものあ
 り三絃匣中又双枕と入れて往來したかるものあり酒樓の
 別室又ナヨン春を嚮くを習慣とあすものあり就中この習
 慣の輕姚冶客を誘して慾界の仙窟が繁昌しぬる所以とこ
 そ想ひつれしも却て一笑城を傾むくものよ乏しきの抑も
 又何ぞやこれ他なし客お伯樂ありて其良又逢ふごとと又輒
 ちこれを抜き去らるゝ故ありし
 よし町 元大坂町、住吉町、濱町三丁よ住める歌妓を總稱して
 葎町の歌妓とよふ葎町の舊歌妓の本色たる地あらざりし
 かと往昔堺町、葎屋町に劇場のありしとき演劇見物の客に
 侍りてける其後蜘蛛売町よ米商會社てふものゝ設立ありて

より以來今朝の素寒貧夕お陶朱あらぬも僥倖の富を得て
 ける所うらこの輩が謂ゆる浮雲か濡手で粟のつりみ錢を
 涙り又抛ちて快遊又妓を招きぬるよりこの地又妓藉を掲
 ぐるもの頼に増加して遂に綺羅叢をあしつゝ今日の繁昌
 となり一の烟華場を現出してけるあり然ればこの地の妓
 流の盛衰の全く米商會社の盛衰又つれて其聲價にも騰降
 あるの恰も米相場の如し其妓風のどうかといへば洋畫の
 菓物を見るが如しとこれ花にしての香かく實おしての味
 あき故あらめこれ此地の妓風にしあれば貨泉を視ること
 業土の如く意氣を以て任ずる米商に馴るがゆゑ粧ひの淡
 乎と意の毫爽あるは稍取るべきに似たり葎町紅裙のため
 に願しきは其姿様と意氣とを以て米商會所の興廢又任せ
 で飽まで葎町の葎町の維持を堅くし機に投トて出沒して

けるきうらんことをこそ
 日本橋 東京の中央あり繁昌中の繁昌地あり又綺羅の
 淵叢たり花柳場たり橋北に駿河町、品川町、橋南に稻荷新道、
 元大工町、敷寄屋町、左内町あり歌妓集窟をしてける義侠自
 ら任じ豪爽人に譲らざる日本橋魚河岸健兒の氣象なら
 めこれと往來しつゝ、歡飲の席に侍べりぬる日本橋藝妓
 の義侠あらめされば其性の輕躁行ひの浮薄ある言でも
 知りぬべし好んで淡粧ををし抹脂樟袖の習慣とあさいり
 しこの地の有繫に東京の中央にしあれば富商大買多くこ
 れに仕ふる主宰手代等が帳尻騙して僅かの間をぬすみ歌
 妓を招きて愉快を盡してけるがため歌妓も亦これ等の
 人を騙して化粧の料とあしぬると天録の如く妄信しつる
 處より良心もこれに蔽はれて朝散暮集をあすも餘義あさ

次第あらめかし抑も又この地の妓流の商賈職工等に適切
 にしわれは苟くも妓に愛せられたらんに粹士でも僧父
 でも商賣といひ愛嬌でこねて世辭で丸めて面白可笑の
 遊びをあさせてける
 下谷 敷寄屋町、同朋町どもに歌妓の淵叢なり維新の其昔
 の柳橋の次位し他の紅裙隊に長として其風半ばの柳橋
 の瀟洒を取り半ばの新橋の華麗を似せてければ洒落も流
 れず華麗も陥らず粹でよま不粹でよしといふ歌妓あらめ
 其瀟洒ある日夕赴く所の酒樓公園の山に接し不忍池も
 臨み春も宜しく夏も宜しく秋冬また憐むべきの状を具へ
 てけるが故謂ゆる山水靈ある所人また秀あるが故あり其
 粧ひの華麗あると且遊行あるの斯地に遊べる客の定まら
 ざるがため人馴れての事なるべし然れどもまた江戸藝者の

藝者たる見識を存して義侠自ら任ずるの氣風あるの最と
 好ましかりき
 講武所 此地の萬世橋外の神田旅籠町にして歌妓多く住
 してければ講武所藝者どよびぬ其講武所とよべるの文久
 年間幕府が水道橋内へ設立せし講武所を廣むるよあたり
 其近接の町家を没してこの地を換へて與ふる所より俚俗
 講武所とよびあへるみ起因てける其歌妓のはじめて此よ
 現れしに地ふ演劇を開くものありて見物の客が酒席の興
 に需めぬるより移り來て三絃の世渡りをあすものありて
 ける此地妓流に技よ巧なるものあく又姿色絶倫あらぬも
 艶麗岡惚すべき面相のもの少く然りとて性質の穎悟
 ものなく一舌鋒よ鋭きものもあく只姑息のみ安んず
 るの風習の染みてけるの抑も亦土地柄あらめかしも氣輕

にして意の措く所あき神田兒の氣象あるにや然れば田
 舎のものが東京見物の餘興に東京藝者の一つも買つて土
 産にあすに此地の歌妓こそよからめどの思ひつる
 牛込 神樂町肴町又歌妓巢窟してければ神樂坂藝者また
 牛込藝者とよびて一の柳巷なり此地の明治のはじめつこ
 る旗下の邸地を開らきて市街とあしぬるより關西の健兒
 が江戸奇らしく遊びてけるがまゝ又楊弓場の娘又戯れ時
 として携へて酒樓に飲むの興なと助けさせ無聊を慰むる
 どのほんの表面にて其實の接戦を挑みて歡樂愉快を盡し
 ぬる所より何時となく旗亭のあひだに藝者屋顯はれてけ
 る爾の後歲月の久しき遂に一畑華場をあすみ至りたり其
 妓流を評したらんおの義侠の氣象あく唯濃と白粉を塗り
 て首を白くし尻を軽くし客をして沈溺泥の如くあらしむ

る術策を妓の本分とあしぬれば勘甚の藝技に至りては拙劣く尻狐釋迦甚句骨惚の三味線を弾うで叩くも過ぎざりしうと此妓を招きて遊べる客の亦歡びて圓助の纏頭を投するを吝さりしとか其姿品絶艶とまで至らぬも風丰瀟洒笑靨嫣然人をして一見和樂の氣を覺えまむるものゝ如き折花艶戰の愛招を受くるがためうお坐敷も引きもきらざる程の繁昌をあしぬと聞き合へり

赤坂 田町に住める藝妓をよびて赤坂藝者といふ一の柳巷あり赤坂お嬌婉校書のありしに已久しかりきも其繁昌を致せしは維新このかたの事あらめ抑も又今日の繁昌の即ち維新より紫衣の人この地の四面お來りて住居てければ其人々皆都珍しく遊びを試み艶戰を挑みけるより土着の妓流ばうりにての敵しぐたさを知り朝集暮散の鳥合

兵否妓流集り來りて終に一の綺羅城を築き肉壘を高くし紅溝は深くして陣營をまもるの紅裙隊を組織してける是に於て銃鋒を磨ぎすませる英雄が各々先を争ふて進撃し短兵もて艶戰なす又兵鋒の向ふ所皆おびかざるあきより數々戰ひて圓幣のふめ和睦をもとめ往來を開くの手練手熟よまんまど陥るもの日に月に多かりければ遂に赤坂絃妓が應來を以て目的とあすの根底とありたりこれ他あし斯の地お遊べる人の皆嘗て和睦を講ト其れがため技倆あられれ今日の榮貴よあられし方々よしあれバあり一話柄を聞きたり新橋に裘馬を馳せ非時の花に戯れ巫山に夢遊し一夕の情味を嘗たらんよの憐むべし敷日を出でずして公債と月俸とを併せて一夕の夢お化し去り數年の勤勞空しく水泡に屬しつらん故お歩を此お移して其廉且速う